
令和元年度 事業報告書

社会福祉法人 鹿児島県社会福祉協議会

目 次

令和元年度事業実施概要	1
事業報告	
Ⅰ 会務の運営並びに連絡調整等	3
Ⅱ 地域福祉活動の推進	9
Ⅲ ボランティア活動の促進	19
Ⅳ 福祉相談活動の推進	30
Ⅴ 社会福祉施設・団体等の活動促進及びすこやか基金による活動助成等	31
Ⅵ 福祉サービスの利用支援及び苦情解決の推進	36
Ⅶ 福祉人材の養成・確保	45
Ⅷ 介護実習・普及センターの運営	61
Ⅸ 生活福祉資金貸付事業の推進	70
Ⅹ すこやか長寿社会づくり運動の推進	75
Ⅺ 県社会福祉センターの管理・運営	79
Ⅻ 地域医療介護総合確保基金事業の推進	80

令和元年度事業実施概要

社会福祉を取り巻く環境は、市町村を基盤とした地域福祉の推進が図られる一方で、急速な少子高齢化などに伴う地域社会の変容や社会的孤立、制度の狭間の問題などの顕在化、人口減少問題が深刻化する中で困難さを増す介護人材の確保など対応すべき多くの課題があります。

こうした中、国においては、制度・分野の枠や従来の関係を超えて、人と人、人と社会がつながり一人ひとりが生きがいや役割をもち、助け合いながら暮らしていくことのできる「地域共生社会」の実現に向けて、地域住民のニーズに対応する包括的な支援体制の構築や携わる専門職等の支援の質を担保するための人材育成等、福祉政策への新たなアプローチが進められています。

地域福祉の中核的推進組織である県社協は、複合化・複雑化してきた福祉ニーズに的確に応えるために、令和元年度の基本目標を次のとおり定め、県の新たな受託事業等も積極的に取り入れながら地域福祉の推進に全力を傾注してまいりました。

この中で、具体的な事業としては、地域でシニア人材を育成し活用するためのノウハウを提供するかごしまシニア人材育成活用事業の実施や共同募金配分金を財源としたこどもイキイキ地域つながりプロジェクト事業における不登校児やひきこもり支援に関する取り組みなど、市町村社協等における地域福祉活動の充実・強化を図りました。

また、地域医療介護総合確保基金を活用した福祉・介護人材確保事業や元気高齢者等介護職場インターンシップ事業等による福祉人材の確保に努めるとともに、外国人介護人材受入支援事業による技能実習生等に対する集合研修や介護未経験者を対象とした介護の入門的研修事業の実施など多様な人材の参入促進を図るための取り組みを進めました。

生活福祉資金貸付事業においては、関係機関団体等と連携を図りながら的確な運用と債権管理等について取り組みを進めるとともに、新型コロナウイルス感染症の影響により収入減少や失業した方等を対象に緊急小口資金等の特例貸付を開始しました。

さらに、社会福祉法人の信頼の確立や経営力強化等の観点から、社会福祉法人制度改革により一定規模を超える法人において会計監査人による監査が義務づけられたことに伴い、会計監査人を設置し、ガバナンスの強化及び財務規律の強化に努めました。

基本目標

- 1 地域福祉活動の推進
 - (1) 生活困窮者自立支援制度への適切な対応
 - (2) 社会的孤立等に対応する地域支援基盤づくりの推進
 - (3) 福祉サービスの利用支援及び苦情解決の推進
 - (4) 生活福祉資金貸付事業の的確な運用と債権管理の推進
- 2 福祉人材の養成・確保の強化
 - (1) 障害福祉人材育成事業の推進
 - (2) 介護人材の確保・定着促進
- 3 社会福祉諸制度改革への適切な対応と関係機関・団体との連携

事業報告

I 会務の運営並びに連絡調整等			
1	役員会等の開催	所管部署	総務部
	令和元年度事業計画	事業実施概要等	
		具体的成果等	
(1)	理事会の開催 4回 (6月①, 6月②, 11月, 3月)	<p>① 第202回理事会（令和元年度第1回） 〈日時〉 令和元年6月3日(月) 午前10時30分～ 〈場所〉 鹿児島県社会福祉センター 7階 第2会議室 〈上程議案〉 第1号議案 平成30年度事業報告について 第2号議案 平成30年度一般会計及び生活福祉資金会計決算について 第3号議案 理事及び監事候補者の選定について 第4号議案 評議員候補者の選定及び評議員選任・解任委員会の開催について 第5号議案 令和元年度定時評議員会の招集について 報告第1号 専決処分の報告について 専第1号 県社会福祉センター空調設備改修工事請負契約の件 専第2号 監事監査規程制定の件 報告第2号 会計監査人監査候補者による予備調査の結果等について 報告第3号 平成30年度福祉サービス運営適正化委員会業務報告について</p> <p>② 第203回理事会（令和元年度第2回） 〈日時〉 令和元年6月21日(金) 午後1時00分～ 〈上程議案〉 第1号議案 会長、副会長及び常務理事の選定について 第2号議案 会計監査人の報酬について</p> <p>③ 第204回理事会（書面決議） 〈日時〉 令和元年10月18日(金) 〈上程議案〉 第1号議案 理事候補者1名の選定について 第2号議案 評議員会の招集事項について</p> <p>④ 第205回理事会（令和元年度第4回） 〈日時〉 令和元年11月19日(火) 午前10時30分～</p>	
		<p>本会の経営に重要な事業計画、予算、役員等改選及び諸規程等改正の審議のため、適宜理事会・評議員会を開催し、効率的かつ適正・確実な法人経営が図られた。</p>	

	<p>〈場 所〉 鹿児島県社会福祉センター 7階 第2会議室</p> <p>〈上程議案〉</p> <p>第1号議案 副会長1名の選定について</p> <p>第2号議案 役員及び評議員等の報酬に関する規程の一部改正について</p> <p>第3号議案 第184回評議員会の招集について</p> <p>報告第1号 令和元年度上半期事業進捗状況・実績及び一般会計・生活福祉資金会計中間決算並びに監事監査の報告について</p> <p>報告第2号 専決処分等の報告について</p> <p>専第1号 令和元年度事業計画の変更（追加）及び一般会計第1次資金収支補正予算の件</p> <p>そ の 他 会長及び常務理事の職務執行状況報告について</p> <p>⑤ 第206回理事会（令和元年度第5回）</p> <p>〈日 時〉 令和2年3月19日(木) 午後1時30分～</p> <p>〈場 所〉 鹿児島県社会福祉センター 7階 第2会議室</p> <p>〈上程議案〉</p> <p>第1号議案 令和元年度一般会計及び生活福祉資金会計資金収支補正予算（案）について</p> <p>第2号議案 令和2年度事業計画（案）について</p> <p>第3号議案 令和2年度一般会計及び生活福祉資金会計資金収支予算（案）について</p> <p>第4号議案 理事候補者の選定について</p> <p>第5号議案 評議員候補者の選定及び評議員選任・解任委員会の開催について</p> <p>第6号議案 情報公開規程の制定について</p> <p>第7号議案 職員給与規程の一部改正について</p> <p>第8号議案 県社会福祉センター設置管理規程の一部改正について</p> <p>第9号議案 第185回評議員会の招集について</p> <p>そ の 他 会長及び常務理事の職務執行状況の報告について</p>	
<p>(2) 評議員会の開催 3回（6月，11月，3月）</p>	<p>① 第182回評議員会（定時評議員会）</p> <p>〈日 時〉 令和元年6月21日(金) 午前10時30分～</p> <p>〈場 所〉 鹿児島県社会福祉センター 7階 大会議室</p> <p>〈上程議案〉</p> <p>第1号議案 平成30年度事業報告について</p>	

1	役員会等の開催	所管部署	総務部
	令和元年度事業計画	事業実施概要等	
		具体的成果等	
	<p>第2号議案 平成30年度一般会計及び生活福祉資金会計決算について</p> <p>第3号議案 理事及び監事の選任について</p> <p>第4号議案 会計監査人の選任について</p> <p>報告第1号 県社会福祉センター空調設備改修工事請負契約について</p> <p>報告第2号 監事監査規程の制定について</p> <p>② 第183回評議員会（書面決議） 〈日 時〉 令和元年10月29日(火) 〈上程議案〉 第1号議案 理事1名の選任について</p> <p>③ 第184階評議員会（令和元年度第3回） 〈日 時〉 令和元年11月28日(木) 午前10時30分～ 〈場 所〉 鹿児島県社会福祉センター 7階 大会議室 〈上程議案〉 第1号議案 役員及び評議員等の報酬等に関する規程の一部改正について</p> <p>報告第1号 令和元年度上半期事業進捗状況・実績及び一般会計・生活福祉資金会計中間決算並びに監事監査の報告について</p> <p>報告第2号 専決処分の報告について</p> <p>専第1号 令和元年度事業計画の変更（追加）及び一般会計第1次資金収支補正予算の件</p> <p>④ 第185回評議員会（令和元年度第4回） 〈日 時〉 令和2年3月24日(火) 午前10時30分～ 〈場 所〉 鹿児島県社会福祉センター 7階 大会議室 〈上程議案〉 第1号議案 令和元年度一般会計及び生活福祉資金会計資金収支補正予算（案）について</p> <p>第2号議案 令和2年度事業計画（案）について</p> <p>第3号議案 令和2年度一般会計及び生活福祉資金会計資金収支予算（案）について</p>		

	<p>第4号議案 理事の選任について 報告第1号 情報公開規程制定の件 報告第2号 職員給与規程一部改正の件 報告第3号 県社会福祉センター設置管理規程一部改正の件</p>	
<p>(3) 監事会の開催 2回 (5月, 11月)</p>	<p>① 令和元年度第1回監事会 〈日 時〉 令和元年5月21日(火) 午前10時30分～ 〈場 所〉 鹿児島県社会福祉センター 7階 第3会議室 〈協議事項〉 ・ 監事監査規程の制定について ・ 予備監査の結果報告及び会計監査人選任議案の内容について ・ 会計監査人の報酬に関する同意について ・ 監事選任議案に関する同意について 〈監査事項〉 ・ 平成30年度事業実施報告, 平成30年度一般会計及び生活福祉資金会計決算について ・ 財務諸表及び証拠書類等の監査 ・ 監査結果の講評</p> <p>② 令和元年度第2回監事会 〈日 時〉 令和元年11月14日(木) 午前10時30分～ 〈場 所〉 鹿児島県社会福祉センター 7階 第2会議室 〈監査事項〉 ・ 令和元年度上半期事業進捗状況・実績及び一般会計・生活福祉資金会計中間決算について ・ 財務諸表及び証拠書類等の監査 ・ 監査結果の講評</p>	<p>当初の予定どおり平成30年度の監査並びに令和元年度上半期の監査を行い、適正に処理されていることが認められた。また、上半期の事業実施状況及び中間決算を行うことで、下半期の事業を効果的かつ効率的に実施できた。</p>
<p>(4) 正副会長会の開催</p>	<p>上記役員会のほか円滑な法人運営を図るため、令和2年3月13日(金)に県社会福祉センターにおいて正副会長会を開催し、第206回(令和元年度第5回)理事会等の議案等について協議を行った。</p>	
<p>(5) 評議員選任・解任委員会の開催</p>	<p>① 令和元年度第1回評議員選任・解任委員会 〈日 時〉 令和元年6月5日(水) 午前10時00分～ 〈場 所〉 鹿児島県社会福祉センター 7階 第2会議室 〈審議事項〉 社会福祉法人鹿児島県社会福祉協議会評議員の選任について(6名辞任に伴う後任の選任)</p> <p>② 令和元年度第2回評議員選任・解任委員会 〈日 時〉 令和2年3月19日(木) 午後15時30分～</p>	

1 役員会等の開催	事業実施概要等	所管部署	総務部
令和元年度事業計画	事業実施概要等	具体的成果等	
	<p>〈場 所〉 鹿児島県社会福祉センター 7階 第3会議室 〈審議事項〉 社会福祉法人鹿児島県社会福祉協議会評議員の選任について（1名辞任に伴う後任の選任）</p>		
2 関係機関・団体との連絡調整		所管部署	総務部ほか関係部所
<p>(1) 市町村社会福祉協議会，種別協議会との連絡調整</p>	<p>① 市町村社会福祉協議会会長及び事務局長会議の開催 〈日 時〉 平成31年4月24日(水) 午後1時～ 〈場 所〉 県青少年会館 1階 大ホール 〈内 容〉 ・県社協組織改正説明 ・平成31年度県社協事業概要説明 ・県社協各部所連絡事項 〈参加者数〉 83人 ② その他 種別協議会が実施する研修会，大会等に出席し，社会福祉の新たな動向等についての説明や現状・課題等の説明及び各種別協議会活動支援のための研修費等の助成や後援等を行った。</p>		<p>市町村社協が地域福祉活動を推進していくにあたり，的確に対応するための取組や課題の共有化を図ることができ，今後の社協事業展開のヒントと役職員の意識向上につながった。</p>
<p>(2) 社会福祉，保健衛生，社会教育など関係機関・団体との連絡調整</p>	<p>① 県社会福祉審議会委員など国・県，社会福祉法人及び保健医療福祉関係諸団体等の役員や委員等に就任し，県社会福祉協議会として積極的に参画した。 ② 「小さな親切」運動県本部との協定に基づき，同本部の大会や研修会の開催，運営等の業務支援を行った。 ③ そのほか，市町村社協とも密接な関係を有する県共同募金会及び日本赤十字社鹿児島県支部とも連絡調整・連携を図った。</p>		
<p>(3) 全国社会福祉協議会，九州社会福祉協議会連合会等関係会議への参加等</p>	<p>① 全国社会福祉協議会の評議員，各種委員会委員及び九州社会福祉協議会連合会理事等に就任し，各評議員会及び理事会等に積極的に出席した。 ② 本会の運営及び市町村社会福祉協議会等の指導助言等に資するため，全国社会福祉協議会及び九州社会福祉協議会連合会主催の会議・研修会等に参加した。 ③ そのほか，大規模災害の発生に備え，九州ブロック災害時相互応援協定に基づく各種連絡窓口等の調整等を行った。</p>		<p>全社協及び九州ブロックの会議や研修会等で中央情勢等の情報や九州各県の取組等の情報交換により，種々の課題解決等につながることができた。</p>

<p>(4) 韓国 全羅北道社会福祉協議会との交流</p>	<p>① 全羅北道任実郡社会福祉協議会役職員からの施設訪問研修依頼があり、本会事業等の説明や受入に係る連絡調整を行った。 〈訪問人数〉 25人 〈訪問期間〉 令和元年6月16日(日)～19日(水) 〈受入先〉 鹿児島県社会福祉センター 鹿児島県介護実習・普及センター 社会福祉法人慶生会（パソ中山複合福祉施設）</p> <p>② 姉妹盟約及び平成27年度の交流再開合意に基づく全羅北道社会福祉協議会公式訪問の受入れを行う予定であったが、国内外の情勢等により交流事業の実施を保留することとなった。</p>	<p>県内福祉施設と全羅北道内の社会福祉関係者の交流促進に資することができた。 全羅北道社会福祉協議会からの公式訪問の受入に係る連絡調整を行ったが、訪問が保留されることになった。</p>										
<p>3 自主財源の確保</p>		<p>所管部署 総務部ほか関係部所</p>										
<p>図書等の販売や斡旋</p>	<p>社会福祉に関する書籍等や帳簿類の販売・斡旋を行い、自主財源の確保に努めた。 〈書籍等販売・斡旋〉 (1) 民生委員・社会福祉手帳 (2) ボランティアTシャツ等 (3) 市町村社協帳簿用紙 (4) 介護体験ノート (5) 地域見守りネットワーク冊子 (6) 全社協等外部発行図書 (7) その他自動車保険・がん保険等の団体加入</p>	<p>書籍等販売・斡旋を通じて、社会福祉関係者等への福祉関連書籍等を円滑に提供できた。</p>										
<p>4 広報活動等の推進</p>		<p>所管部署 総務部</p>										
<p>(1) 広報紙「ふくしのひろば」の発行 ア 発行回数：年6回(奇数月発行) イ 発行部数：13,700部/1回あたり</p>	<p>県民の福祉への関心と理解を深めるため、広報紙「ふくしのひろば」を発行し、福祉関係情報を提供した。 〈発行回数等〉 年6回(奇数月の1日) 〈発行部数〉 各回13,700部(12ページ/1部あたり) 〈配布先〉 市町村,市町村社協,民生委員,社会福祉施設,小・中・高校,警察署,病院,金融機関ほか県内外関係機関・団体等</p>	<p>当初の予定どおり定期的に発行し、福祉関係者のみならず幅広い県民への広報に資することができた。</p>										
<p>(2) 本会ホームページの運営 (URL http://www.kaken-shakyo.jp/)</p>	<p>本会ホームページを通して、実施事業等の案内、保健福祉に関する情報等の提供に努めた。</p> <table border="1" data-bbox="651 1305 1565 1401"> <thead> <tr> <th></th> <th>R元実績</th> <th>H30実績</th> <th colspan="2">対前年度比(件数及び割合)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>アクセス件数</td> <td>70,014</td> <td>75,599</td> <td>△5,585</td> <td>92.6%</td> </tr> </tbody> </table>		R元実績	H30実績	対前年度比(件数及び割合)		アクセス件数	70,014	75,599	△5,585	92.6%	<p>福祉関係者を含む一般県民等幅広い閲覧者に対して、社協活動への理解促進につながった。</p>
	R元実績	H30実績	対前年度比(件数及び割合)									
アクセス件数	70,014	75,599	△5,585	92.6%								

II 地域福祉活動の推進		所管部署	地域福祉部
1	地域福祉推進支援事業		
令和元年度事業計画		事業実施概要等	
		具体的成果等	
(1) 地域福祉推進支援事業 ア 巡回指導及び研修会への職員派遣	在宅福祉サービス・地域福祉活動展開についての実施手法の指導や近隣保健福祉ネットワーク、社協運営等について、訪問及び研修会等での指導援助を行った。 市町村社協巡回指導数：19回 研修会等への指導：10回（市町村社協等）	市町村社協ほか関係機関等に積極的に出向き、福祉活動の支援に資することができた。	
イ 市町村社協等への情報提供	① 地域福祉の分野で先駆的な活動として取り組まれている県内外の有益な情報を収集し、県下の地域福祉関係者に情報発信するとともに市町村で開催された在宅福祉アドバイザー等の研修会に反映させた。 ② 県内の地域福祉の一層の推進に資するため、県内外の先進的な地域福祉の取組事例や関連情報を収集・整理し、市町村社協等に情報提供を行った。57回（文書、ファックス、メール）	最新情報等を迅速に提供することで、市町村社協運営に関する情報共有につながった。	
ウ コミュニティワーカー研修会の実施（2コース） 〔計画していた内容〕	地域福祉に関わる人材の資質・技能等の向上を図るための研修会を企画したが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点により中止した。		
コース	基礎コース	実践コース	
開催日	令和2年3月9日(月)	令和2年3月10日(火)	
会場	県社会福祉センター別館	県社会福祉センター別館	
参加者	22人（予定）	22人（予定）	
内容	〈講義・演習〉 地域で暮らす一人を大切に 個別支援を考える 〈講師〉 同志社大学社会学部 教授 空閑 浩人 氏	〈講義・演習〉 地域で暮らす一人が大切にされる 地域づくり・地域支援を考える 〈講師〉 同志社大学社会学部 教授 空閑 浩人 氏	

<p>(2) 福祉コミュニティづくり事業 ア あんしん・安全ネットワークセミナーの開催 (1回)</p>	<p>公的サービスや見守り、サロン活動だけでは対応できない地域住民の多様な生活課題に対応し、「誰もがあんしんで安全な生活を送れる地域社会」を作るという視点から、“地域づくり”についての県内の先駆的な事例を参考に、地域課題や生活課題への対応や地域の変化、住民の巻き込み方を学ぶことを目的に開催した。</p> <table border="1" data-bbox="712 379 1852 783"> <tr> <td>開催日・会場</td> <td>令和元年7月25日(木) 阿久根市民交流センター 風テラスあくね</td> </tr> <tr> <td>参加者</td> <td>384人</td> </tr> <tr> <td>内容</td> <td> (1) 開会挨拶, 来賓挨拶 (2) 講話「口から始める健康」 (3) パネルディスカッション(実践報告) コーディネーター: 鹿児島県社会福祉協議会 地域福祉部 パネリスト: 阿久根市 歌声喫茶 榎園すま子氏 さつま町 西町ささえあい隊 藤田進氏 日置市 平古自治会 倉崎浩二氏 </td> </tr> </table>	開催日・会場	令和元年7月25日(木) 阿久根市民交流センター 風テラスあくね	参加者	384人	内容	(1) 開会挨拶, 来賓挨拶 (2) 講話「口から始める健康」 (3) パネルディスカッション(実践報告) コーディネーター: 鹿児島県社会福祉協議会 地域福祉部 パネリスト: 阿久根市 歌声喫茶 榎園すま子氏 さつま町 西町ささえあい隊 藤田進氏 日置市 平古自治会 倉崎浩二氏	<p>小地域ネットワーク活動における地域課題の把握や対応策等を共有することができた。また、地域で実施することで地域に密着でき、多くの住民参加を得ることができた。</p>
開催日・会場	令和元年7月25日(木) 阿久根市民交流センター 風テラスあくね							
参加者	384人							
内容	(1) 開会挨拶, 来賓挨拶 (2) 講話「口から始める健康」 (3) パネルディスカッション(実践報告) コーディネーター: 鹿児島県社会福祉協議会 地域福祉部 パネリスト: 阿久根市 歌声喫茶 榎園すま子氏 さつま町 西町ささえあい隊 藤田進氏 日置市 平古自治会 倉崎浩二氏							
<p>イ サロン活動研究集会の開催 (1回)</p>	<p>サロン活動を支援する関係者の資質向上、情報交換の場を提供することを通し、更なるサロン活動の一層の普及・定着を図ることを目的に、「ふれあい・いきいきサロン研究集会inかごしま」を開催した。</p> <p>〈期 日〉 令和2年2月18日(火) 〈会 場〉 かがしま県民交流センター 2階 大ホール他 〈参加者〉 204人 〈内 容〉 (1) 全体会 基調講話「県内におけるサロンの活動状況」 実践報告 霧島市 子育てサロン「すももクラブ」 垂水市 子育てサロン「たんぽぽくらぶ」 (2) 分科会 【第1分科会】 子育てサロンいどばた会議 【第2分科会】 絵本講座 【第3分科会】 子どもの食育講座 【第4分科会】 親子ふれあいあそび講座</p>	<p>サロン関係者の情報共有とレクリエーションなどの技能向上につながり、県内のサロン支援における民間ボランティア等のインフォーマルな活動への支援につながった。</p>						

2 県社会福祉協議会会長表彰事業の実施	事業実施概要等	所管部署	地域福祉部																		
令和元年度事業計画	事業実施概要等	具体的成果等																			
<p>県社会福祉協議会会長表彰事業の実施（地域福祉推進大会で表彰）</p>	<p>永年，社会福祉の向上に貢献された個人と団体を表彰し，本県における社会福祉の一層の向上を図った。 なお，表彰は「地域福祉推進大会」において行った。</p> <p>〈表彰〉</p> <table border="0"> <tr> <td>① 民生委員児童委員</td> <td>31人</td> </tr> <tr> <td>② ホームヘルパー</td> <td>19人</td> </tr> <tr> <td>③ 相談員</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>④ 社会福祉施設の長及び職員</td> <td>79人</td> </tr> <tr> <td>⑤ 社会福祉事業関係団体の役職員</td> <td>34人</td> </tr> <tr> <td>⑥ 社会福祉事業関係団体</td> <td>5団体</td> </tr> <tr> <td>⑦ ボランティア個人</td> <td>13人</td> </tr> <tr> <td>⑧ ボランティアグループ・団体</td> <td>9団体</td> </tr> <tr> <td>⑨ 社会福祉の向上に功績のあった者</td> <td>1人</td> </tr> </table> <p style="text-align: right;">合計（177人，14団体）</p> <p>〈審査会〉 令和元年8月23日（金）開催</p>	① 民生委員児童委員	31人	② ホームヘルパー	19人	③ 相談員	0人	④ 社会福祉施設の長及び職員	79人	⑤ 社会福祉事業関係団体の役職員	34人	⑥ 社会福祉事業関係団体	5団体	⑦ ボランティア個人	13人	⑧ ボランティアグループ・団体	9団体	⑨ 社会福祉の向上に功績のあった者	1人	<p>全体では前年度比45%であり，民生委員・児童委員の推薦が対前年度比14%（190人減），社会福祉施設の長及び職員の推薦が対前年度比69%（34人減）となった。</p> <p>表彰は，永年にわたり社会福祉の充実発展に尽力された多くの福祉関係者の励みとなっている。</p>	
① 民生委員児童委員	31人																				
② ホームヘルパー	19人																				
③ 相談員	0人																				
④ 社会福祉施設の長及び職員	79人																				
⑤ 社会福祉事業関係団体の役職員	34人																				
⑥ 社会福祉事業関係団体	5団体																				
⑦ ボランティア個人	13人																				
⑧ ボランティアグループ・団体	9団体																				
⑨ 社会福祉の向上に功績のあった者	1人																				
3 制度改正等対応市町村社協支援事業		所管部署	地域福祉部，生活支援部																		
<p>(1) 制度改正等説明会の開催 ア 制度改正等説明会（1回）</p> <p>イ 生活支援体制整備事業連絡会（2回）</p>	<p>市町村社協に対し，制度改正の情報提供や対応について支援を行うため開催した。</p> <p>〈期 日〉 令和2年3月4日（水） 〈会 場〉 県社会福祉センター 7階 大会議室 〈参加者数〉 48人 〈内 容〉 講義1：地域共生社会の実現に向けた社協の役割について 講義2：介護保険制度次期改定に向けた動向について 説 明：不祥事故防止について 実践報告：こどもイキイキ地域つながりプロジェクトの取組について 情報提供：災害時福祉支援活動の強化に向けた動向について</p> <p>市町村社協に対し，各市町村の生活支援体制整備状況を共有し，今後の展開について協議するため開催した。</p> <p>○ 第1回生活支援体制整備事業連絡会 〈期 日〉 令和元年6月6日（木）</p>	<p>社協活動に関連する法制度等の改正や，今後の社協活動のあり方について，必要な情報を提供することができた。</p>																			

<p>ウ 生活困窮者自立支援事業連絡会 (2回)</p>	<p>〈会場〉 県社会福祉センター 6階 研修室 〈参加者数〉 27人 〈内容〉 説明: 県内の生活支援体制整備事業の状況について グループワーク①: 地域のニーズ・活動把握と見える化について グループワーク②: 協議体の設置・運営について</p> <p>○ 第2回生活支援体制整備事業連絡会 〈期 日〉 令和2年1月28日(火) 〈会 場〉 県社会福祉センター 別館 〈参加者数〉 25人 〈内 容〉 実践報告: 中津市における生活支援体制整備事業の取組について グループワーク・意見交換: これまでの地域の変化と評価・今後の仕掛けについて</p> <p>生活困窮者自立支援事業を受託している社協を中心に、それぞれの取組状況を把握・共有し、効果的な相談支援業務を展開するために開催した。</p> <p>○ 第1回生活困窮者自立支援事業市町村社協担当職員研修会 〈期 日〉 令和元年8月26日(月) 〈会 場〉 県社会福祉センター 7階 大会議室 〈参加者数〉 30人 〈内 容〉 基調説明: 生活困窮者自立支援を取り巻く動向 実践報告: 生活困窮者自立支援における各社協の取組み グループ討議: 我々の支援は制度の理念に近づけたか</p> <p>○ 第2回生活困窮者自立支援事業市町村社協担当職員研修会 令和2年3月9日(月)に開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点により中止した。</p>	
<p>(2) 市町村社協経営セミナーの開催 (1回)</p>	<p>県外の先駆的な社協活動(社協ビジョンと法人改革の取組について)の実践報告を参考に、県内市町村社協の今後の社協活動の展開やヒントを得るため開催した。 〈期 日〉 平成31年4月24日(水) 〈会 場〉 県青少年会館 1階 大ホール 〈参加者数〉 83人 〈講 師〉 宮崎県日向市社協 地域福祉課長</p>	<p>法人改革の取組について具体的な手法を理解することができ、今後の事業展開のヒントにつながった。</p>

4 地域福祉推進大会開催事業		所管部署	地域福祉部
令和元年度事業計画	事業実施概要等	具体的成果等	
<p>地域福祉推進大会の開催</p>	<p>「地域共生社会～我が事・丸ごとの地域づくり～」をテーマに、地域福祉推進大会を開催した。</p> <p>〈期 日〉 令和元年10月29日(火)</p> <p>〈会 場〉 鹿児島市民文化ホール 第1ホール</p> <p>〈参加者数〉 1,108人</p> <p>〈内 容〉</p> <p>① 式典（表彰）</p> <p>② 記念講演 演 題：「地域共生社会 ～みんなで支え合う地域社会づくりの実現に向けて～」</p> <p>③ パネルディスカッション テーマ：地域共生社会～我が事・丸ごとの地域づくり～</p>	<p>地域福祉に関する講演や支え合い活動の先進事例の実践報告により、地域福祉を推進する社協や関係機関・団体等が、今後の地域福祉のあり方を考える機運づくりにつながった。</p> <p>また、幅広い関係機関から多くの参加を得ることができた。</p>	
5 生活支援コーディネーター体制構築事業		所管部署	地域福祉部
<p>(1) 市町村における生活支援体制整備支援（県生活支援体制推進コーディネーターの設置）</p>	<p>県生活支援体制推進コーディネーターを設置し、市町村が設置する生活支援コーディネーターへの指導・助言・相談対応や高齢者の支援にかかる担い手の育成・研修についての支援など、市町村が実施する生活支援体制整備について支援を行った。</p> <p>① 市町村が設置する生活支援コーディネーターへの指導・助言・相談</p> <p>〈相談件数〉（実件数） 94件</p> <p>〈相談内容〉（延べ件数） 338件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協議体の運営方法について 17件 ・生活支援コーディネーターの選任について 17件 ・地域ニーズの見える化、問題提起 41件 ・地縁組織等多様な主体への協力依頼などの働きかけについて 68件 ・関係者のネットワーク化について 47件 ・目指す地域の姿・方針の共有・意識の統一について 35件 ・生活支援の担い手の養成やサービス開発について 61件 ・ニーズとサービスのマッチングについて 44件 ・その他 8件 <p>② 高齢者の支援に係る担い手の育成・研修についての支援</p> <p>〈研修支援回数〉 6回</p> <p>〈市町村等数〉 1市1町1村</p> <p>③ その他、市町村が設置する生活支援コーディネーターの支援等</p>	<p>生活支援体制を整備することを目的として市町村に配置された生活支援コーディネーターの人材育成及び資質向上を図ることにより、地域住民が主体的に関わりながら地域課題を解決する地域包括ケアシステムの構築に資することができた。</p>	

	<p>〈訪問支援回数〉 27回（研修支援含む） 〈市町村等数〉 5市8町2村</p>	
<p>(2) 生活支援コーディネーター体制構築研修企画会議の開催</p>	<p>① 第1回研修企画会議 〈期 日〉 令和元年5月24日(金) 〈場 所〉 県社会福祉センター 5階 第1会議室 〈参加者数〉 13名 〈内 容〉 基礎編の内容検討, 実践編の方向性について他</p> <p>② 第2回研修企画会議 〈期 日〉 令和元年10月8日(火) 〈場 所〉 県社会福祉センター 5階 第1会議室 〈参加者数〉 13名 〈内 容〉 実践編の内容検討他</p>	
<p>(3) 生活支援コーディネーター体制構築研修の開催</p>	<p>① 基礎編 〈期 日〉 令和元年9月13日(金) 〈場 所〉 鹿児島県庁 2階 県庁講堂 〈参加者数〉 87名 〈内 容〉 行政説明「地域包括ケアシステム構築の推進に向けて」 グループワーク 他</p> <p>② 実践編 〈期 日〉 令和元年11月14日(木)～15日(金) 〈場 所〉 鹿児島県庁 2階 県庁講堂 〈参加者数〉 86名 〈内 容〉 特別講義「生活支援コーディネーターのための『地域住民を味方にする喋る技術』の磨き方講座」 実践報告・グループワーク 他</p>	
<p>(4) 生活支援コーディネーター体制構築研修並びに活動の評価に関する業務</p>	<p>生活支援コーディネーター養成研修や県生活支援体制推進コーディネーターの活動を分析評価し、今後の支援を効果的に展開することを目的とした「生活支援コーディネーター養成研修等評価会議」を開催した。</p> <p>〈期 日〉 令和2年2月7日(金) 〈場 所〉 県青少年会館 1階 グループ活動室 〈参加者数〉 12名 〈内 容〉 ・生活支援コーディネーター養成研修に関する分析及び評価 ・県生活支援体制推進コーディネーター活動実績及び評価 ・次年度の研修内容の検討</p>	

6 こどもイキイキ地域つながりプロジェクト事業	事業実施概要等	所管部署	地域福祉部
令和元年度事業計画	事業実施概要等	具体的成果等	
<p>[モデル地区を設定] (1) 外出支援事業 ア ひきこもり等に関する調査・分析</p> <p>イ 子ども・若者支援ネットワーク会議の開催</p> <p>ウ アウトリーチから相談支援・生活支援(マップづくり)</p> <p>(2) 居場所づくり事業 ア 子どもの貧困対策セミナーの開催</p>	<p>モデル地区(1ヶ所): さつま町</p> <p>さつま暮らし・しごとサポートセンター(さつま町社協)が「ひきこもり等に関する実態調査」を実施しており、この調査結果を踏まえ、事業内容の検討等を行った。また、町の関係機関等と意見交換を行い、不登校児等に関する情報の把握を行った。</p> <p>さつま町社会福祉法人連絡会の開催に併せて「子ども・若者支援ネットワーク会議」(年2回)を開催した。 <期 日> ①令和元年7月5日(金) ②令和2年2月28日(金) <会 場> スリーウッドひかり(さつま町) <参加者> さつま町社会福祉法人連絡会14会員法人及びオブザーバー(さつま町役場・湧水町社協) <内 容> ①本事業の概要説明及び社会福祉法人への協力依頼 ②本事業の実施状況報告</p> <p>令和元年6月5日(水)に船木地区の支え合いマップづくりに参加し、地域の子どもの生活課題等を把握した。また、児童虐待への関心を喚起し、子どもたちを地域全体で見守る機運を醸成するため、市町村社協に対して、「児童虐待防止推進月間(11月)」啓発ポスター(厚生労働省作成)を送付し、掲示協力依頼を行った。</p> <p>地域住民等を対象として、子どもの虐待や貧困、孤立について理解を深め、支援のための地域の関わり方について考えることを目的に「子どもの未来応援セミナーinさつま町」を開催した。 また、孤立やひきこもりなど様々な生活課題を抱えている子どもや若者等が地域社会に一步踏み出すことができるように、県内のシニアボランティアグループ(2団体)の協力を得て、併催イベント(世代間交流活動)を開催した。 <イベント名> 子どもの未来応援セミナーinさつま町及び併催イベント(世代間交流活動) <期 日> 令和2年1月18日(土) <会 場> 宮之城ひまわり館(さつま町)</p>	<p>事業実施にあたっては、さつま町をモデル地区に設定し、さつま暮らし・しごとサポートセンター(さつま町社協)と連携して重点的に事業展開を図った。 また、地域住民や学校・教育委員会、社会福祉法人等の理解や協力を得ながら、外出支援、居場所づくり支援、学習支援、仲間づくり支援を効果的に実施することができ、不登校や孤立・孤食等で悩んでいる子、ひきこもりやその傾向がある子の「孤立感の解消」と「生活のしづらさの軽減」につなげることができた。</p>	

	<p>〈参加者〉 セミナー 68名 併催イベント①おもちゃの修理 13組 併催イベント②パソコンお絵かき体験 22名</p> <p>〈内 容〉 特別講演：「ひとりぼっちの子どもがいなまちづくり～子どもの虐待・貧困・孤立に、顔の見える連携で寄り添う～」 (講師) NPO法人こどもソーシャルワークセンター 代表 幸重 忠孝 氏 実践報告：「さつま町社会福祉協議会における子どもの未来応援活動の推進について～おもいやりの心を育むために～」 (報告者) さつま町社会福祉協議会職員他</p> <p>イ 社会福祉法人連絡会の開催 さつま町社会福祉法人連絡会 (年2回) 〈期 日〉 ① 令和元年7月5日(金) ② 令和2年2月28日(金) 〈会 場〉 スリーウッドひかり (さつま町) 〈参加者〉 さつま町社会福祉法人連絡会 14 会員法人及びオブザーバー (さつま町役場・湧水町社協) ※さつま町社会福祉法人連絡会の開催に併せて「子ども・若者支援ネットワーク会議」(年2回) を開催した。</p> <p>ウ 居場所づくり支援者養成講座の開催 令和元年8月1日(木)に開催した「子どもの“楽習”支援ボランティア養成講座」において、様々な困難(精神的・経済的)を抱えている子どもの「居場所」「拠り所」になるために支援者側としてどのような対応が必要か、支援のあり方について学ぶことができた。 ※参照 (3) 学習支援事業 ア 学習支援ボランティア養成講座の開催</p> <p>(3) 学習支援事業 ア 学習支援ボランティア養成講座の開催 さつま町における学習支援の現状やボランティアについて基礎的な理解を深めることを目的に「子どもの“楽習”支援ボランティア養成講座」を開催した。 〈期 日〉 令和元年8月1日(木) 〈会 場〉 宮之城ひまわり館 (さつま町) 〈参加者〉 15名</p>	
--	---	--

6	こどもイキイキ地域つながりプロジェクト事業	所管部署	地域福祉部
令和元年度事業計画		事業実施概要等	
		具体的成果等	
<p>イ 学びの場の設置・運営</p> <p>(4) 仲間づくり事業 ア 長期休暇における体験活動 (夏・冬)</p> <p>イ 社会貢献活動の実施</p>	<p>〈内 容〉 講義①：「さつま町における子どもの学習支援の取組について」 (講師) さつま町教育委員会学校教育課 教育指導係 中島 賢太郎 氏 講義②：「生活上の課題を抱えている子どもの理解と支援のあり方について」 (講師) 鹿児島メンタルサポート研究所 研究員 福崎 英子 氏 実践報告：さつま町社会福祉協議会職員</p> <p>宮之城ひまわり館内に、さつまくらし・しごとサポートセンターと共同で学習スペース（スマイルルーム）を設置し、学習の場づくりとして活用した。また、さつま町社会福祉法人連絡会の3会員法人を訪問し、フリースペース（子どもの学習の場・食事の場・遊びの場）の設置について協力依頼を行った。</p> <p>さつま町の小学生を対象に、文化的経験・体験の機会を提供するため、夏・冬の長期休暇期間に体験活動を行った。 〈期 日〉 夏：令和元年8月7日(水) 冬：令和元年12月25日(水) 〈会 場〉 夏：宮之城ひまわり館、鶴田ダム 冬：宮之城ひまわり館 〈参加者〉 夏：56名 冬：38名 〈内 容〉 夏：鶴田ダムの見学 災害時の炊き出し訓練 冬：スノードームづくり ミニケーキづくり</p> <p>令和元年8月7日(水)に実施した夏の体験活動において、炊き出し訓練や鶴田ダム見学の集団行動を通して、社会性を身に付ける機会をつくとともに、鶴田ダム職員に仕事の大変さ・やりがいについて説明いただき、就労について考えるきっかけをつくることできた。</p>		

7	地域包括支援体制人材育成事業	所管部署	地域福祉部
	<p>(1) 既存の相談員を対象とした相談支援包括化推進員の育成 ア 福祉分野の横断的な連携を図るため、他制度の政策を学ぶ研修会の開催 イ 包括的な相談支援を行っている先進県のコーディネーター等を講師に招いた講義 ウ グループワーク等の実践形式での研修会</p> <p>(2) 地域包括支援体制の整備に向けた各市町村の検討会（ワーキンググループ）の支援</p> <p>市町村が、複合化・複雑化した課題や制度と制度の狭間の問題を抱える世帯に対する多機関・多分野協働による包括的相談支援体制を構築する上で、市町村において必要となる人材（相談支援包括化推進員）を育成することを目的に、始良・伊佐地区と大島地区の2地区で、「鹿児島県相談支援包括化推進員養成講座（全6回）」を次のとおり開催した。</p> <p>〈第1回〉 始良・伊佐（7/30）、大島（7/31） 講義①：記念講演 「生活困窮・社会的孤立者に対する相談支援」 演習①：グループワーク「同上」</p> <p>〈第2回〉 始良・伊佐（8/8）、大島（8/1） 講義②：「権利擁護について考える」 講義③：「地域包括ケアシステム・地域共生社会の実現」 演習②：「複合的な困難事例検討（高齢）」</p> <p>〈第3回〉 始良・伊佐（9/2）、大島（9/25） 講義④：「障害者の地域生活と地域移行」 講義⑤：「相談業務から見たひきこもりへの対応」 演習③：「複合的な困難事例検討（障害）」</p> <p>〈第4回〉 始良・伊佐（11/22）、大島（9/26） 講義⑥：「ライフステージにおける児童福祉と母子保健」 講義⑦：「発達障害への理解」 演習④：「複合的な困難事例検討（児童）」</p> <p>〈第5回〉 始良・伊佐（2/6）、大島（2/18） 演習⑤：「これからの「まちづくり」を考えるいくつかのヒント」 演習⑥：「経験から生まれる地域支え合い」</p> <p>〈第6回〉 始良・伊佐（2/27）、大島（2/19） 演習⑦：「コミュニティワーク「支え合いマップ」」 演習⑧：「講座のまとめ・目標設定」</p>		<p>福祉ニーズの多様化・複雑化に伴い、複合的な課題を有する要援護者に対する、包括的な相談から見立て、支援調整の組立て、地域資源の開発等を市町村単位で総合的に行うことのできる包括的相談支援体制の構築を促進することができた。</p> <p>全課程修了者58人（始良・伊佐地区22人、大島地区36人）へ修了証書を交付し、全課程を修了できなかった受講者には受講証明書を発行した。</p>

Ⅲ ボランティア活動の促進			
1	県ボランティアセンターの運営	所管部署	ボランティアセンター
令和元年度事業計画		事業実施概要等	
		具体的成果等	
(1)	県ボランティアコーディネーターの設置	<p>県ボランティアセンター事業の推進を図るため、ボランティアコーディネーターを設置し、来所や電話でのボランティア相談に対応したほか、各種研修会の企画実施、市町村社協が主催するボランティア講座への支援、市町村社協ボランティア担当職員の研修等で指導助言を行った。</p> <p>また、8月下旬からの九州北部大雨災害では、佐賀県の小城市社協と武雄市社協が設置した災害ボランティアセンターの運営支援及び応援職員の派遣調整等を行った。</p> <p>さらに、台風15号、19号及び10月25日からの大雨災害で被災した福島県いわき市社協が設置する災害ボランティアセンターの運営支援に応援職員を派遣した。</p> <p>注) 被災地支援ほか災害対応関連の取組については(5)に掲載。</p>	<p>多様な相談への対応や各種研修の企画及び実施、各団体が実施するボランティア講座等の支援を行うことを通して、ボランティアへの理解と関心を高めることにつながった。</p> <p>また、被災地災害ボランティアセンターの支援にあたっては、県、九州各県・指定都市社協、県下市町村社協及び全国規模で活動する災害支援NPO等と連絡を図るなどし、平時の関係構築の成果を生かすことができた。</p>
(2)	福祉救援ボランティア活動連絡会の開催 (1回)	<p>県内外で大規模災害が発生した場合の福祉救援活動・災害ボランティア活動支援を迅速かつ効果的に行えるように、関係機関団体等の平常時や災害時の取組の共有、関係者間の顔の見える関係づくりなどを図るため、次のとおり開催した。</p> <p>〈日 時〉 令和2年1月27日(月) 13:30~15:00</p> <p>〈会 場〉 県社会福祉センター5階 第1会議室</p> <p>〈内 容〉 ア 令和元年度の県社協災害ボランティア活動支援等の取組について イ 出席団体における防災・被災者支援等の取組について ウ その他情報交換</p> <p>〈出席者〉 県危機管理課防災対策室、県社会福祉課、日赤鹿児島県支部、県共同募金会、日本防災士会鹿児島県支部、日本青年会議所九州地区鹿児島ブロック協議会、県生活協同組合連合会の7機関から7人</p>	<p>平時において、災害が発生した際の取組や連携等について、関係機関団体等との情報共有が図られたとともに、令和元年の災害で生じた被災地への円滑な応援など各機関団体との有機的な連携が図られた。</p>

<p>(3) 県総合防災訓練，桜島火山爆発総合防災訓練への参加 (各1回)</p> <p>ア 県総合防災訓練（始良市） 期日：令和元年5月19日(日)</p> <p>イ 桜島火山爆発総合防災訓練（鹿児島市内） 期日：令和2年1月中旬(予定)</p>	<p>県総合防災訓練については，開催地の始良市社協と連携し次のとおり実施準備を整えていたが，県や関係機関等が5月18日からの屋久島大雨に伴う登山者救助のため前日に中止となった。</p> <p>① 県総合防災訓練 〈日 時〉 令和元年5月19日(日)午前8時から午前11時30分まで 〈会 場〉 始良市「加音ホール」 〈参加予定数〉 84人 始良市内のボランティア個人・団体，障害者及び外国人等，県内10市町社協，青年会議所県ブロック協議会役員 〈実施内容〉 災害ボランティアセンター設置・運用訓練 ボランティア受付，ボランティア活動保険加入手続き，ニーズ受付，マッチング（コーディネート），ボランティア派遣，仮設避難所での支援活動訓練，障害者や外国人等災害時要配慮者等への対応訓練等</p> <p>② 桜島火山爆発総合防災訓練への参加 鹿児島市が主催する桜島火山爆発総合防災訓練に県内の市町村社協職員と参加し，鹿児島市社協が設置する災害ボランティアセンターの設置運用訓練に係る訓練資材の貸出し及び当日の運営支援を行った。 〈日 時〉 令和2年1月11日(土)午前11時から午後3時まで 〈会 場〉 鹿児島市立天保山中学校グラウンド 〈参加者〉 125人 鹿児島市社協登録ボランティア個人・団体，近隣社協等 〈実施内容〉 災害ボランティアセンター設置・運用訓練 ボランティア受付，ボランティア活動保険加入手続き，ニーズ受付，マッチング（コーディネート），ボランティア派遣，仮設避難所での支援活動訓練，救援物資輸送訓練，県内在留外国人対応など 〈その他〉 訓練開始から50回目を迎えるにあたり，長年の訓練参加への協力に対して表彰が行われ，社協関係では県社協と鹿児島市社協に感謝状が贈られた。</p>	<p>災害ボランティアセンター設置・運用訓練を，訓練参加の関係機関・団体と連携して実施したことにより，災害ボランティアセンターの機能や役割への理解が深まった。</p> <p>また，一般住民にボランティア役や要援護者役を担ってもらうことにより，被災者支援活動への参加意識の醸成に寄与した。</p> <p>・参加者数：前年度比 +10人</p>
--	---	--

1 県ボランティアセンターの運営		所管部署	ボランティアセンター			
令和元年度事業計画	事業実施概要等			具体的成果等		
(4) 指導・連絡・研修	市町村社協及び行政, 教育委員会等が行うボランティア講座等(研修会, 委員会)へ出席要請を受け, 助言指導等を行った。 <講座等出席回数> 計25講座 <上記の内訳> 市町村社協等の講座15回, その他の講座10回			県民に対するボランティア活動への理解と関心を高めることにつながった。 ・出席回数: 前年度比 2回増		
(5) 被災地支援ほか災害対応関連の取組	令和元年度に発生した災害関連への対応や環境整備等にあたっては, 市町村社協や関係団体等と連携を図りながら次のとおり行った。 ① 九州北部8月下旬からの大雨災害に係る佐賀県内の災害ボランティアセンターに対する運営支援 九州ブロック社会福祉協議会災害時相互応援協定に基づき, 4市1町災害ボランティアセンターに対して, 市町村社協と連携し次のとおり運営支援を行った。			大規模自然災害で被災した地域の復旧・復興に寄与することが出来た。		
		派遣先	派遣期間	派遣人員	派遣人員の内訳	主な業務等 災害ボランティアセンターの運営支援 〔資機材管理, ニーズ及びボランティア受付, マッチング業務及び災害ボランティアセンター内部運用管理等〕
		小城市災害VC	9/6 ~ 9/10	2人	県社協 2人	
			9/10 ~ 9/14	2人	市町村社協1人(鹿屋市) 県社協 1人	
		武雄市災害VC	9/14 ~ 9/18	2人	市町村社協1人(曾於市) 県社協 1人	
			9/18 ~ 9/21	2人	市町村社協1人(始良市) 県社協 1人	
			9/23 ~9/26	2人	市町村社協1人(鹿屋市) 県社協 1人	
	合計		10人	市町村社協4人 県社協 6人		
	② 台風19号等関係被災地への支援 「災害ボランティア活動支援プロジェクト会議」からの要請に基づいて, 台風19号等で被災した福島県の「いわき市災害ボランティアセンター」の運営支援に次のとおり従事した。 <派遣期間> 令和元年12月5日(木)から11日(水)まで <従事者> 1人			これまで多くの被災地支援で培ってきたノウハウと全国的に活動する災害支援NPOとのネットワークが実を結び, 大規模被災地での復興支援に寄与することができた。		

	<p>〈支援内容〉ア 災害ボランティアセンターの運営体制の見直し イ 災害対応が終息した地域のサテライト閉鎖支援 ウ その他ブロック派遣で入ってくる応援職員への指導助言等</p> <p>③ その他 ア 平成25年度から始まった生命保険協会鹿児島県協会の協力（寄贈）による災害発生時の緊急備品一式（自家発電機、ガソリン携行缶及び高圧洗浄機）について、県内市町村社協へ配備が完了した。 イ 保育所に特化した災害対応シミュレーションを鹿児島市保育園協会会員施設の職員と共同開発するとともに、同協会主催の研修で開発教材を使った研修指導にあたるなど連携を深めた。</p>	<p>業界団体の社会貢献活動に積極的に関わり関係を深めた。また、災害時に生じる保育所の課題解決のための教材づくりや指導をとおして、保育所における平時の備えについて理解を深めるきっかけになった。</p>
<p>2 福祉教育推進事業</p>		<p>所管部署 ボランティアセンター</p>
<p>(1) 児童・生徒のふれあいボランティア活動啓発促進事業</p> <p>ア 未導入市町村社協への導入促進</p> <p>イ 導入済社協連絡会の開催（1回）</p>	<p>地域における児童・生徒の様々なボランティア活動にスタンプを付与し、スタンプが一定量貯まると活動認定証を交付する取組を普及啓発するため、スタンプを200個、カードを小学校用30,000枚、中学校・高校用30,000枚作成し、実施市町村社協へ配布した。</p> <p>また、未導入の市町村社協へ導入を促すための働きかけを行うとともに、「児童・生徒のふれあいボランティア活動事業担当者連絡会」を次のとおり行った。</p> <p>① 導入促進 16市町村を訪問して働きかけた結果、令和元年度から新たに南種子町と中種子町の2社協が導入することになるとともに、2市社協が令和2年度から導入予定となった。</p> <p>② 連絡会 ア 日 時：令和2年2月6日(木)午後1時30分から午後4時まで イ 会 場：県社会福祉センター7階 第3会議室 ウ 構 成：実施社協16カ所、未実施社協2カ所、県社会福祉課、県社協 エ 内 容：(ア) 講義：福祉教育推進事業のねらいと本事業の推進方法について (イ) パネルディスカッション ・児童・生徒のふれあいボランティア活動の効果的な取組について ・他関係機関との連携、広報、啓発活動のあり方等 (ウ) まとめ（県社会福祉課、ボランティアセンター）</p>	<p>導入促進に向けて積極的に働き掛けたことで、この事業を導入する社協が22社協から24社協に増え、また令和2年度からの導入に向けた動きがあることから、児童生徒がボランティア活動を行いやすい環境づくりにつながった。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>既導入社協（22社協）</p> <p>鹿児島市，薩摩川内市，伊佐市，垂水市，日置市，南さつま市，南大隅町，始良市，志布志市，さつま町，霧島市，西之表市，龍郷町，伊仙町，天城町，喜界町，肝付町，鹿屋市，湧水町，南九州市，阿久根市，曾於市</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>新規導入社協（2社協）</p> <p>中種子町，南種子町</p> </div>

2 福祉教育推進事業	所管部署	ボランティアセンター
令和元年度事業計画	事業実施概要等	
	具体的成果等	
<p>(2) 大学・短大生等ボランティア連携促進事業 ア 学生ボランティア交流会 (1回)</p> <p>イ 大学・短大ボランティア支援担当部署との情報交換の実施 (1回)</p>	<p>① 学生ボランティア交流会の開催 県内の大学・短大生等のボランティア活動の更なる活性化と大学・短大等の枠を超えた連携・協働の促進を図るため、大学・短大生等を対象にしたボランティア交流イベントについて、交流イベントの開催希望のあった2大学で次のとおり実施した。</p> <p>ア 鹿児島国際大学 〈日時〉 令和2年2月5日(水) 10:00～15:00 〈会場〉 鹿児島国際大学 4号館2階「424教室」 〈タイトル〉 令和元年度鹿児島国際大学ボランティア研修会 〈参加人員〉 70人(学生64, 教職員6人) 〈内容〉 (ア)開会(学生課長) (イ)オリエンテーション (ウ)かごしま国体・かごしま大会ボランティアについて (エ)実習(1)災害時炊き出し(2)防災グッズ作り等 (オ)昼食(炊き出しや保存食の試食を含む) (カ)グループワーク(HUG～鹿国大Version～) (キ)閉会(アンケート記入含む)</p> <p>イ 鹿児島大学 〈日時〉 令和2年2月13日(木) 14:00～16:15 〈会場〉 鹿児島大学学習交流プラザ2階「学習交流ホール」 〈タイトル〉 ボランティア交流会～災害ボランティアについて学ぼう～ 〈参加人員〉 30人(学生27人, 教職員3人) 〈内容〉 (ア)開会(学長補佐あいさつ) (イ)アイスブレイク～生活版クロスロードゲーム(学生作成)～ (ウ)災害版クロスロードゲーム (エ)学生ボランティアと災害支援 (オ)写真撮影・アンケート・閉会</p> <p>② 大学・短大ボランティア担当職員意見交換会 大学・短大生によるボランティア活動の効果的かつ効率的な振興を図るための意見交換会を次のとおり開催した。 〈日時〉 令和元年8月21日(水) 14:00～16:00 〈会場〉 県青少年会館1階 グループ活動室 〈内容〉 ア 各学校の情報交換(ボランティアサークルの活動状況等) イ 学生ボランティア交流会について(前年度報告や今年度交流の提案等) ウ その他(国体ボランティア募集等) 〈参加大学〉 鹿児島大学, 鹿屋体育大学, 鹿児島国際大学,</p>	
	<p>この交流会の企画及び当日進行などは学生実行委員が主体的に行うことから、ボランティアの基本である主体性・自発性を養う良い機会づくりに寄与できた。</p> <p>また、交流会に参加した学生同士が馴染みやすいように、自分の通う大学が避難所になった場合を想定したり、学生生活に密着した話題をワークの題材にする工夫もあつたりしたため、交流会終了後も学生同士の交歓が続いた。</p> <p>大学・短大による学生ボランティア活動支援の取組状況、学生のボランティアに関する意識や動向の把握など、学生ボランティアの振興に関する情報交換・共有を図ることができた。</p>	

	<p>第一工業大学、志學館大学、鹿児島純心大学、 鹿児島純心女子短期大学、第一幼児教育短期大学 の8大学から 10人</p>	
	<p>③ その他 県内の大学・短大にあるボランティアサークル等の紹介冊子「ボランティアのなかまたち」を500部作成し、大学・短大及び市町村社協等へ配布した。</p>	<p>学生たちの学校の枠を超えた緩やかなネットワークづくりに貢献できた。</p>
<p>(3) 福祉教育推進セミナー(1回) (介護実習・普及センターとの共管事業)</p>	<p>教育・福祉関係従事者、地域住民など幅広い関係者による福祉教育の多様な取組を推進し、心豊かな子どもたちの育みや地域の福祉力向上を図るため、次のとおり開催した。</p> <p>〈日 時〉 令和元年11月15日(金) 10:00~16:30 〈会 場〉 県民交流センター東棟4階「大研修室第3」 〈参加者〉 42人 小・中学校教諭、学校支援ボランティアコーディネーター、市町村行政や社協職員、民生委員児童委員等 〈内 容〉 事例発表Ⅰ「喜入における認知症福祉教育の取組 ~地域が変わる仕組みを作る~」 発表者:きいれ浜田クリニック院長 濱田 努 氏 事例発表Ⅱ「地域を変えるサービスラーニングの 実践~地域人を育てる福祉教育プログラムの実践~」 発表者:日向市社協地域福祉課長 成合進也 氏 事業説明(説明者:介護実習・普及センター職員) 講演「学校・地域・家庭の協働による地域共生社会の実現をめざした福祉教育」 講 師:大阪教育大学教育学部教授 新崎国広 氏 ワークショップ「福祉教育実践のためのカリキュラムとは」 アドバイザー:上記事例発表者2人と講師1人 進行:県社協ボランティアセンター推進員</p>	<p>学校教諭や教育委員会、市町村社協職員及び民生委員児童委員などから参加が得られ、幅広い関係者が一体となって福祉教育の推進や連携のあり方について理解を深めることに繋がった。</p> <p>・参加者数:前年度比 +4人</p>
<p>3 養成・研修事業</p>		<p>所管部署</p> <p>ボランティアセンター</p>
<p>(1) ボランティアコーディネーター・ボランティア担当職員セミナー (1回)</p>	<p>ボランティア・NPO及び福祉関係団体等との連絡調整、活動プログラムの企画や需給調整、各種ボランティア活動者の養成等を担うボランティアコーディネーター・担当職員の資質向上等を図るため、社協ボランティアセンターが取り組むべき目標と重なる部分の多い「SDGs」をテーマに、次のとおり開催した。</p> <p>〈日 時〉 令和元年10月30日(水)13:30~10月31日(木)12:00 〈会 場〉 ホテルリブマックス鹿児島2階「ピコットホール」 〈参加者〉 市町村社協ボランティアコーディネーター及びボランティア担当職員26人 〈内 容〉</p>	<p>一見難しい内容と思われがち なSDGs(持続可能な開発目標)についてハードルを下げる ことができたとともに、社協 ボランティアセンターが取り組 むべき課題や企業・団体との 連携協働のヒントが隠されて いることへの理解や気づきに つながった。</p> <p>・参加者数:前年度比 +11人</p>

3	養成・研修事業	所管部署	ボランティアセンター
令和元年度事業計画		事業実施概要等	
		具体的成果等	
<p>(2) シニアボランティア講座 (1回)</p>	<p>【1日目】 開会・説明Ⅰ「令和元年度ボランティアセンター・ボランティアコーディネーター調査結果とボランティアを取り巻く環境等について」 講師：県社協ボランティアセンター所長 取組事例「SDGsについて～持続可能な開発目標～」 講師：鹿児島県生活協同組合連合会会長 松菌孝夫 氏 (生活協同組合コフ かがしま理事長) 講演「お互い様の社会の実現に向けて～5GOALS for 黒部～」 講師：黒部市社協総務課長補佐兼経営戦略係長 小柴徳明 氏</p> <p>【2日目】 GW「ボランティアコーディネーターのこれまでとこれから」 進行：県社協ボランティアセンター所長 助言者：黒部市社協総務課長補佐兼経営戦略係長 小柴徳明 氏 説明Ⅱ「全社協補償制度について～ボランティア活動保険を中心に～」 説明者：㈱福祉保険サービス営業部長 鈴木伸一 氏</p> <hr/> <p>シニア層が長年培ってきた豊かな経験や知識、趣味などをボランティア活動に活かしてもらうため、ボランティア活動の最新情報や現に活動するシニア層のボランティア活動事例を紹介し、ボランティア活動への参画を促す機会となるよう次のとおり開催した。 〈日時〉 令和元年12月5日(木) 10:00～16:00 〈会場〉 鹿児島市民文化ホール4階「市民ホール」 〈参加者〉 35人(シニア層を中心とする一般県民、民生委員、行政職員等) 〈内容〉 講義：「シニアボランティアの意義と役割について ～ボランティア活動で人生100年時代をいきいきと!!～」 講師：県社協ボランティアセンター所長 実技研修：「楽しくレクリエーションを覚えましょう」 講師：県レクリエーション協会副会長 神之門 透 氏 事例紹介Ⅰ：「鹿児島弁検定協会専属劇団『げたんは』」 発表者：鹿児島方言文化協会会長 種子田幸広 氏 事例紹介Ⅱ：「ボランティア日本語教室あいうえおおすみ」 発表者：和田友美 氏 「平古自治会によるベトナム技能実習生日本語教室」 発表者：下萩 正 氏</p>	<p>ボランティア活動の担い手として益々期待のかかるシニア層に向けて、スポーツボランティアの最新事例やユニークな事例、専門的な活動など多様な取組を紹介することで、ボランティア活動への理解を深めることに繋がった。 また、2020年に開かれるかごしま国体・かごしま大会のボランティア募集について周知を図ることができた。</p> <p>・参加者数：前年度比 ±0人</p>	

	<p>活動の場の紹介：「かごしま国体・大会でのボランティア活動」 発表者：県国体・全国障害者スポーツ大会局総務企画課県民運動係 永田 裕治郎 氏 今日の研修を振り返って：「今私たちにできるボランティア活動」 進行：県社協ボランティアセンター推進員</p>			
(3) 災害ボランティアセンター 運営支援者養成講習会 (1回)	<p>災害ボランティア活動に関心のある方や地域のボランティアリーダー等を対象に、災害発生時にボランティアセンターを継続的に支援するボランティアを養成するため講習会を次のとおり開催した。 〈日 時〉 令和元年7月8日(月) 9:55~15:30 〈会 場〉 県社会福祉センター7階 第2会議室及び大会議室 〈受講者〉 市町村社協職員、市町村職員、民生委員児童委員、病院・福祉施設職員、消防団員、公民館長やNPO職員等 〈修了者数〉 40人(受講申込者数42人) 〈内 容〉 講義Ⅰ：「災害ボランティアセンターとは」歴史の変遷、被災者支援の基本的理解等」 講師：県社協ボランティアセンター所長 講義Ⅱ：「多文化共生の視点で考える災害対応」 講師：県国際交流協会 上山京子 氏 ワーク：「避難所 HUG」 講師：日本防災士会県支部長 吉水康夫 氏 (HUG指導補助：県社協ボランティアセンター所長)</p>	<p>災害ボランティアの歴史の変遷、被災者支援の基本的な考え方や支援活動の流れなどの基礎理解のほか、県内で増加傾向にある在留外国人への対応等を学ぶことにより、いろいろな被災者に対応できる運営支援者の養成につながった。</p> <p>・修了者数：前年度比 ±0人</p>		
4 広報啓発事業		<table border="1"> <tr> <td>所管部署</td> <td>ボランティアセンター</td> </tr> </table>	所管部署	ボランティアセンター
所管部署	ボランティアセンター			
(1) 啓発用物品の整備・提供 ア ボランティア手帳の発行 (発行部数1,000部)	<p>市町村社協等が開催するボランティア講座や研修会用資料として、また、学校でのボランティア学習用として、「私のボランティア手帳」を配布するとともに、新たに掲載内容を更新して2,000部を作成し、市町村社協等へ配布した。</p>	<p>ボランティア講座や学校等での学習用として幅広く配布したことにより、ボランティア活動に対する理解が深まった。</p>		
イ 啓発用物品の貸出・整備等	<p>市町村社協や学校、福祉施設、各種団体・企業等のボランティア学習・介護体験講座等に使用する疑似体験セットや車椅子、アイマスク等の貸し出しを行うとともに、経年劣化等で消耗した体験部品の更新を適宜行った。〔貸出個数600件〕 また、登録ボランティア団体の広報紙等印刷用に整備したデジタル高速印刷機(1台)について、安定的な使用に資するため、保守管理に努めた。</p>	<p>年間を通して多くの福祉関係者や学校等に貸出すことで、高齢者や障害者に対する理解や接し方等の認識を深める機会を提供できた。(対前年度比191個減) また、財政基盤の弱いボランティア団体等の広報手段や活動の場の確保に資することができた。</p>		

4 広報啓発事業		所管部署	ボランティアセンター
令和元年度事業計画	事業実施概要等	具体的成果等	
<p>ウ ボランティアルーム・コーナーの提供</p> <p>(H30_利用回数・利用人員) ボランティアルーム：78回，458人 ボランティアコーナー：114回，411人</p>	<p>③ ボランティアルーム・コーナー（会議室）の提供 ボランティアグループ等の活動の利便性を確保するため，同グループ等が行う研修会や講習会，打合せ等の場に活用できる会議室を提供した。 ボランティアルーム：利用回数 64回，利用人員408人 ボランティアコーナー：利用回数117回，利用人員330人</p>	<p>空調工事が影響し，ボランティアルームは前年度に比べ利用回数が14回減，利用人員が50人減，ボランティアコーナーは利用回数が3回増，利用人員が81人減となった。</p>	
<p>(2) 広報紙・ホームページ等による情報提供</p>	<p>① 広報紙の発行（年6回） 県社協広報紙「ふくしのひろば」にボランティアセンターが行う事業や県内のボランティア・市民活動の様子，災害ボランティア活動支援の状況など最新のボランティア関連記事を掲載し，広報に努めた。 〈部数〉 13,700部×6回 〈配布先〉 市町村社協，市町村，学校，銀行，病院，その他関係機関・団体等</p> <p>② その他WEBによる情報提供 県社協ホームページ内に，ボランティア活動に関する活動種別や内容等基本的事項を常時掲載するとともに，助成金情報や県内外で発生した災害に伴う当センターの被災者支援の取組，全社協等からの中央情報や全国的な取組等について，情報発信に努めた。</p>	<p>広報紙で活動事例等を紹介することで，県民やボランティア活動団体等への啓発や活動の推進が図られた。 また，検索性や即時性の高い情報をウェブで情報提供することで，迅速かつ効率的な情報提供が図られた。</p>	
<p>(3) その他 ア サマーボランティア体験月間の実施</p>	<p>① サマーボランティア体験月間（7月～8月） 地域や社会福祉施設等でのボランティア・介護体験等をおして，県民のボランティア活動への理解と関心を深めるとともに，ボランティア活動への参加のきっかけづくりとするため，7月及び8月を「サマーボランティア体験月間」と定め，市町村社協に各種体験プログラムの実施を呼びかけた。 〈内容〉 プログラム数：199件（県内29市町村社協が実施） 高齢者施設での介護ボランティア体験，保育園での保育ボランティア体験，認知症カフェでの交流ボランティア体験，手話や点字体験，デイサービスやふれあいいきいきサロン，子育てサロン等での交流，災害時の炊出し体験，高齢者疑似体験，障害者スポーツ交流 等</p>	<p>福祉施設やサロン等でのボランティア体験をおして「ともに生きること」等について考える機会となった。 また，ボランティア活動に参加するきっかけとなっている。 ・プログラム数：前年度比△14件 ・実施市町村数：前年度比+2社協</p>	

	<p>〈参加者数〉 3,527人 (男827人・女2,700人、小学生計896人、中学生計879人、高校生計922人、その他大学生から社会人等830人)</p>	<p>・参加者総数：前年度比△120人</p>
イ ボランティアTシャツ等の頒布	<p>② ボランティアTシャツ・半袖ポロシャツの頒布 ボランティアTシャツと半袖ポロシャツを作製し、主にサマーボランティア体験月間の参加者や福祉施設等に有料頒布した。 なお、令和元年度の災害で被災した方に役立ててもらうため、売上金のうちから総額200千円を次のとおり寄付した。 〈頒布着数〉 Tシャツ…486着、半袖ポロシャツ…2,546着 〈義 援 金〉 …100,000円 [令和元年8月佐賀県豪雨災害義援金(鹿児島県共同募金会を通じて佐賀県共同募金会へ)] 〈支 援 金〉 …100,000円 [令和元年8月豪雨 災害ボランティア活動支援金(佐賀県民災害ボランティアセンター(事務局・佐賀県社協))]</p>	<p>ボランティア活動等に対する普及啓発が図られた。また、収益の一部を令和元年8月下旬大雨災害の被災者・支援団体に、義援金・活動支援金として寄付することができた。 ・頒布着数：前年度比 Tシャツ△79着、ポロシャツ△581着</p>
ウ 届け!!みんなの使用済み切手 (使用済み切手でボランティア)	<p>県内の事業所や個人等から寄せられた使用済み切手を買取業者に買い取ってもらった収益を財源に、福祉機器や災害支援資機材等の整備に役立てる取組を行った。 今年度は、県内の郵便局をはじめとする多くの県民から使用済み切手が届けられた結果、収入額は総額106千円となった。 なお、同額を次年度へ繰り越して令和2年度に執行予定。</p>	<p>使用済み切手集めがボランティア活動になることを多くの県民に周知できた。今後も「いつでも・どこでも・だれでも」できるボランティアとして、多くの県民に周知を図ることとしたい。</p>
5 市町村ボランティアセンターの活動促進		<p>所管部署 ボランティアセンター</p>
令和元年度事業計画	事業実施概要等	具体的成果等
(1) ボランティア活動保険加入促進事業 (助成総額 1,000千円)	<p>ボランティア活動に安心して参加できるようボランティア活動保険の加入を促進し、ボランティア活動保険の掛金の補助を行っている市町村社協に対し助成を行った。 〈対象加入者数〉 14,339人 (20市町村社協) 〈助成金額〉 1,000千円 (@69,739円) 〈助成対象期間〉 平成31年4月から令和元年5月までの2か月間 〈助成条件等〉 1人あたり100円以上の助成を行う市町村社協</p>	<p>計画どおり1,000千円の助成を行い、安心してボランティア活動に参加できる環境と掛金補助を行う市町村社協の財政支援に寄与した。 ・加入者数：前年度比△756人 ・市町村数：前年度比±0社協</p>
(2) ボランティア講座開催事業 ア 助成先 5市町村社協 イ 助成額 80千円上限 ／1か所あたり	<p>ボランティア活動への参加のきっかけづくりや地域のボランティアの掘り起こし、ボランティア活動リーダーの育成や組織化等を図るため、継続型(概ね4回以上)のボランティア講座を実施する市町村社協に事業費の一部を補助するとともに、講座の実施方法等について情報提供を行うなど支援した。 〈助成額〉 80千円を上限／1か所あたり 〈実施社協〉 5か所 (実施状況は下表のとおり)</p>	<p>市町村社協のボランティア講座開催支援を通して、地域の実情に応じたボランティアの育成に寄与できた。 ・延べ参加者総数： 前年度比+5人</p>

5 市町村ボランティアセンターの活動促進		所管部署	ボランティアセンター	
令和元年度事業計画	事業実施概要等			具体的成果等
	社協名	講座内容等	回数	延参加者数
	阿久根市	生活支援サポーター養成講座	5回	105人
	薩摩川内市	ボランティア養成講座	4回	103人
	曾於市	コミュニケーションボランティア入門講座	4回	63人
	南九州市	点字ボランティア養成講座	4回	35人
	始良市	手話講座	5回	127人

IV 福祉相談活動の推進

1 相談センターにおける福祉相談業務の推進		所管部署	長寿社会推進部																																																																																																																
令和元年度事業計画		事業実施概要等																																																																																																																	
		<p>鹿児島シルバー110番による相談 高齢者及びその家族が抱える心配ごと等の相談に対応するため、福祉相談員及び専門相談員による相談業務を実施した。 今年度の相談件数は825件で、相談実績概要は次のとおり</p> <p>〔利用形態別相談状況〕</p>																																																																																																																	
<table border="1"> <tr> <th>相談種目</th> <th>相談日</th> <th>相談員</th> </tr> <tr> <td>生活・福祉</td> <td>月～金</td> <td>福祉相談員</td> </tr> <tr> <td>健康・介護</td> <td>火・金/午後</td> <td>保健師</td> </tr> <tr> <td>医療</td> <td>第1・3水/午後</td> <td>医師</td> </tr> <tr> <td>年金</td> <td>第3水/午前</td> <td>社会保険労務士</td> </tr> <tr> <td>法律</td> <td>月・木/午後</td> <td>弁護士</td> </tr> <tr> <td>税金</td> <td>第3木/午前</td> <td>税理士</td> </tr> <tr> <td>住宅</td> <td>第2・4木/午前</td> <td>建築士</td> </tr> </table>		相談種目	相談日	相談員	生活・福祉	月～金	福祉相談員	健康・介護	火・金/午後	保健師	医療	第1・3水/午後	医師	年金	第3水/午前	社会保険労務士	法律	月・木/午後	弁護士	税金	第3木/午前	税理士	住宅	第2・4木/午前	建築士	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">区 分</th> <th>相談件数</th> <th>構成比 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">相談種別</td> <td>一般相談</td> <td>610</td> <td>73.9</td> </tr> <tr> <td>専門相談</td> <td>215</td> <td>26.1</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">性 別</td> <td>男性</td> <td>266</td> <td>32.2</td> </tr> <tr> <td>女性</td> <td>559</td> <td>67.8</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">方 法 別</td> <td>電話相談</td> <td>629</td> <td>76.2</td> </tr> <tr> <td>面接相談</td> <td>193</td> <td>23.4</td> </tr> <tr> <td>文書相談</td> <td>3</td> <td>0.4</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">相談者別</td> <td>本人</td> <td>653</td> <td>79.2</td> </tr> <tr> <td>家族</td> <td>156</td> <td>18.9</td> </tr> <tr> <td>知人等</td> <td>6</td> <td>0.7</td> </tr> <tr> <td>各機関</td> <td>10</td> <td>1.2</td> </tr> <tr> <td rowspan="6">地 域 別</td> <td>鹿児島市</td> <td>385</td> <td>46.7</td> </tr> <tr> <td>本土の鹿児島市以外の市</td> <td>160</td> <td>19.4</td> </tr> <tr> <td>本土の町村</td> <td>242</td> <td>29.3</td> </tr> <tr> <td>離島の市町村</td> <td>10</td> <td>1.2</td> </tr> <tr> <td>県外</td> <td>15</td> <td>1.8</td> </tr> <tr> <td>不詳</td> <td>13</td> <td>1.6</td> </tr> <tr> <td colspan="2">合 計</td> <td>825</td> <td>100.0</td> </tr> </tbody> </table> <p>〔事項別相談状況〕</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>家族・家庭</th> <th>法 律</th> <th>経済・生活</th> <th>福祉サービス</th> <th>生きがいづくり</th> <th>保健・医療</th> <th>合 計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>相談件数</td> <td>350</td> <td>194</td> <td>46</td> <td>58</td> <td>2</td> <td>175</td> <td>825</td> </tr> <tr> <td>構成比%</td> <td>42.4</td> <td>23.5</td> <td>5.6</td> <td>7.0</td> <td>0.3</td> <td>21.2</td> <td>100.0</td> </tr> </tbody> </table>		区 分		相談件数	構成比 (%)	相談種別	一般相談	610	73.9	専門相談	215	26.1	性 別	男性	266	32.2	女性	559	67.8	方 法 別	電話相談	629	76.2	面接相談	193	23.4	文書相談	3	0.4	相談者別	本人	653	79.2	家族	156	18.9	知人等	6	0.7	各機関	10	1.2	地 域 別	鹿児島市	385	46.7	本土の鹿児島市以外の市	160	19.4	本土の町村	242	29.3	離島の市町村	10	1.2	県外	15	1.8	不詳	13	1.6	合 計		825	100.0	区 分	家族・家庭	法 律	経済・生活	福祉サービス	生きがいづくり	保健・医療	合 計	相談件数	350	194	46	58	2	175	825	構成比%	42.4	23.5	5.6	7.0	0.3	21.2	100.0
相談種目	相談日	相談員																																																																																																																	
生活・福祉	月～金	福祉相談員																																																																																																																	
健康・介護	火・金/午後	保健師																																																																																																																	
医療	第1・3水/午後	医師																																																																																																																	
年金	第3水/午前	社会保険労務士																																																																																																																	
法律	月・木/午後	弁護士																																																																																																																	
税金	第3木/午前	税理士																																																																																																																	
住宅	第2・4木/午前	建築士																																																																																																																	
区 分		相談件数	構成比 (%)																																																																																																																
相談種別	一般相談	610	73.9																																																																																																																
	専門相談	215	26.1																																																																																																																
性 別	男性	266	32.2																																																																																																																
	女性	559	67.8																																																																																																																
方 法 別	電話相談	629	76.2																																																																																																																
	面接相談	193	23.4																																																																																																																
	文書相談	3	0.4																																																																																																																
相談者別	本人	653	79.2																																																																																																																
	家族	156	18.9																																																																																																																
	知人等	6	0.7																																																																																																																
	各機関	10	1.2																																																																																																																
地 域 別	鹿児島市	385	46.7																																																																																																																
	本土の鹿児島市以外の市	160	19.4																																																																																																																
	本土の町村	242	29.3																																																																																																																
	離島の市町村	10	1.2																																																																																																																
	県外	15	1.8																																																																																																																
	不詳	13	1.6																																																																																																																
合 計		825	100.0																																																																																																																
区 分	家族・家庭	法 律	経済・生活	福祉サービス	生きがいづくり	保健・医療	合 計																																																																																																												
相談件数	350	194	46	58	2	175	825																																																																																																												
構成比%	42.4	23.5	5.6	7.0	0.3	21.2	100.0																																																																																																												
		<p>相談件数は、前年度に比べ5件の減少となったが、依然として高齢者やその家族の抱える心配ごと等は多く、こうした問題の解決につなげることができた。 (平成30年度実績 830件) 対前年度比 99.4%</p> <p>・相談件数：前年度比△5件</p>																																																																																																																	

2 相談関係機関との連携及び相談体制の支援		所管部署	長寿社会推進部
令和元年度事業計画	事業実施概要等	具体的成果等	
(1) 相談事業関係情報の収集・管理・提供	<p>① 県社協広報紙「ふくしのひろば」(年6回発行, 発行部数各13,700部)に, 「シルバー110番」のページを設け, 高齢者福祉に関する情報等を掲載し, 福祉関係団体をはじめ, 医療, 教育, 金融, 警察等, 関係機関に配布した。</p> <p>② 鹿児島シルバー110番の周知と利用促進を図るため, パンフレット「鹿児島シルバー110番のご案内」, 冊子「各種相談窓口名簿」を関係機関に配布した。 また, 県社会福祉センターの来館者及び各種研修会等の参加者にも配布した。</p>	高齢者福祉に関する情報提供や鹿児島シルバー110番の周知と利用促進を図ることができた。	
(2) 市町村相談体制の支援	<p>① 市町村における相談体制を支援するとともに, 相談員の資質向上を図るため, 心配ごと相談所, 地域包括支援センター, 市町村社会福祉協議会の相談に係る職員等及び民生委員を対象に「各種相談員研修会」を実施した。 〈開催日〉 令和元年12月5日(休) 〈会場〉 かごしま県民交流センター 〈参加者〉 315人 〈内容〉 講義1「人生の各場面で遭遇する法的問題」 講義2「高齢者の消費生活トラブル」 DVD「高齢者を狙う詐欺・悪質商法」</p> <p>② 市町村の心配ごと相談所等の相談員等が相談業務を行う際の参考冊子「高齢者相談の手引き(第1巻～第3巻)」を要望のあった機関・団体等に配布した。</p>	関係機関・団体の相談員の資質の向上を図り, 相談体制を支援することができた。	

V 社会福祉施設・団体等の活動促進及びすこやか基金による活動助成等			
1 社会福祉振興資金の貸付		所管部署	地域福祉部(施設)
令和元年度事業計画	事業実施概要等	具体的成果等	
(1) 民間社会福祉振興資金貸付事業 (2) 社会福祉施設建設費つなぎ資金貸付事業	<p>社会福祉施設整備のための貸付資金である両資金について, 紹介チラシの配布や本会広報紙に記事を掲載するなど周知に努めた。 なお, 既貸付分の償還管理や残高照会など種々の問合せに適切に対応した。</p>	新規貸付については2件の借入相談があったが, 貸付まで至らなかった。 事業運営について県所管課と協議の結果, 令和元年度をもっ	

て(2)つなぎ資金が廃止となった。
 (1)振興資金については当面現状維持とし、今後も資金需要等の動向を踏まえて協議していく。
 既貸付分の償還状況は以下のとおり

〔民間社会福祉振興資金 年度別貸付・償還状況〕

区分 年度別	貸付額(円)		償還計画額(円)		償還済額(円)		貸付中額(円) A-C	償還率 C/B%
	年度別	累計A	年度別	累計B	年度別	累計C		
平成30年度	0	1,544,561,000	3,156,000	1,454,791,500	3,156,000	1,538,897,000	5,664,000	100.0
令和元年度	0	1,544,561,000	2,086,000	1,456,877,500	2,086,000	1,540,983,000	3,578,000	100.0

〔社会福祉施設建設費つなぎ資金 年度別貸付・償還状況〕

区分 年度別	貸付額(円)		償還計画額(円) B	償還済額(円)		未償還額(円) A-C	償還率 C/A%
	年度別	累計A		年度別	累計C		
平成30年度	0	3,731,887,000	0	0	3,731,887,000	0	100.0
令和元年度	0	3,731,887,000	0	0	3,731,887,000	0	100.0

2 福祉施設経営指導事業

所管部署 地域福祉部(施設)

(1) 個別相談及び集団指導の実施
 福祉施設経営相談コーナーを設置し、専任職員及び兼任指導員による社会福祉施設経営上の各種相談に応じるとともに、役職員を対象に経営者セミナー等を県経営協主催により開催し、福祉施設の経営安定の促進を支援する。

専任指導員1人、兼任指導員1人を配置し相談に応じた。
 (相談件数 95件)
 〔相談内容別実績〕

公認会計士・税理士の専門家を配置し専門的な指導・助言により県下の社会福祉施設等の健全な運営に寄与できた。
 ① 相談内容は、会計税務 86件、定款諸規程 6件、経営一般 3件で、会計税務に関する相談が9割を占めた。
 ② 施設別では、老人福祉施設 41件、障害者支援施設25件、児童福祉施設 2件、市町村社協等の他の施設 5件、法人本部 22件となっている。

ア 相談コーナーの運営

区分	施設経営一般	会計税務	入所者処遇	職員待遇	安全防災	衛生管理	施設整備	人材確保対策	労使問題	預かり金	地域交流	定款諸規程	その他	合計
訪問														
来所相談	1													1
電話文書	2	50										5		57
集団指導		36										1		37
合計	3	86										6		95

2	福祉施設経営指導事業	所管部署	地域福祉部(施設)
令和元年度事業計画		事業実施概要等	
		具体的成果等	
イ 研修 (7) 社会福祉法人会計研修(3回)	① 第1回会計研修(令和元年7月19日(月), 参加者185人) ② 第2回会計研修(令和元年10月10日(木), 参加者192人) ③ 第3回会計研修 鹿児島会場(令和2年2月4日(水), 参加者176人) 奄美会場(令和2年2月10日(月), 参加者27人)	会計の基礎知識と決算書類の見方, 個別相談事例及び決算処理の留意点等に関する研修を実施し, 適正な会計事務及び健全な施設経営に寄与した。	
(イ) 社会福祉法人経営者セミナー (2回)	① 第1回セミナー <開催日> 令和元年5月22日(水) <会場> 鹿児島サンロイヤルホテル <参加者> 228人 <内容> 講演Ⅰ: 『福祉人材確保』『働き方改革』等, 社会福祉法人経営を取り巻く課題への対応 行政説明: 「災害派遣福祉チーム養成事業の概要」 講演Ⅱ: 「社会福祉法人の災害対策～全国経営協の提唱ツール解説」 ② 第2回セミナー <開催日> 令和元年7月19日(火) <会場> 鹿児島サンロイヤルホテル <参加者> 194人 <内容> 講義: 「令和時代のビジョンを描く! 2040年を展望した社会福祉と社会福祉法人」 行政説明: 「社会福祉法人と働き方改革について」 説明: 「ここが知りたい社会福祉法人経営」	相次ぐ自然災害の発生を踏まえ, 地域共生社会実現の一環として各法人が取り組むべき地域の災害支援及び社会福祉法人経営に求められる将来想定される課題への対応等について理解を深めることができた。 2040年を見据えた社会福祉法人の事業展開等, 社会福祉法人を取り巻く環境を理解するとともに, 経営者が押さえておくべきポイントや着眼点について理解を深めることができた。	
(ウ) 社会福祉法人経営者大会 (1回)	第7回県社会福祉法人経営者大会 <開催日> 令和元年12月4日(水) <会場> マリンパレスかごしま <参加者> 169人 <内容> 基調講演: 「経営者が主導する働き方改革と人材確保～社会福祉法人経営をめぐる動向も含めて～」 講演Ⅰ: 「令和時代の社会福祉法人経営」 講演Ⅱ: 「明日の法人経営を考える～保育所経営法人を中心に」	社会福祉法人を取り巻く情勢の変化の中で関係者が一同に会し, その果たすべき役割について理解を深め, 社会福祉法人として地域社会の信頼をさらに得るための方策等を研究・協議することで共通認識を深め, 社会福祉法人経営の質の向上に資することができた。	

	<p>全国青年会取組報告，入会PR 説明：「お答えします！ よくあるちょっと教えて！経営協」</p>	
(2) 福祉施設経営指導連絡協議会の開催（1回）	<p>円滑かつ効果的な事業推進を図るため，県・市の行政関係職員及び福祉団体役職員で構成する経営指導連絡協議会を開催 〈開催日〉平成31年4月23日(火) 〈会場〉県社会福祉センター 〈参加者〉県くらし保健福祉部関係課長等10人</p>	<p>個別相談・集団指導及び研修に関する企画等を検討するなど、関係行政機関と福祉団体との連絡調整が図られた。</p>
3 種別協議会の活動促進		<p>所管部署 総務部 生活支援部 地域福祉部</p>
(1) 種別協議会研修費助成(8協議会)	<p>① 県民生委員児童委員協議会 971千円 ② 県老人福祉施設協議会 500千円 ③ 県保育連合会 600千円 ④ 県知的障害者福祉協会 150千円 ⑤ 県児童養護協議会 200千円 ⑥ 県母子生活支援施設協議会 50千円 ⑦ 県障害者支援施設協議会 50千円 ⑧ 県市町村社会福祉協議会連絡協議会 50千円 [研修費助成総額:2,571千円]</p>	<p>本会からの助成をとおして、種別協議会等の活動の円滑な事業実施を支援することができた。</p>
(2) 種別協議会行事開催費助成(5行事)	<p>① 知的障害者施設球技大会 400千円 ② 知的障害施設作品展 350千円 ③ 知的障害者関係施設文化祭 800千円 ④ 児童養護施設球技大会 300千円 ⑤ 社会就労センター協議会作品展即売会(ナイスハートバザール) 300千円 [行事開催費助成総額:2,150千円]</p>	
(3) 各種民生委員・児童委員研修への支援	<p>① 各種研修会開催への支援(5回) [研修会参加者 延べ1,018人] ② 各種委員会等への支援(14回)</p>	<p>各種研修会の開催や全国の研修会へ民生委員児童委員を派遣することにより、高齢者の孤立・孤独の防止や児童虐待等社会的課題を学ぶことができ、各々の単位民児協及び各委員の日常活動の活性化が図られた。</p>
(4) その他 「かごしまおもいやりネットワーク事業」への支援	<p>県社会福祉法人経営者協議会が社会福祉法人連携による「地域における公益的な取り組み」として平成30年7月に開始した「かごしまおもいやりネットワーク事業」について、周知・広報のほか、研修会等の運営支援を行った。</p>	<p>令和2年3月末現在 107法人加入 (施設法人87, 県市町村社協20)</p>

4	すこやか基金による活動助成等	所管部署	総務部, 長寿社会推進部	
令和元年度事業計画		事業実施概要等		具体的成果等
(1) シルバー文化作品展「寺園賞」等の贈呈	すこやか基金の運用果実により, シルバー文化作品展入賞者へ記念品の贈呈(助成)を行った。 〈助成内容〉寺園勝志賞・県社協会長賞(カップ)他 〈助成額〉122,277円	高齢者の創作活動への励みとなっており, 高齢者の生きがいづくりにつながった。		
(2) 民間社会福祉活動等への助成 (17件)	すこやか基金の運用果実により, 次の県内認可外保育事業を行う特定非営利活動法人等に活動に必要な機器等の備品購入助成を行った。〔実績: 17件 1,612,420円〕 〈すこやか基金助成状況〉	財政基盤の弱い福祉事業所への助成を通じて, 活動支援に資することができた。		
	No.	事業所名	助成額(円)	整備物品等
	1	子育て支援ルームキッズベース	100,000	パソコン
	2	『キッズドーム』子育て支援クラブぶたさんち	100,000	ノートパソコン
	3	一般社団法人 ブルースター 保育所 そら	98,440	ベビーカー(おさんぽ車), テントハウス他
	4	特定非営利活動法人 未来への翼	100,000	和太鼓, 締太鼓
	5	くれよんこども園	100,000	カラマット, 救急セット
	6	保育所リトル・フット東谷山園	100,000	テント, 非常持出袋, カートンネル 他
	7	なのはなナーサリー	100,000	ミュージックベル, サホカー, 手提金庫他
	8	ひらまつ保育園	100,000	クラミング
	9	はぐくみ~小規模保育~	24,000	プリンター
	10	ミルキー教育学園	100,000	チャイルドハウス, すべり台 他
	11	特定非営利活動法人くりのみ福祉会 くりのみ学園	100,000	ノートパソコン
	12	保育サポートぽよぽよハウス	89,980	キッズスポーツカー, ブロック 他
	13	檜幼児学園	100,000	なかよし三輪車, タボ三輪車
	14	深川幼児学園	100,000	5連ロッカー
	15	諏訪幼児学園	100,000	竹馬, ホッピング, 三輪車 他
	16	高岡幼児学園	100,000	CDラジカ, ステレオ, シュレッダー, コーゾ 他
	17	ゆりかご保育園	100,000	マット, ブロックセット
助成総額		1,612,420		
(3) 福祉団体九州ブロック大会等助成	申請及び助成実績なし			

VI 福祉サービスの利用支援及び苦情解決の推進

1	福祉サービス利用支援事業の推進	所管部署	福祉サービス利用支援室
令和元年度事業計画		事業実施概要等	
(1) 基幹的社協の支援	福祉サービス利用支援事業を実施する基幹的社協（市町村社協）の円滑な事業運営を支援するための相談助言や情報提供等を行うとともに、今年度より新たに鹿児島市において、福祉サービスの利用手続きや日常的な金銭管理等の利用者支援を行った。 県内における本事業の契約件数は次のとおり。	具体的成果等	
(2) 市町村社協の支援			

〔契約締結件数及び契約終了件数（単位：人）〕

基幹的社協名	契約締結件数		契約終了件数		実利用者数	基幹的社協名	契約締結件数		契約終了件数		実利用者数
	元年度	累計	元年度	累計			元年度	累計	元年度	累計	
①県社協(鹿児島市分)	41	244	17	177	67	②大崎町社協	1	9	1	6	4
②鹿屋市社協	14	395	21	303	92	③東串良町社協	1	16	1	9	7
③枕崎市社協	0	30	1	25	5	④錦江町社協	6	29	5	14	15
④阿久根市社協	12	193	6	153	40	⑤南大隅町社協	4	29	1	16	13
⑤出水市社協	12	143	12	79	64	⑥肝付町社協	16	74	4	41	33
⑥指宿市社協	6	40	3	24	16	⑦中種子町社協	2	11	3	7	4
⑦西之表市社協	7	45	7	26	19	⑧南種子町社協	0	12	2	8	4
⑧垂水市社協	3	55	7	33	22	⑨屋久島町社協	5	24	3	13	11
⑨薩摩川内市社協	10	449	21	356	93	⑩大和村社協	2	7	0	4	3
⑩日置市社協	12	112	5	70	42	⑪宇検村社協	5	12	1	4	8
⑪曾於市社協	21	109	8	65	44	⑫瀬戸内町社協	4	41	4	14	27
⑫霧島市社協	12	386	13	305	81	⑬龍郷町社協	5	43	1	22	21
⑬いちき串木野市社協	1	53	3	30	23	⑭喜界町社協	8	96	6	54	42
⑭南さつま市社協	13	293	11	223	70	⑮徳之島町社協	3	66	2	36	30
⑮志布志市社協	25	161	14	92	69	⑯天城町社協	2	37	5	25	12
⑯奄美市社協	10	291	5	236	55	⑰伊仙町社協	2	23	0	19	4
⑰南九州市社協	1	100	5	78	22	⑱和泊町社協	9	100	7	53	47
⑱伊佐市社協	3	24	3	17	7	⑲知名町社協	8	22	3	12	10
⑲始良市社協	14	164	16	110	54	⑳与論町社協	2	20	1	9	11
⑳さつま町社協	11	102	4	57	45	(県社協 H22年度まで)	0	133	0	133	0
㉑長島町社協	0	14	0	6	8	合計	319	4,258	235	2,991	1,267
㉒湧水町社協	6	50	3	27	23	※実利用者数＝契約締結件数（累計）－契約終了件数（累計）					

1 福祉サービス利用支援事業の推進		所管部署	福祉サービス利用支援室	
令和元年度事業計画	事業実施概要等		具体的成果等	
(3) 契約締結審査会の開催 (年12回)	福祉サービス利用支援事業の契約及び解約をするに当たり、利用希望者並びに解約希望者の判断能力等に疑義がある場合等、専門的見地から審査を行った。		6人の構成委員による審査や助言等により、本事業の契約締結等が適切に行われた。	
	回	開催日	内 容	出席者
	第1回	令和元年 5月21日(火)	審査案件 (2件), 契約状況及び終了報告	6人
	第2回	令和元年 7月23日(火)	審査案件 (2件), 契約状況及び終了報告	5人
	第3回	令和元年 9月18日(水)	審査案件 (4件), 契約状況及び終了報告	5人
	第4回	令和元年11月19日(火)	審査案件 (5件), 契約状況及び終了報告	5人
	第5回	令和2年 1月21日(火)	審査案件 (1件), 契約状況及び終了報告	5人
	第6回	令和2年 3月17日(火)	新型コロナウイルス感染対策により中止	-
(4) 専門員会議 (年2回)	相談から契約の締結に至るまでの業務を担う専門員の資質向上を図るための会議及び情報交換等を行った。		本事業の担い手である専門員に必要とされる知識や技術の習得により、今後の利用者支援への一助となった。	
【第1回】 〈開催日〉令和元年7月9日(火) 〈内 容〉ア 福祉サービス利用支援事業の実施状況及び 実地業務調査等について イ 福祉サービス利用支援事業にかかる事務処理について ウ 行政説明 「成年後見制度の利用促進について」 エ 事例発表「福祉サービス利用支援事業から成年後見制度への移行について」 オ 質疑・意見交換等 〈出席者〉56人		・参加者数：前年度比+3人		

- (構成委員)
- ・ 弁護士 1人
 - ・ 司法書士 1人
 - ・ 精神科医 1人
 - ・ 社会福祉士 1人
 - ・ 精神保健福祉士 1人
 - ・ 学識経験者 1人
- 計6人

	<p>【第2回】</p> <p>〈開催日〉 令和2年3月3日(火)</p> <p>〈内容〉 ア 福祉サービス利用支援事業の実施状況, 実地業務調査結果及び事業実施計画等について イ 行政説明 「成年後見制度の利用促進における状況等」</p> <p>〈出席者〉 49人</p>	<p>・参加者数：前年度比+4人</p>																		
<p>(5) 利用支援員研修 (5か所)</p>	<p>専門員の指示を受けて, 具体的な支援を提供するとともに, 利用者の生活状況の把握や利用料の徴収, 支援実施記録票の作成等の業務を担う利用支援員を対象に, 支援員の役割や支援の実務についての研修を実施した。</p> <p>〈開催日・会場・参加者〉</p> <table> <tr> <td>令和元年10月17日(木)</td> <td>鹿児島・南薩・熊毛会場</td> <td>20人</td> </tr> <tr> <td>令和元年10月24日(木)</td> <td>大島会場</td> <td>18人</td> </tr> <tr> <td>令和元年10月30日(水)</td> <td>始良・伊佐会場</td> <td>26人</td> </tr> <tr> <td>令和元年11月1日(木)</td> <td>川薩・出水会場</td> <td>24人</td> </tr> <tr> <td>令和元年11月6日(火)</td> <td>曾於・肝属会場</td> <td>29人</td> </tr> <tr> <td></td> <td>計</td> <td>117人</td> </tr> </table> <p>〈内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福祉サービス利用支援事業の現状等について ・講義「成年後見制度の現状等について」 ・情報交換会 	令和元年10月17日(木)	鹿児島・南薩・熊毛会場	20人	令和元年10月24日(木)	大島会場	18人	令和元年10月30日(水)	始良・伊佐会場	26人	令和元年11月1日(木)	川薩・出水会場	24人	令和元年11月6日(火)	曾於・肝属会場	29人		計	117人	<p>実際の支援を行う利用支援員の実務や役割等の理解を深め, 利用者支援に必要な知識を深めることができた。</p> <p>・参加者数：前年度比+1人</p>
令和元年10月17日(木)	鹿児島・南薩・熊毛会場	20人																		
令和元年10月24日(木)	大島会場	18人																		
令和元年10月30日(水)	始良・伊佐会場	26人																		
令和元年11月1日(木)	川薩・出水会場	24人																		
令和元年11月6日(火)	曾於・肝属会場	29人																		
	計	117人																		
<p>(6) 実地業務調査の実施 (40か所)</p>	<p>本事業は, 利用者及び社会からの信頼の上に成り立つ事業であることから, 40か所の基幹的社協について, 管理体制や取り組み状況及び預かり書類の確認等を行った。</p>	<p>基幹的社協の実態を把握し, 指導・助言を行うことにより適正な事業実施の推進が図られた。</p>																		

1 福祉サービス利用支援事業の推進	事業実施概要等	所管部署 福祉サービス利用支援室																																																																								
令和元年度事業計画	事業実施概要等	具体的成果等																																																																								
	<p>〔実施状況〕</p> <p>〈書類調査及び実地調査〉</p> <table border="1" data-bbox="607 300 1747 675"> <thead> <tr> <th colspan="2">基幹的社協名</th> <th colspan="2">実施日</th> <th colspan="2">基幹的社協名</th> <th colspan="2">実施日</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>①阿久根市社協</td><td>R 1. 7. 24(水)</td><td>①始良市社協</td><td>R 1. 9. 12(木)</td></tr> <tr><td>②南さつま市社協</td><td>R 1. 7. 26(金)</td><td>②天城町社協</td><td>R 1. 9. 19(木)</td></tr> <tr><td>③西之表市社協</td><td>R 1. 7. 29(月)</td><td>③伊仙町社協</td><td>R 1. 9. 19(木)</td></tr> <tr><td>④中種子町社協</td><td>R 1. 7. 29(月)</td><td>④徳之島町社協</td><td>R 1. 9. 19(木)</td></tr> <tr><td>⑤南種子町社協</td><td>R 1. 7. 29(月)</td><td>⑤指宿市社協</td><td>R 1. 9. 26(木)</td></tr> <tr><td>⑥湧水町社協</td><td>R 1. 8. 5(月)</td><td>⑥霧島市社協</td><td>R 1. 9. 30(月)</td></tr> <tr><td>⑦喜界町社協</td><td>R 1. 8. 22(木)</td><td>⑦瀬戸内町社協</td><td>R 1. 10. 25(金)</td></tr> <tr><td>⑧薩摩川内市社協</td><td>R 1. 8. 28(水)</td><td>⑧南大隅町社協</td><td>R 1. 11. 7(木)</td></tr> <tr><td>⑨志布志市社協</td><td>R 1. 8. 30(金)</td><td>⑨曾於市社協</td><td>R 1. 11. 21(木)</td></tr> <tr><td>⑩東串良町社協</td><td>R 1. 8. 30(金)</td><td>⑩出水市社協</td><td>R 1. 11. 28(木)</td></tr> </tbody> </table> <p>〈書類調査〉</p> <table border="1" data-bbox="607 707 1747 1082"> <thead> <tr> <th colspan="2">基幹的社協名</th> <th colspan="2">基幹的社協名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>①枕崎市社協</td><td>⑪錦江町社協</td></tr> <tr><td>②南九州市社協</td><td>⑫肝付町社協</td></tr> <tr><td>③日置市社協</td><td>⑬屋久島町社協</td></tr> <tr><td>④いちき串木野市社協</td><td>⑭奄美市社協</td></tr> <tr><td>⑤さつま町社協</td><td>⑮大和村社協</td></tr> <tr><td>⑥長島町社協</td><td>⑯宇検村社協</td></tr> <tr><td>⑦伊佐市社協</td><td>⑰龍郷町社協</td></tr> <tr><td>⑧大崎町社協</td><td>⑱和泊町社協</td></tr> <tr><td>⑨垂水市社協</td><td>⑲知名町社協</td></tr> <tr><td>⑩鹿屋市社協</td><td>⑳与論町社協</td></tr> </tbody> </table>	基幹的社協名		実施日		基幹的社協名		実施日		①阿久根市社協	R 1. 7. 24(水)	①始良市社協	R 1. 9. 12(木)	②南さつま市社協	R 1. 7. 26(金)	②天城町社協	R 1. 9. 19(木)	③西之表市社協	R 1. 7. 29(月)	③伊仙町社協	R 1. 9. 19(木)	④中種子町社協	R 1. 7. 29(月)	④徳之島町社協	R 1. 9. 19(木)	⑤南種子町社協	R 1. 7. 29(月)	⑤指宿市社協	R 1. 9. 26(木)	⑥湧水町社協	R 1. 8. 5(月)	⑥霧島市社協	R 1. 9. 30(月)	⑦喜界町社協	R 1. 8. 22(木)	⑦瀬戸内町社協	R 1. 10. 25(金)	⑧薩摩川内市社協	R 1. 8. 28(水)	⑧南大隅町社協	R 1. 11. 7(木)	⑨志布志市社協	R 1. 8. 30(金)	⑨曾於市社協	R 1. 11. 21(木)	⑩東串良町社協	R 1. 8. 30(金)	⑩出水市社協	R 1. 11. 28(木)	基幹的社協名		基幹的社協名		①枕崎市社協	⑪錦江町社協	②南九州市社協	⑫肝付町社協	③日置市社協	⑬屋久島町社協	④いちき串木野市社協	⑭奄美市社協	⑤さつま町社協	⑮大和村社協	⑥長島町社協	⑯宇検村社協	⑦伊佐市社協	⑰龍郷町社協	⑧大崎町社協	⑱和泊町社協	⑨垂水市社協	⑲知名町社協	⑩鹿屋市社協	⑳与論町社協	
基幹的社協名		実施日		基幹的社協名		実施日																																																																				
①阿久根市社協	R 1. 7. 24(水)	①始良市社協	R 1. 9. 12(木)																																																																							
②南さつま市社協	R 1. 7. 26(金)	②天城町社協	R 1. 9. 19(木)																																																																							
③西之表市社協	R 1. 7. 29(月)	③伊仙町社協	R 1. 9. 19(木)																																																																							
④中種子町社協	R 1. 7. 29(月)	④徳之島町社協	R 1. 9. 19(木)																																																																							
⑤南種子町社協	R 1. 7. 29(月)	⑤指宿市社協	R 1. 9. 26(木)																																																																							
⑥湧水町社協	R 1. 8. 5(月)	⑥霧島市社協	R 1. 9. 30(月)																																																																							
⑦喜界町社協	R 1. 8. 22(木)	⑦瀬戸内町社協	R 1. 10. 25(金)																																																																							
⑧薩摩川内市社協	R 1. 8. 28(水)	⑧南大隅町社協	R 1. 11. 7(木)																																																																							
⑨志布志市社協	R 1. 8. 30(金)	⑨曾於市社協	R 1. 11. 21(木)																																																																							
⑩東串良町社協	R 1. 8. 30(金)	⑩出水市社協	R 1. 11. 28(木)																																																																							
基幹的社協名		基幹的社協名																																																																								
①枕崎市社協	⑪錦江町社協																																																																									
②南九州市社協	⑫肝付町社協																																																																									
③日置市社協	⑬屋久島町社協																																																																									
④いちき串木野市社協	⑭奄美市社協																																																																									
⑤さつま町社協	⑮大和村社協																																																																									
⑥長島町社協	⑯宇検村社協																																																																									
⑦伊佐市社協	⑰龍郷町社協																																																																									
⑧大崎町社協	⑱和泊町社協																																																																									
⑨垂水市社協	⑲知名町社協																																																																									
⑩鹿屋市社協	⑳与論町社協																																																																									
(7) 関係機関・団体との連携	<p>① 県地域生活定着支援センター関係機関連絡会議</p> <p>〈開催日〉 令和元年8月1日(木)</p> <p>〈参加者〉 県更生保護女性連盟, 更生保護法人草牟田寮, 県知的障害者福祉協会, 県老人福祉施設協議会, 県民生委員児童委員協議会, 県精神保健福祉会連合会, 県障害者職業センター, 鹿児島保護観察所, 鹿児島刑務所, 鹿児島少年鑑別所, 県精神保健福祉センター, 県発達障害者支援センター, 鹿児島知的障害者更生相談所, かごしま子ども</p>	<p>県及び関係機関等が主催する会議等へ出席し, 関係者との意見交換を行い本事業についての理解が得られ, 事業を推進するための関係機関等とのネットワーク構築が図られた。</p>																																																																								

	<p>若者総合相談センター， 県関係課， 鹿児島地方検察庁， 県弁護士会， 県地域生活定着支援センター</p> <p>〈内 容〉 県地域生活定着支援センター事業報告 司法と福祉の連携に関する現状と課題</p> <p>② 家事関係機関との連絡会議 〈開催日〉 令和元年12月19日(木) 〈参加者〉 県弁護士会， 県司法書士会， 県税理士会， 県社会福祉士 会， 関係行政機関・団体， 鹿児島家裁等</p> <p>〈内 容〉 後見人の業務内容説明 事例検討「後見人候補者について」</p> <p>③ 成年後見制度利用促進に係る検討会 〈開催日〉 鹿児島地域：令和元年 8月30日(金) 南薩地域：令和元年 8月20日(火) 令和元年10月31日(木) 北薩地域：令和元年 6月28日(金) 令和元年12月20日(金) 始良・伊佐地域：令和元年 5月29日(水) 大隅地域：令和元年 8月 9日(金) 令和元年11月20日(水) 熊毛地域：令和元年 7月30日(火) 令和2年 1月22日(水)</p> <p>〈参加者〉 県， 各地域の行政及び社協， 家庭裁判所， 三士会（弁護士会， リーガルサポート， 社会福祉士会）</p> <p>〈内 容〉 各市町村の成年後見制度利用促進に係る取り組みに関する 検討状況説明 意見交換 等</p> <p>④ 鹿児島市における地域ふくし連帯保証を推進するための協議会 〈開催日〉 令和元年 8月21日(水) 令和元年 9月12日(木) 令和元年10月15日(月) 令和元年11月20日(水)</p> <p>〈参加者〉 県・市行政， 市地域包括支援センター， 全日不動産協会 県本部， 県住宅・建築総合センター， 鹿児島不動産バン ク， 県社会福祉法人経営者協議会， 市基幹型相談支援セ ンター運営協議会， 県社会福祉士会， 介護支援専門員協 会鹿児島， 済生会鹿児島地域福祉センター， (株)AUG， 県社協， 市社協</p>	
--	---	--

1 福祉サービス利用支援事業の推進		所管部署	福祉サービス利用支援室
令和元年度事業計画	事業実施概要等	具体的成果等	
	<p>〈内 容〉 ・ 地域共生社会の創造と居住支援 ・ 鹿児島市における居住支援の課題について ・ 新たな住宅セーフティネット制度について ・ 県居住支援協議会の取組みについて ・ 居住支援に関する事例紹介 ・ 大牟田市が進めてきた福祉・住宅の連携による居住支援施策のプロセスと実践</p> <p>⑤ 鹿児島市居住支援ネットワーク会議 〈開催日〉 令和2年 1月 9日(木) 〈参加者〉 県・市行政, 県宅地建物取引業協会, 全日不動産協会県本部, 県社会福祉法人経営者協議会, 済生会鹿児島地域福祉センター, 県精神保健福祉士協会, 介護支援専門員協会鹿児島, 県住宅・建築総合センター</p> <p>〈内 容〉 県居住支援協議会の取組と市町村居住支援協議会の役割について 居住支援団体等の活動事例紹介 具体的事例に基づく居住支援のあり方について</p> <p>⑥ 鹿児島県居住支援協議会 〈開催日〉 令和2年 3月26日(木) ※新型コロナウイルス感染対策により書面会議 〈参加者〉 県・市行政, 県宅地建物取引業協会, 全日不動産協会県本部, 県住宅・建築総合センター, やどかりサポート, 社会福祉法人南恵会</p> <p>〈内 容〉 令和元年度活動報告 令和2年度活動計画(案)</p>		
(8) 広報・啓発活動の推進	<p>① 県内各種関係機関団体研修会等での広報・啓発活動</p> <p>ア 被保護世帯法律問題研修 〈開催日〉 令和元年9月4日(水) 〈会 場〉 県社会福祉センター 〈参加者〉 54人 〈内 容〉 福祉サービス利用支援事業について</p> <p>イ 曾於市社協役員研修会 〈開催日〉 令和元年11月22日(金)</p>	<p>事業の説明や広報紙等の配布を行うことによって、本事業への理解及び協力体制が深められた。</p>	

	<p>〈会 場〉 財部保健福祉センター 〈参加者〉 21人 〈内 容〉 福祉サービス利用支援事業の現状及び成年後見制度</p> <p>② リーフレットの配布 基幹的社協や民生委員協議会，行政等の関係機関に配布して事業の広報に努めた。</p> <p>③ 本会広報紙「ふくしのひろば」への情報掲載等 事業内容や連絡先等を広報紙に掲載し，県内の各機関団体等に配布したほか，ホームページ等を通じて本事業の広報に努めた。</p>									
(9) 専門員セミナーの開催	<p>地域での暮らしを支える意志決定支援と権利擁護の積極的推進を図るためのセミナーを開催した。 〈開催日〉 令和2年3月3日(火) 〈内 容〉 情勢説明 「日常生活自立支援事業の現状と今後の展開」 〈参加者〉 49人</p>	<p>福祉サービス利用支援事業を担当する専門員等の資質向上が図られ，適正な事業運営への理解が深められた。</p> <p>・参加者数：前年度比△2人</p>								
2 福祉サービス苦情解決事業の推進	<p>所管部署 長寿社会推進部</p>									
<p>(1) 福祉サービス運営適正化委員会の運営 ア 運営適正化委員会の開催 (2回) イ 福祉サービス利用支援事業運営監視委員会の開催及び基幹的社協等現地訪問調査の実施 (委員会4回訪問調査20か所) ウ 福祉サービスに関する苦情解決委員会の開催 (6回) エ 運営適正化委員会委員を選考する委員会の開催 (必要に応じて開催) オ 九州ブロック運営適正化委員会事務局連絡会議への参加 (1回)</p>	<p>県社協に第三者機関として設置されている「福祉サービス運営適正化委員会」を運営し，福祉サービス利用支援事業の適正な運営を確保するとともに，福祉サービスに関する利用者等からの苦情の適切な解決に努めた。</p> <p>また，多様化する苦情等の解決に向けた取組や情報共有等を図るため，全国や九州ブロックの運営適正化委員会に関する会議や研修会に参加した。</p> <table border="0"> <tr> <td>① 運営適正化委員会</td> <td>2回</td> </tr> <tr> <td>② 運営監視委員会</td> <td>4回</td> </tr> <tr> <td>③ 運営監視委員会による基幹的社協訪問調査</td> <td>10か所</td> </tr> <tr> <td>④ 苦情解決委員会</td> <td>5回</td> </tr> </table>	① 運営適正化委員会	2回	② 運営監視委員会	4回	③ 運営監視委員会による基幹的社協訪問調査	10か所	④ 苦情解決委員会	5回	<p>定期的な委員会開催により，福祉サービス利用支援事業の適正な運営が確保されるとともに，利用者等からの苦情に対して速やかな対応がなされた。</p> <p>また，全国及び九州ブロックの運営適正化委員会会議等に参加し，苦情案件の対応や事業所における苦情解決体制整備など情報交換の機会を得ることができた。</p>
① 運営適正化委員会	2回									
② 運営監視委員会	4回									
③ 運営監視委員会による基幹的社協訪問調査	10か所									
④ 苦情解決委員会	5回									

2 福祉サービス苦情解決事業の推進		所管部署	長寿社会推進部
令和元年度事業計画	事業実施概要等	具体的成果等	
(2) 相談・苦情の受付	<p>福祉サービス利用者等からの苦情の受付 86件 [内訳] ① 申出人：利用者 39件，家族 40件，職員 3件，その他 4件 ② 対象種別：高齢者 21件，障害者 49件，児童 11件，その他 5件 ③ 解決結果：相談助言 67件，紹介伝達 14件，あっせん 0件， 県への通知 0件，その他 2件，継続中 0件，不調 3件</p> <p>その他問い合わせ・相談の受付 16件</p>	<p>受け付けた苦情については，助言や適切な機関等への伝達を図ることで，利用者等の福祉サービス利用につながった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・苦情の受付件数：前年度比+13件 ・その他問い合わせ件数 前年度比+1件 	
(3) 広報・啓発活動の実施 ア 広報紙「ふくしのひろば」，ホームページへの掲載 イ ポスター・リーフレットの配布	<p>① 広報紙「ふくしのひろば」への掲載（1回） ② 本会ホームページによる広報啓発 ③ ポスター，リーフレットの作成・配布 ポスター 作成：1,000部，配布：811部 リーフレット 作成：3,000部，配布：3,623部</p>	<p>ホームページに調査結果や関係資料等を掲載するなど内容充実を図り，福祉関係者及び一般県民へのより一層の制度周知につながった。</p>	
(4) 研修会の実施 相談・苦情解決事業に関する研修会〔初級編〕（1回）	<p>令和元年度福祉サービスに関する相談・苦情解決事業研修会（初級編）の開催（自主開催研修） 〈開催日〉 令和元年9月27日（金） 〈会場〉 かごしま県民交流センター 1階 県民ホール 〈参加者〉 苦情受付担当者・苦情解決責任者・第三者委員 460人 〈内容〉 講義1：「苦情を福祉サービスの質の向上に活かすには」 西南学院大学 人間科学部 社会福祉学科 教授 倉田 康路 氏 講義2：「クレーム対応に求められるコミュニケーションスキル」 A-cube株式会社 代表取締役会長 立元 昭子 氏</p>	<p>事業者に必要な苦情解決の取組の基本や苦情解決に必要なコミュニケーションスキル等を学んだことで，各事業所における苦情対応への参考となり，苦情受付担当者・解決責任者・第三者委員の役割と対応について，なお一層の理解が深まった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加者数：前年度比△26人 	
(5) 事業所への巡回訪問の実施（30か所）	<p>社会福祉事業の事業者段階における自主的な苦情解決が適切に行われるよう，県内の各事業所を訪問して苦情解決体制の整備状況を把握するとともに，体制整備に関する相談・助言に応じ，福祉サービスの質の向上につながることのできる苦情解決体制の構築に向けて，県内30事業所の巡回訪問を実施した。</p>	<p>巡回訪問を行った結果，それぞれの体制整備状況を把握でき，かつ第三者委員等の体制整備が図れていない事業所について，体制整備の構築につながった。</p>	

	<p>(巡回内訳)</p> <p>高齢分野事業所：10か所，児童分野事業所：10か所 障害分野事業所：10か所，計 30か所</p>	
<p>(6) 調査研究活動の実施 苦情解決対応事例集の作成</p>	<p>事業所内での研修等で活用するため，福祉サービス事業所に対応した苦情事例等を収集し，事例集を作成後，ホームページ上で公表した。</p>	<p>福祉事業所における苦情解決事例集を作成し，ホームページで公表することで各事業所における苦情対応の研修材料を提供することができた。</p>

VII 福祉人材の養成・確保		
1	福祉人材の安定的な確保を図るための支援	所管部署 福祉人材・研修センター
令和元年度事業計画	事業実施概要等	具体的成果等
(1) 福祉人材無料職業紹介業務 ア 求人開拓, 求人求職登録, 紹介斡旋	福祉施設及び福祉系学校を訪問し, 福祉人材無料職業紹介所の利用促進と求人求職者の開拓及び各種情報提供を行った。 また, 求人施設及び求職者に対して, 求人求職登録を推進した。 ① 求人求職者開拓 〈訪問力所数〉 1,248か所(事業所 636か所, 学校等 612か所) ② 求人求職登録, 紹介斡旋業務 〈求職者数〉 1,345人 〈求人数〉 10,147人 〈応募者数〉 1,010人 〈窓口来所者数〉 68人 〈採用者数〉 82人(就職面談会等の実績含む) ③ 相談件数 1,550件	キャリア支援専門員が中心となり, 福祉施設及び福祉系学校等を訪問することにより, 福祉人材無料職業紹介所の周知と利用促進が図られた。 また, 求人や求職者の登録, 紹介斡旋業務を通じ, 求職者の就業支援及び求人施設の人材確保に資することができた。
イ 広報誌, インターネット等による各種情報の提供	福祉保健職場へ就職を希望する人等に対し, 事業所情報, 求人情報, 各種講座, イベントの開催, 資格取得方法等の詳細情報を提供した。	事業所情報, 求人情報, 各種講座, イベントの開催, 資格取得の方法等の詳細情報を提供することにより, 求職者の就業支援が図られた。
ウ 関係機関・団体との連携, 情報交換	福祉人材無料職業紹介事業を円滑に推進するため「無料職業紹介事業に係る連絡会議」を開催した。 〈開催日〉 令和元年6月14日(木) 〈会場〉 県社会福祉センター 〈参加者〉 鹿児島労働局職業安定課・職業対策課, 鹿児島公共職業安定所, 県看護協会ナースセンター, 県医師協同組合, 県社会福祉課, 県社協福祉人材・研修センター 〈議題〉 所管事業の最近の動向, 福祉・保健医療職場の人材確保に関する情報交換及び事業面での協力・連携について	無料職業紹介事業に係る連絡会議の開催により, 関係機関・団体との連携が強化され, 求職者の就業支援が図られた。
(2) 福祉・保健医療職場就職ガイダンスの開催 ア 開催日 令和元年8月6日(火) イ 会場 鹿児島サンロイヤルホテル	福祉・保健医療職場の人材確保及び就職希望者の求職活動を支援するため, 「就職ガイダンス」を開催した。 〈開催日〉 令和元年8月6日(火) 〈会場〉 鹿児島サンロイヤルホテル	全国的に求人の増加傾向が見られる中, 福祉・保健医療職場

	<p>〈参加法人〉 113法人 (106ブース) 〈求人数〉 902人 〈参加求職者〉 105人 〈面談者延人数〉 528人 〈採用決定者数〉 21人 〈共催団体〉 全国社会福祉協議会など4団体</p>	<p>の人材確保及び就職希望者の求職活動が支援できた。</p>
<p>(3) 福祉の職場就職面談会の開催 ア 開催日 令和2年2月11日(火) (祝日) イ 会場 かごしま県民交流センター</p>	<p>福祉職場の人材確保及び就職希望者の求職活動を支援するため、「就職面談会」を開催した。 〈開催日〉 令和2年2月11日(火・祝日) 〈会場〉 かごしま県民交流センター 〈参加法人〉 80法人 (73ブース) 〈求人数〉 691人 〈参加求職者〉 93人 〈面談者延人数〉 311人 〈採用決定者数〉 7人 〈共催団体〉 鹿児島公共職業安定所</p>	<p>福祉職場の人材確保及び就職希望者の求職活動が支援できた。</p>
<p>(4) 福祉人材総合メニュー講座の開催 ア 福祉職場就職支援講座 令和元年11月16日(土), 23日(土)</p>	<p>福祉に係る知識・技術の習得, 福祉人材に関する情報を提供し, 地域住民のニーズに即した福祉サービスの確保に資するため各種講座を開催した。 ① 福祉職場就職支援講座 〈開催日〉 令和元年11月16日(土), 23日(土) 〈回数〉 全4講座 〈会場〉 かごしま県民交流センター 〈参加人員〉 全4講座で延べ114人 〈対象者〉 福祉職場に就職・復職を希望する一般の方々及び学生 〈内容〉 介護技術の基礎 (立位, ベッド上での移動, 車いすの介助, 衣服の着脱, 排泄の介助) など</p>	<p>福祉についての理解を深めてもらうとともに, 進路選択や福祉の職場で働くために必要な知識や技術を習得してもらう講座を開催することにより, 就職活動への支援が図られた。</p>
<p>イ 福祉職場就活応援セミナー (2)の就職ガイダンスと同日開催</p>	<p>② 福祉人材養成講座(福祉職場就活応援セミナー) 〈開催日〉 令和元年8月6日(火) 〈会場〉 鹿児島サンロイヤルホテル 〈参加人員〉 71人 〈対象者〉 福祉職場への就職を希望するなど福祉に関心がある者, 大学, 短大, 専門学校等の最終学年在学者 〈内容〉 (1) 福祉の職場の現状と就職の心構え (2) 福祉の未来の可能性と自分に合う職場の見つけ方</p>	<p>福祉職場への就職希望者に対する福祉職場に関するイメージアップと就業意欲の向上に資することができた。</p>

1	福祉人材の安定的な確保を図るための支援	所管部署	福祉人材・研修センター																																													
	令和元年度事業計画	事業実施概要等																																														
		具体的成果等																																														
	<p>(5) 福祉人材確保支援セミナーの開催</p> <p>ア 開催日 令和2年2月21日(金)</p> <p>イ 会場 かごしま県民交流センター</p> <p>質の高い福祉人材を安定的に確保し、また、安定した福祉経営を確立するため、適切な労務管理と働きやすい職場づくりなど、福祉職員の定着のための方策を学ぶためのセミナーを開催した。</p> <p>〈開催日〉 令和2年2月21日(金)</p> <p>〈会場〉 かごしま県民交流センター</p> <p>〈参加者〉 81人</p> <p>〈対象者〉 社会福祉法人代表者・役員、社会福祉施設等の施設長・事務長・人事担当者等</p> <p>〈内容〉 (1) 福祉施設における職員の育成・定着について (2) 福祉施設において留意すべき労務管理のポイント～働き方改革法の内容を踏まえて～</p>	<p>福祉分野への求職者が減少する中、福祉人材の確保のためのセミナーを開催することにより、安定した福祉経営と福祉人材の確保・定着に資することができた。</p>																																														
2	福祉・介護人材確保事業	所管部署	福祉人材・研修センター																																													
	<p>(1) キャリア支援専門員の配置 県社協本所2人 鹿屋市社協1人 奄美市社協1人 合計4人</p> <p>キャリア支援専門員4人を次のとおり配置し、求職者のニーズに合わせた職場開拓や職場紹介等を行った。</p> <p>① 配置先 県社協本所2人、鹿屋市駐在(市社協)1人、 奄美市駐在(市社協)1人 合計4人</p> <p>② キャリア支援専門員巡回活動状況</p> <table border="1" data-bbox="725 903 1447 1206"> <thead> <tr> <th>各ブロック</th> <th>訪問施設延件数</th> <th>相談</th> <th>紹介</th> <th>採用</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>鹿 児 島</td> <td>215</td> <td>311</td> <td>105</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>南薩,種子・屋久</td> <td>98</td> <td>107</td> <td>5</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>始良・伊佐</td> <td>154</td> <td>137</td> <td>10</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>日 置</td> <td>23</td> <td>32</td> <td>2</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>大 隅</td> <td>312</td> <td>214</td> <td>67</td> <td>22</td> </tr> <tr> <td>北 薩</td> <td>58</td> <td>169</td> <td>165</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>大 島</td> <td>388</td> <td>326</td> <td>25</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>1,248</td> <td>1,296</td> <td>379</td> <td>46</td> </tr> </tbody> </table>	各ブロック	訪問施設延件数	相談	紹介	採用	鹿 児 島	215	311	105	4	南薩,種子・屋久	98	107	5	1	始良・伊佐	154	137	10	2	日 置	23	32	2	1	大 隅	312	214	67	22	北 薩	58	169	165	6	大 島	388	326	25	10	計	1,248	1,296	379	46	<p>キャリア支援専門員の巡回により、管轄下の施設・事業所との連携が図られ、求職者のニーズに合わせた職場開拓等や、求人施設と求職者のマッチングを行い、円滑な就労・定着等が図られた。</p> <p>・当事業による採用 46人</p>	
各ブロック	訪問施設延件数	相談	紹介	採用																																												
鹿 児 島	215	311	105	4																																												
南薩,種子・屋久	98	107	5	1																																												
始良・伊佐	154	137	10	2																																												
日 置	23	32	2	1																																												
大 隅	312	214	67	22																																												
北 薩	58	169	165	6																																												
大 島	388	326	25	10																																												
計	1,248	1,296	379	46																																												
	<p>(2) 就職面談会の開催 (県内2か所)</p> <p>福祉職場の人材確保及び就職希望者の求職活動を支援するため、就職面談会を開催した。</p> <p>① 介護の職場就職面談会《鹿屋市》</p> <p>〈開催日〉 令和元年10月6日(日)</p> <p>〈会場〉 かのや大黒グランドホテル</p>	<p>福祉職場の人材確保及び就職希望者の求職活動が支援できた。</p>																																														

	<p>〈参加法人〉 25法人 (25ブース) 〈求人数〉 154人 〈参加求職者〉 15人 〈面談者延人数〉 64人 〈採用決定者数〉 0人 〈共催団体〉 鹿屋公共職業安定所, 大隅公共職業安定所 鹿屋市, 鹿屋市社会福祉協議会</p> <p>② 介護の職場就職面談会《霧島市》 〈開催日〉 令和元年11月24日(日) 〈会場〉 国分シビックセンター 〈参加法人〉 19法人 (18ブース) 〈求人数〉 183人 〈参加求職者〉 33人 〈面談者延人数〉 65人 〈採用決定者数〉 3人 〈共催団体〉 国分公共職業安定所, 国分公共職業安定所大 口出張所, 霧島市, 霧島市社会福祉協議会</p>	
--	---	--

3	介護福祉士修学資金等の貸付	所管部署	生活支援部														
<p>(1) 介護福祉士修学資金(等)貸付事業</p> <p>ア 介護福祉士修学資金貸付 介護職を目指す学生に修学金等の貸付 (7) 修学金(月額) 50千円以内 (4) 入学準備金 200千円以内(初回交付時) (7) 就職準備金 200千円以内(最終回交付時) (1) 生活費加算(月額)30千円以内 ※ (1)は生活保護世帯等が対象</p> <p>イ 介護福祉士実務者研修受講資金貸付 介護福祉士の資格取得を目指す実務者研修受講者に受講資金の貸付 (7) 貸付額 100千円以内</p> <p>ウ 介護人材再就職準備金貸付 離職した介護職員で介護職へ再就職する者に再就職準備金の貸付 (7) 貸付額 200千円以内</p>	<p>県社協ホームページへの掲載のほかリーフレットや手引きを作成し、県内外の養成施設(大学等)や市町村社協等を通じて借入希望者や関係者へ資料配付・説明を行うなど、制度の利用促進に努めた。</p> <p>[令和元年度貸付状況]</p> <p style="text-align: right;">(単位:人)</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">区 分</th> <th style="text-align: center;">計 画</th> <th style="text-align: center;">実 績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">介護福祉士修学資金</td> <td style="text-align: center;">69</td> <td style="text-align: center;">56</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">介護福祉士実務者研修受講資金</td> <td style="text-align: center;">80</td> <td style="text-align: center;">42</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">介護人材再就職準備金</td> <td style="text-align: center;">50</td> <td style="text-align: center;">1</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">合 計</td> <td style="text-align: center;">199</td> <td style="text-align: center;">99</td> </tr> </tbody> </table>	区 分	計 画	実 績	介護福祉士修学資金	69	56	介護福祉士実務者研修受講資金	80	42	介護人材再就職準備金	50	1	合 計	199	99	<p>修学資金の貸付により、若い人の福祉・介護分野への参入を促進し、質の高い人材の確保と定着のための環境整備が図られた。</p>
区 分	計 画	実 績															
介護福祉士修学資金	69	56															
介護福祉士実務者研修受講資金	80	42															
介護人材再就職準備金	50	1															
合 計	199	99															

3 介護福祉士修学資金等の貸付	事業実施概要等	所管部署	生活支援部																								
令和元年度事業計画	事業実施概要等	具体的成果等																									
<p>(2) 介護福祉士(等)修学資金貸付事業 平成21年度から平成23年度までの3年間に介護福祉士コース等の学生に貸し付けた修学資金の償還管理</p>	<p>平成21年度から平成23年度までの3年間に貸し付けた介護福祉士等修学資金借受者について、返還免除や返還などの償還管理を行った。※参考：貸付(送金)は、平成27年度で終了。 [令和元年度の状況] ① 返還免除 11人 ② 返還状況</p> <p style="text-align: right;">(単位：千円)</p> <table border="1" data-bbox="696 472 1776 687"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>償還計画額 A</th> <th>償還済額 B</th> <th>未償還額 (A-B)</th> <th>償還率 % (B/A*100)</th> <th>返還対象人数 (人)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>過年度分</td> <td>5,694</td> <td>764</td> <td>4,930</td> <td>13.4</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>現年度分</td> <td>1,780</td> <td>1,232</td> <td>548</td> <td>69.2</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>7,474</td> <td>1,996</td> <td>5,478</td> <td>26.7</td> <td>実人員11</td> </tr> </tbody> </table>	区分	償還計画額 A	償還済額 B	未償還額 (A-B)	償還率 % (B/A*100)	返還対象人数 (人)	過年度分	5,694	764	4,930	13.4	9	現年度分	1,780	1,232	548	69.2	7	計	7,474	1,996	5,478	26.7	実人員11		
区分	償還計画額 A	償還済額 B	未償還額 (A-B)	償還率 % (B/A*100)	返還対象人数 (人)																						
過年度分	5,694	764	4,930	13.4	9																						
現年度分	1,780	1,232	548	69.2	7																						
計	7,474	1,996	5,478	26.7	実人員11																						
4 保育士修学資金貸付等事業	事業実施概要等	所管部署	生活支援部																								
令和元年度事業計画	事業実施概要等	具体的成果等																									
<p>(1) 保育士修学資金貸付 保育士養成施設に通う学生に対し、修学資金の貸付を行う。 ア 貸付月額：50千円以内(2年間を限度) イ 入学準備金：200千円以内(初回交付時) ウ 就職準備金：200千円以内(卒業時)</p> <p>(2) 未就学児を持つ保育士に対する保育料の一部貸付 未就学児を持つ潜在保育士に対し、自身が支払うべき未就学児の保育料の一部貸付を行う。 ○貸付月額：27千円以内(1年間を限度)</p> <p>(3) 就職準備金 潜在保育士に対し、再就職する場合の就職準備金の貸付を行う。 ○貸付額：200千円以内(1回限り)</p>	<p>保育士を目指す学生の就学を支援するとともに、卒業後の保育現場への就労・定着を促進するため、修学資金等を貸付けた。 また、離職した一定の経験を有する潜在保育士等の再就職支援を促進するため、就職準備金等の貸付を行った。</p> <p>[令和元年度貸付状況] (単位：人)</p> <table border="1" data-bbox="696 1058 1386 1326"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>計 画</th> <th>実 績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保育士修学資金貸付</td> <td>50</td> <td>50</td> </tr> <tr> <td>未就学児を持つ保育士に対する保育料の一部貸付</td> <td>4</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>就職準備金</td> <td>4</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>58</td> <td>54</td> </tr> </tbody> </table>	区 分	計 画	実 績	保育士修学資金貸付	50	50	未就学児を持つ保育士に対する保育料の一部貸付	4	2	就職準備金	4	2	合 計	58	54	<p>保育士を目指す学生の修学を容易にすることにより、質の高い保育士の養成と県内の保育現場の人材確保に向けて環境整備が図られた。</p> <p>また、潜在保育士の再就職支援等を行うことにより、保育現場の人材確保が図られた。</p>										
区 分	計 画	実 績																									
保育士修学資金貸付	50	50																									
未就学児を持つ保育士に対する保育料の一部貸付	4	2																									
就職準備金	4	2																									
合 計	58	54																									

5 社会福祉事業従事者等研修		所管部署	福祉人材・研修センターほか	
(1) 県委託研修 ア 社会福祉施設等職員研修 (6コース)	社会福祉事業従事者の資質向上等を図るため、次の研修を実施した。 ア 社会福祉施設等職員研修 (6コース)		研修内容等について、研修受講者から概ね高い評価を得ている。	
	研修区分 (受講対象)	実施日	受講者数	備考
	① 新任職員研修 (経験年数1年未満の職員)	令和元年5月21日～22日 6月11日～6月12日	319人	・受講者数：対前年比+12人
	② 中堅職員研修 (新任研修後3年経過職員)	令和元年8月21日～22日	120人	・受講者数：対前年比△8人
	③ 監督職員研修 (指導監督職員で、経験年数10年を経過した職員)	令和元年9月5日～6日	55人	・受講者数：対前年比△21人
	④ 施設長等運営管理職員研修 (正副施設長、事務長等の運営管理職員)	令和元年9月26日～27日	15人	・受講者数：対前年比△15人
	⑤-1 社会福祉施設監事等 研修 (法人の理事、監事及び施設長・事務長)	令和元年7月29日	83人	・受講者数：対前年比△59人
	⑤-2 市町村社会福祉協議会 監事研修 (市町村社協の監事)	令和元年7月8日	44人	・受講者数：対前年比+5人
	⑥ へき地保育所保育士・ 児童厚生員研修 (隔年開催)	令和元年7月18日～19日	13人	・受講者数：対前年比△7人
イ 社会福祉行政職員研修 (1コース)	イ 社会福祉行政職員研修 (1コース)			
	研修区分 (受講対象)	実施日	受講者数	備考
	① 社会福祉行政職員研修 (福祉事務所及び各種相談所並びに県立福祉施設に勤務する職員 (生活保護担当者除く))	令和元年6月27日	26人	・受講者数：対前年比△7人

5 社会福祉事業従事者等研修				所管部署	福祉人材・研修センターほか
令和元年度事業計画	事業実施概要等			具体的成果等	
ウ 被保護世帯法律問題等研修 (5コース)	ウ 被保護世帯法律問題等研修 (5コース) 受講対象者：県・市町村福祉事務所等の生活保護担当職員				
	研修区分	実施日	受講者数	備考	
	① 新任生活保護担当職員研修	令和元年5月13日～15日	68人	・受講者数：対前年比△2人	
	② 生活保護担当職員研修	令和元年7月10日～11日	25人	・受講者数：対前年比+5人	
	③ 法律問題研修（扶養）	令和元年9月 3日～ 4日	54人	・受講者数：対前年比+9人	
	④ 法律問題研修（資産）	令和元年10月 7日～ 8日	48人	・受講者数：対前年比+2人	
⑤ 法律問題研修（他法他施策）	令和元年11月14日～15日	49人	・受講者数：対前年比+8人		
エ 福祉サービス第三者評価調査者継続研修 (2コース)	<p>福祉サービス第三者評価調査者に対して、業務を継続的に実施するために必要な知識等の付与及び資質向上のための福祉サービス第三者評価調査者継続研修を実施した。</p> <p>〈開催日〉 令和元年7月13日(土)、9月14日(土)</p> <p>〈場所〉 県社会福祉センター6階 研修室</p> <p>〈対象者〉 鹿児島県の評価調査者養成研修修了者名簿に記載されている者</p> <p>〈受講者数〉 39人</p> <p>〈内容〉 講義「第三者評価の実施状況と課題」 講義「理念とリーダーシップの関係」 演習「事例に学ぶ経営理念とリーダーシップ」</p>				円滑な評価が行えるよう演習主体の研修を実施することで、調査者の資質向上が図られた。
(2) 独自研修（社会福祉関係職員課題別研修）	社会福祉関係職員課題別研修				
	研修区分 (受講対象)	実施日	受講者数	備考	
ア 職場内研修担当者研修 (養成1回, フォローアップ1回)	① 職場内研修担当者研修 養成コース(職場内研修を推進する担当者)	令和元年10月 3～ 4日	30人	・受講者数：対前年比+4人	
	② 職場内研修担当者研修 フォロ ーアップコース(職場内研修を推進する担当者)	令和元年11月 5～ 6日	19人	・受講者数：対前年比△5人	
イ カウンセリング研修 (基礎2回, 発展2回)	③ カウンセリング研修(基礎) (各種相談業務従事職員)	(基礎) 令和元年 7月25～26日 令和元年 8月 5～ 6日	90人	・受講者数：対前年比△5人	

ウ 救急法研修 (3回) カ 警戒警備危機管理研修 (1回) キ エルダー・メンター研修 (1回)	④ カンセリング研修(発展) (各種相談業務従事職員)	(発展) 令和元年 8月26～27日 令和元年 9月19～20日	53人	・受講者数：対前年比△21人
	⑤ 救急法研修 (福祉施設及び社協に勤務する職員)	令和元年 8月16日 令和元年 9月18日 令和元年10月 1日	59人	・受講者数：対前年比△24人
	⑥ 警戒警備危機管理研修 (社会福祉施設等に勤務する職員)	令和元年8月28日	53人	・受講者数：対前年比△7人
	⑦ エルダー・メンター研修 (社会福祉施設等における中堅・チームリーダーの役割を担う職員)	令和元年11月20日～21日	39人	・受講者数：対前年比△17人
カ 福祉サービス苦情解決研修会 〔中級編〕(2回)	令和元年度福祉サービス苦情解決研修会（中級編）の開催 〈開催日〉【A日程】令和2年1月20日(月)～21日(火) 【B日程】令和2年2月3日(月)～4日(火) 〈会場〉マリパレスかごしま 3階 マリンホール 〈参加者〉【A日程】苦情受付担当者・苦情解決責任者 134人 【B日程】苦情受付担当者・苦情解決責任者 79人 計 213人 〈内容〉ア 全体講義・演習 「コミュニケーション力と組織力を強化する 苦情解決能力向上研修」 株式会社ツクイスタッフ 専任講師 山郷 政史 氏 イ 分野別演習 「各分野における苦情解決のポイントと解決策の検討」 【A日程】(障害)榎山学園 副施設長 小屋敷 美知子 氏 (児童)むれが岡保育園 施設長 川原園 正史 氏 【B日程】(高齢)特養)朋愛園 事務長 竹村 仁 氏 特養)青山荘 施設長 石踊 紳一郎 氏		グループワークを通して苦情の原因分析やコミュニケーションの知識及び苦情解決プロセスを学んだことで、各事業所における苦情対応の参考となり、苦情受付担当者・解決責任者・第三者委員の役割の理解が深まり、対応スキルの向上が図られた。 また、事業所の管理者等を対象に上級編を開催し、事業所における備えるべきリスクや緊急時の対応について認識することができた。 ・受講者数：対前年比+3人	
キ 福祉サービス苦情解決研修会 〔上級編〕	令和元年度福祉サービス苦情解決研修会（上級編）の開催 〈開催日〉令和元年8月19日(月) 〈会場〉マリパレスかごしま 3階 マリンホール 〈参加者〉福祉施設・事業所の管理者、リスクマネジメント担当者、苦情解決責任者、過去に福祉サービス苦情解決研修会（中級編）を修了した者 206人 〈内容〉ア 講義・演習 「リスク認識力向上研修～現場職員が認識すべきリスク～」 株式会社フォーサイトコンサルティング 代表取締役社長 浅野 睦 氏		・受講者数：対前年比+82人	

6 社会福祉事業従事者の福利厚生等	事業実施概要等	所管部署 福祉人材・研修センター
令和元年度事業計画	事業実施概要等	具体的成果等
<p>(1) 民間社会福祉施設職員退職共済事業の運営</p>	<p>① 県民間社会福祉施設職員退職共済事業の実施状況(平成31年3月31日現在) 契約法人290法人 535施設 加入者数10,865人</p> <p>ア 退職金の給付状況 退職給付金 1,338件 1,082,092,800円</p> <p>イ 新規契約・解除の状況 新規契約 7施設 契約解除 なし</p> <p>ウ 退職共済積立金の状況(令和2年3月31日現在) 退職共済積立金額 14,089,887,026円…A (参考:元本12,721,817,168円) 退職給付金要支給額 12,538,373,235円…B 差引(A-B) 1,551,513,791円(積立率112.3%)</p> <p>② 運営委員会の開催 3回 県民間社会福祉施設職員退職共済事業の適正な運営を期するため運営委員会を開催した。</p> <p>ア 第1回運営委員会 〈開催日〉令和元年6月28日(金) 〈内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・退職共済事業実施状況について ・平成30年度事業実績及び収支決算について ・退職共済事業積立金の運用状況について <p>イ 第2回運営委員会 〈開催日〉令和元年11月29日(金) 〈内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成31年3月期退職共済事業財政決算について ・令和元年度上期退職共済事業実施状況について ・過去10年間における三行の運用状況について <p>ウ 第3回運営委員会 (感染症の関係で令和2年3月に文書審議による開催) 〈内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和元年度退職共済事業実績及び収支決算見込について ・令和2年度退職共済事業計画及び収支予算案について ・令和元年度退職共済積立資産運用状況について 	<p>契約法人が退職給付金支払資金に充当するための積立金を、運用基本方針に基づき金融機関3行に信託し、安定的な資産の運用・管理が適切に実施された。</p> <p>本事業の適正な運営に努め、県内の民間社会福祉施設職員の福利を増進し、社会福祉事業の振興に寄与することができた。</p>

	<p>③ 契約法人に対する説明会 〈開催日〉 令和2年1月30日(木) 〈参加者数〉 171施設193人 〈内 容〉 説明Ⅰ 平成30年度事業実施状況・資産運用状況について 説明Ⅱ 退職共済事業事務手続等について 説明Ⅲ 福利厚生センター（ソエルクラブ）について</p>																																																								
<p>(2) 福利厚生センター（ソエルクラブ）への加入促進、利用促進及び会員交流事業の実施</p>	<p>① 会員交流事業 福利厚生センター（ソエルクラブ）に加入している会員を対象に、安価な経費で会員間の親睦や交流を図る次の事業を実施した。</p> <p>〔会員交流事業実績〕</p> <table border="1" data-bbox="651 683 1749 1437"> <thead> <tr> <th></th> <th>事業名</th> <th>開催日・期間</th> <th>場 所</th> <th>参加人員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①</td> <td>第87回日本プロ選手権PGAチャンピオンシップゴルフ</td> <td>令和元年7月4日～7日</td> <td>いぶすきゴルフクラブ</td> <td>150人</td> </tr> <tr> <td>②</td> <td>四代目 三遊亭圓歌襲名披露公演</td> <td>令和元年7月15日</td> <td>宝山ホール</td> <td>70人</td> </tr> <tr> <td>③</td> <td>大恐竜展 2019</td> <td>令和元年7月12日～8月25日</td> <td>鹿児島県歴史資料センター黎明館</td> <td>大人312枚 子ども299枚</td> </tr> <tr> <td>④</td> <td>ディズニー・オン・アイス鹿児島公演</td> <td>令和元年8月30日</td> <td>鹿児島アリーナ</td> <td>100人</td> </tr> <tr> <td>⑤</td> <td>ALICE AGAIN 2019～2020 限りなき挑戦</td> <td>令和元年9月21日</td> <td>鹿児島市民文化ホール</td> <td>60人</td> </tr> <tr> <td>⑥</td> <td>葉加瀬太郎コンサートツアー 2019</td> <td>令和元年10月6日</td> <td>鹿児島市民文化ホール</td> <td>60人</td> </tr> <tr> <td>⑦</td> <td>会食ランチ 京セラ</td> <td>令和元年10月1日～令和2年3月31日</td> <td>ホテル 京セラ</td> <td>450人</td> </tr> <tr> <td>⑧</td> <td>会食ランチ ホテル さつき苑</td> <td>令和元年10月1日～令和2年3月31日</td> <td>ホテル さつき苑</td> <td>246人</td> </tr> <tr> <td>⑨</td> <td>会食ランチ 城山ホテル鹿児島</td> <td>令和元年10月1日～令和2年3月31日</td> <td>城山ホテル鹿児島</td> <td>1,204人</td> </tr> <tr> <td>⑩</td> <td>会食ランチ ホテルウエストコート奄美</td> <td>令和元年10月1日～令和2年3月31日</td> <td>ホテルウエストコート奄美</td> <td>10人</td> </tr> </tbody> </table>		事業名	開催日・期間	場 所	参加人員	①	第87回日本プロ選手権PGAチャンピオンシップゴルフ	令和元年7月4日～7日	いぶすきゴルフクラブ	150人	②	四代目 三遊亭圓歌襲名披露公演	令和元年7月15日	宝山ホール	70人	③	大恐竜展 2019	令和元年7月12日～8月25日	鹿児島県歴史資料センター黎明館	大人312枚 子ども299枚	④	ディズニー・オン・アイス鹿児島公演	令和元年8月30日	鹿児島アリーナ	100人	⑤	ALICE AGAIN 2019～2020 限りなき挑戦	令和元年9月21日	鹿児島市民文化ホール	60人	⑥	葉加瀬太郎コンサートツアー 2019	令和元年10月6日	鹿児島市民文化ホール	60人	⑦	会食ランチ 京セラ	令和元年10月1日～令和2年3月31日	ホテル 京セラ	450人	⑧	会食ランチ ホテル さつき苑	令和元年10月1日～令和2年3月31日	ホテル さつき苑	246人	⑨	会食ランチ 城山ホテル鹿児島	令和元年10月1日～令和2年3月31日	城山ホテル鹿児島	1,204人	⑩	会食ランチ ホテルウエストコート奄美	令和元年10月1日～令和2年3月31日	ホテルウエストコート奄美	10人	<p>多くの会員の方の参加が得られ、福利厚生の上昇が図られた。</p>
	事業名	開催日・期間	場 所	参加人員																																																					
①	第87回日本プロ選手権PGAチャンピオンシップゴルフ	令和元年7月4日～7日	いぶすきゴルフクラブ	150人																																																					
②	四代目 三遊亭圓歌襲名披露公演	令和元年7月15日	宝山ホール	70人																																																					
③	大恐竜展 2019	令和元年7月12日～8月25日	鹿児島県歴史資料センター黎明館	大人312枚 子ども299枚																																																					
④	ディズニー・オン・アイス鹿児島公演	令和元年8月30日	鹿児島アリーナ	100人																																																					
⑤	ALICE AGAIN 2019～2020 限りなき挑戦	令和元年9月21日	鹿児島市民文化ホール	60人																																																					
⑥	葉加瀬太郎コンサートツアー 2019	令和元年10月6日	鹿児島市民文化ホール	60人																																																					
⑦	会食ランチ 京セラ	令和元年10月1日～令和2年3月31日	ホテル 京セラ	450人																																																					
⑧	会食ランチ ホテル さつき苑	令和元年10月1日～令和2年3月31日	ホテル さつき苑	246人																																																					
⑨	会食ランチ 城山ホテル鹿児島	令和元年10月1日～令和2年3月31日	城山ホテル鹿児島	1,204人																																																					
⑩	会食ランチ ホテルウエストコート奄美	令和元年10月1日～令和2年3月31日	ホテルウエストコート奄美	10人																																																					

6	社会福祉事業従事者の福利厚生等	所管部署	福祉人材・研修センター
令和元年度事業計画	事業実施概要等		具体的成果等
	⑪	夏川りみコンサート 令和元年12月13日	宝山ホール 51人
	⑫	DRUM TAO 令和元年12月24日	宝山ホール 71人
	⑬	スキマスイッチ鹿児島公演 令和2年1月10日	宝山ホール 70人
	⑭	日本フィル鹿児島公演 令和2年2月8日	鹿児島市民文化ホール 60人
	⑮	四代目 三遊亭圓歌 襲名披露 都城公演 令和2年3月25日 (7月に延期)	都城市総合文化ホール 16人
	⑯	図書カード販売 (離島会員限定)	(カード販売) 有効期限10年 離島会員 43人
	⑰	映画券販売 (パスポートチケット)	令和2年3月1日～ 令和2年8月31日 TOHOシネマ与次郎 306人
	⑱	映画鑑賞券販売	令和2年3月1日～ 令和2年9月30日 シネマサンシャイン始良 258人
	⑲	映画券販売 (シネマチケット)	令和2年3月1日～ 令和2年8月31日 鹿児島ミッテ10 150人
	合 計		延べ 3, 986人
	② 福利厚生センター加入勧奨活動 (1) 未加入法人等への戸別訪問 (未加入10事業所訪問) (2) 福利厚生センター概要パンフレットの配布 (3) 加入勧奨のためのPR 県社協機関誌「ふくしのひろば」への掲載		(総加入数の状況) 加入法人数：53法人111事業所 会員職員数：2,857人

7 県指定事業		所管部署	福祉人材・研修のほかに															
<p>(1) 介護支援専門員実務研修受講試験</p> <p>ア 試験月 令和元年10月頃</p> <p>イ 試験会場 鹿児島市(4会場) 奄美市(1会場)</p> <p>ウ 受験見込者 約1,500人</p>	<p>〈試験日〉 令和元年10月13日(日)</p> <p>〈試験会場〉 4会場(鹿児島市:3会場, 奄美市:1会場) 鹿児島大学共通教育棟1~2号館 鹿児島大学共通教育棟3号館 県社会福祉センター, 県立大島高校</p> <p>〈受験申込者数〉 1,178人</p> <p>〈受験者数〉 1,036人</p> <p>〈合格者数〉 161人</p> <p>〈合格率〉 15.5%</p>		<p>介護保険制度において、中核的な役割を果たす介護支援専門員の確保・養成に寄与した。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>前年度</th> <th>増減</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>受験申込者</td> <td>1,165人</td> <td>13人増</td> </tr> <tr> <td>受験者数</td> <td>1,057人</td> <td>21人減</td> </tr> <tr> <td>合格者数</td> <td>86人</td> <td>75人増</td> </tr> <tr> <td>合格率</td> <td>8.1%</td> <td>7.4%増</td> </tr> </tbody> </table>		前年度	増減	受験申込者	1,165人	13人増	受験者数	1,057人	21人減	合格者数	86人	75人増	合格率	8.1%	7.4%増
	前年度	増減																
受験申込者	1,165人	13人増																
受験者数	1,057人	21人減																
合格者数	86人	75人増																
合格率	8.1%	7.4%増																
<p>(2) 介護支援専門員更新・再研修</p>	<p>介護支援専門員更新研修の対象者(実務経験3年未満の者等)及び再研修の対象者(証発行なし・期限切れの者)に対して、介護支援専門員更新・再研修(1回延べ10日間)を実施した。</p> <p>〈研修時間〉 54時間 10日間</p> <p>〈研修日程〉 前期: 令和元年6月24日(月)~28日(金) 後期: 令和元年7月22日(月)~26日(金)</p> <p>〈受講者数〉 304人</p> <p>〈修了者数〉 303人 (うち更新204人, 再98人, 実務1人)</p>		<p>受講者数 前年度より6人増</p>															
<p>(3) 介護支援専門員実務研修</p>	<p>介護支援専門員実務研修受講試験合格者に対して、介護支援専門員実務研修(1回延べ16日間)を実施した。</p> <p>〈研修時間〉 87時間 16日間(実習3日間以上)</p> <p>〈研修日程〉 前期: 令和2年1月7日(火)~10日(金), 27日(月)~31日(金) 後期: 令和2年3月10日(火)~13日(金), 16日(月)~18日(水)</p> <p>〈受講者数〉 152人</p> <p>〈修了者数〉 142人 (うち合格者140人, 過年度合格者2人)</p>		<p>受講者数 前年度より60人増</p>															

7 県指定事業	事業実施概要等				所管部署	福祉人材・研修のほかに
令和元年度事業計画	事業実施概要等				具体的成果等	
<p>(4) 認知症介護実践者等研修</p> <p>ア 認知症介護実践者研修 (3回)</p> <p>イ 認知症介護実践リーダー研修 (1回)</p> <p>ウ 認知症対応型サービス事業管理者研修 (2回)</p> <p>エ 小規模多機能型サービス等計画作成担当者研修 (1回)</p> <p>オ 認知症対応型サービス事業開設者研修 (1回)</p> <p>カ 認知症介護基礎研修 (1回)</p>	<p>介護保険施設等における認知症高齢者介護の実務者及びその指導的立場となる者を対象に、介護サービスの適正な運営と質の向上を図ることを目的に、認知症介護実践者等研修を開催した。</p>	研修名	実施年月日	参加見込	修了者数	<p>認知症高齢者の介護業務に従事する実践者や管理者等に対する研修機会を提供することにより、専門性の高い認知症介護の知識・技術の習得が図られ、サービスの質の確保につながるとともに、適正なサービス運営に資することができた。</p>
認知症介護実践者研修		<p>①令和元年 5月21日～ 5月24日 令和元年 7月 2日～ 7月 3日</p> <p>②令和元年 9月10日～ 9月13日 令和元年10月 9日～10月10日</p> <p>③令和元年12月10日～12月13日 令和2年 2月 4日～ 2月 5日</p>	255人	248人		
認知症介護実践リーダー研修		<p>令和元年 7月23日～ 7月26日 令和元年 7月30日～ 8月 2日 令和元年 9月26日～ 9月27日</p>	35人	40人		
認知症対応型サービス事業管理者研修		<p>①令和元年 8月 8日～ 8月 9日 ※大雨延期による日程変更</p> <p>②令和2年 2月 6日～ 2月 7日</p>	80人	94人		
小規模多機能型サービス等計画作成担当者研修		令和元年10月17日～10月18日	35人	37人		
認知症対応型サービス事業開設者研修		令和元年11月15日	15人	18人		
認知症介護基礎研修		令和2年 2月14日	150人	111人		
計			570人	548人		
<p>(5) 障害福祉人材育成研修の開催</p> <p>ア 相談支援従事者研修(9日間)</p> <p>(7) 相談支援従事者初任者研修(前期:2日間)</p>	<p>相談支援専門員及びサービス管理責任者、児童発達支援管理責任者等の資格取得希望者に対して、障害福祉人材育成研修を実施した。</p> <p>(7) 初任者研修(前期) 〈期 日〉 令和元年9月3日(火)～9月4日(水)</p>	<p>計画どおり研修を実施し、県内における相談支援専門員及びサービス管理責任者、児童発達支援管理責任者、強度行動障害支援者の人材育成が推進された。</p>				

<p>相談支援従事者初任者研修 (後期:3日間)</p> <p>(イ)相談支援従事者現任研修 (3日間)</p> <p>(ウ)相談支援従事者専門 コース別研修 (1日間)</p>	<p>〈会場〉 鹿児島サンロイヤルホテル 〈受講者数〉 512人 〈修了者数〉 506人</p> <p>初任者研修(後期) 〈期 日〉 令和元年9月18日(水)~20日(金) 〈会場〉 鹿児島サンロイヤルホテル 〈受講者数〉 191人 〈修了者数〉 187人</p> <p>(イ) 現任研修 〈期 日〉 令和2年年2月19日(水)~21日(金) 〈会場〉 鹿児島サンロイヤルホテル 〈受講者数〉 177人 〈修了者数〉 177人</p> <p>(ウ) 専門コース別研修 〈期 日〉 令和2年1月15日(水) 〈会場〉 鹿児島県社会福祉センター 別館 〈受講者数〉 47人 〈修了者数〉 45人</p>	<p>定員400人に対し, 126.5%</p> <p>定員200人に対し, 93.5%</p> <p>定員150人に対し, 118.0%</p> <p>定員60人に対し, 75.0%</p>
<p>イ サービス管理責任者等研修 (14日間)</p> <p>(7)基礎研修(3日間)×3回</p> <p>(イ)更新研修(1日間)×5回</p>	<p>(7) 基礎研修-1 〈期 日〉 令和元年11月12日(火)~14日(木) 〈会場〉 鹿児島サンロイヤルホテル 〈受講者数〉 150人 〈修了者数〉 144人</p> <p>基礎研修-2 〈期 日〉 令和2年2月12日(水)~14日(金) 〈会場〉 鹿児島サンロイヤルホテル 〈受講者数〉 143人 〈修了者数〉 139人</p> <p>基礎研修-3 〈期 日〉 令和2年2月25日(火)~月27日(金) 〈会場〉 鹿児島サンロイヤルホテル 〈受講者数〉 139人 〈修了者数〉 133人</p> <p>(イ) 更新研修-1 〈期 日〉 令和元年10月29日(火) 〈会場〉 県青少年会館 〈受講者数〉 107人 〈修了者数〉 106人</p>	<p>定員150人に対し, 96.0%</p> <p>定員150人に対し, 92.6%</p> <p>定員150人に対し, 88.6%</p> <p>定員108人に対し, 98.1%</p>

7	県指定事業	所管部署	福祉人材・研修のほかにほか	
令和元年度事業計画		事業実施概要等		具体的成果等
		<p>更新研修-2 〈期 日〉 令和元年10月30日(水) 〈会 場〉 県青少年会館 〈受講者数〉 100人 〈修了者数〉 96人</p> <p>更新研修-3 〈期 日〉 令和元年11月27日(水) 〈会 場〉 社会福祉センター別館 〈受講者数〉 75人 〈修了者数〉 75人</p> <p>更新研修-4 〈期 日〉 令和元年11月28日(木) 〈会 場〉 社会福祉センター別館 〈受講者数〉 40人 〈修了者数〉 39人</p> <p>更新研修-5 〈期 日〉 令和元年12月17日(火) 〈会 場〉 社会福祉センター別館 〈受講者数〉 68人 〈修了者数〉 65人</p>		<p>定員108人に対し、88.8%</p> <p>定員96人に対し、78.1%</p> <p>定員96人に対し、40.6%</p> <p>定員96人に対し、67.7%</p>
<p>ウ 強度行動障害支援者養成研修 (8日間) (7)基礎研修 (2日間) × 2回</p> <p>(4)実践研修 (2日間) × 2回</p>	<p>(7) 基礎研修 〈期 日〉 令和元年10月3日(木)～4日(金) 〈会 場〉 鹿児島サンロイヤルホテル 〈受講者数〉 172人 〈修了者数〉 168人</p> <p>〈期 日〉 令和元年10月16日(水)～17日(木) 〈会 場〉 鹿児島サンロイヤルホテル 〈受講者数〉 128人 〈修了者数〉 126人</p> <p>(4) 実践研修 〈期 日〉 令和元年11月5日(火)～6日(水) 〈会 場〉 鹿児島サンロイヤルホテル 〈受講者数〉 132人 〈修了者数〉 129人</p> <p>〈期 日〉 令和元年12月9日(月)～10日(火)</p>	<p>定員200人に対し、84.0%</p> <p>定員200人に対し、63.0%</p> <p>定員180人に対し、71.6%</p>		

	<p>〈会場〉 鹿児島サンロイヤルホテル 〈受講者数〉 107人 〈修了者数〉 101人</p>	定員180人に対し、56.1%								
(6) 福祉用具専門相談員養成研修 7 研修期間 令和元年5月18日～6月9日 イ 研修時間 51時間(述べ8日間) ウ 定員 30人 エ その他 研修終了者は福祉用具専門 相談員の資格取得	介護保険法で定められた福祉用具販売・貸与事業所で勤務するために必要な「福祉用具専門相談員」の資格を取得するための研修会を開催した。	福祉用具専門相談員34人を養成することが出来た。 修了者数 定員に比べ4人増 前年度より4人減								
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>実施日</th> <th>定員</th> <th>修了者数</th> <th>講座内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和元年 5月18, 19, 25, 26日 6月1, 2, 8, 9日 (8日間 51時間)</td> <td>30人</td> <td>34人</td> <td>福祉用具の役割, 職業倫理, 介護保険制度等の考え方と 仕組み, からだとこころの 理解, 福祉用具の特徴など</td> </tr> </tbody> </table>		実施日	定員	修了者数	講座内容	令和元年 5月18, 19, 25, 26日 6月1, 2, 8, 9日 (8日間 51時間)	30人	34人	福祉用具の役割, 職業倫理, 介護保険制度等の考え方と 仕組み, からだとこころの 理解, 福祉用具の特徴など
	実施日		定員	修了者数	講座内容					
令和元年 5月18, 19, 25, 26日 6月1, 2, 8, 9日 (8日間 51時間)	30人	34人	福祉用具の役割, 職業倫理, 介護保険制度等の考え方と 仕組み, からだとこころの 理解, 福祉用具の特徴など							
8	教員免許介護等体験受入調整事業	所管部署 福祉人材・研修センター								
教員免許介護等体験受入調整事業 (対象学生予定数: 530人)	小学校及び中学校の教諭の免許状を取得しようとする大学等入学者に対する介護等体験の社会福祉施設への受入調整を行った。 〈介護等体験申込者数〉 539人 〈介護等体験終了者数〉 533人 〈介護等体験期間〉 令和元年7月1日(月)～令和2年2月14日(金)	教員免許取得志望者の資質向上及び学校教育の充実に寄与できた。 ①介護等体験申込者数 前年度より1人減 ②介護等体験終了者数 前年度より2人増								
9	新 外国人介護人材受入支援事業	所管部署 福祉人材・研修センター								
令和元年度事業計画	事業実施概要等	具体的成果等								
(1) 技能実習生等を対象とする外国人介護人材集合研修の実施 ① 開催期間 令和元年11月～令和2年3月 ② 実施地域 3箇所(鹿児島, 始良・伊佐, 肝属) ③ 回数 9回(3地域×3回)	① 技能実習生等を対象とする外国人介護人材集合研修を県内3地域で実施した。 〈開催月〉 令和2年1月～2月 〈実施地域〉 3箇所(鹿児島, 始良・伊佐, 肝属) 〈回数〉 6回(3地域×2回) 〈参加者数〉 40人(延べ人数) 〈内容〉 鹿児島でのくらしで気をつけること 先輩から学ぶ 老化の理解, 認知症や障害の理解等 ※ 3回目の研修は新型コロナウイルス感染症対策のため, 県の指示を受けて中止	入国後の期間が短い技能実習生に対する集合研修及び相互交流を通じ, 生活や介護に関する不安を払拭するとともに, 介護に関する基本的な知識を深めることができた。								

Ⅷ 介護実習・普及センターの運営						
1	介護実習・普及センター運営事業			所管部署	介護実習・普及センター	
令和元年度事業計画		事業実施概要等			具体的成果等	
(1) 介護に関する情報収集・提供 ア 図書・ビデオ等の貸出	① 貸出状況				図書・ビデオ等の貸出により、介護に関する情報提供が図られた。	
	区分	年度	令和元年度	平成30年度		増減
	図書		132冊	115冊		17冊
	ビデオ		1本	4本		△3本
	D V D		42本	32本		10本
	② 整備状況					
区分	年度	平成30年度まで	令和元年度	計		
図書		576冊	16冊 (除却)△1冊	591冊		
ビデオ		79本	0本	79本		
D V D		45本	3本 (除却)△4冊	44本		
イ リーフレットの配布	<p>介護実習・普及センターの実施事業等の周知を図り、研修及び講座等への参加を募るため、15,000部のリーフレットを作成し、一般県民、介護施設及び県内関係機関等に配布した。</p> <p>また、当センターに展示してある福祉用具の紹介や研修案内などを周知するための広報チラシを作成し、かごしま県民交流センター内で行われた他の部・所等が実施するイベントで配布した。</p>				リーフレット等の配布により、介護実習・普及センター事業の周知が図られ、多くの県民の参加を得ることができた。	
ウ 全国会議及び九州ブロック会議への参加	<p>① 全国福祉用具相談・研修機関協議会/1名 〈期 日〉 令和元年10月31日～11月1日 〈会 場〉 主婦会館プラザエフ(東京都)</p> <p>② 九州ブロック介護実習・普及センター代表者及び担当者会議/2名 〈期 日〉 令和元年11月22日 〈会 場〉 佐賀県在宅生活サポートセンター</p> <p>③ 国際福祉機器展/1名 〈期 日〉 令和元年9月25日～27日 〈会 場〉 東京ビッグサイト</p>				福祉用具に関する新たな知識や九州各県等の情報を広く共有し、業務遂行に役立てることができた。	

(2) 介護知識・技術の普及及び 体験学習等（一般県民向け） ア やさしい介護教室 （6回・定員各30人）	家庭で介護を行っている家族や介護に関心のある県民に対し、専門家講師の指導による介護の初歩的な知識と介護方法の習得のための講座を開催した。			県民の介護に対する関心を高め、介護の知識や技術の普及促進につながった。 参加者数 定員に比べ77人減 前年度より43人減	
	実施日	参加定員	参加者数		講座内容
	<前期> 令和元年 6月20日 令和元年 7月12日 令和元年 8月 3日	30人 30人 30人	28人 15人 24人		・ 認知症の理解, 声かけ, 接し方 ・ 排泄用具の選び方, 使い方 ・ 福祉用具の選び方・使い方 ・ 誤嚥をふせぐ食事の介助方法 ・ 衣服の着脱, 歩行の介助方法 ・ 寝返りから移乗までの介助法
	<後期> 令和元年10月 6日 令和元年11月 1日 令和元年11月30日	30人 30人 30人	10人 10人 16人		
	計	180人	103人		
	イ 地域介護講座 （4か所（回）・定員各30人） （北薩地区, 始良・伊佐地区 大隅地区, 奄美地区）	地域において介護技術の普及・啓発を図るため、県内4地区で専門家講師の指導による講座を開催した。			参加者数 定員に比べ11人増 前年度より13人減
実施日		参加定員	参加者数	講座内容	
肝付町 令和元年 6月14日		30人	42人	・ らくらく！寝返り, 起き上がり, 立ち上がり, 移乗の介助方法	
与論町 令和元年 6月30日		30人	26人		
湧水町 令和元年 7月17日		30人	31人	・ これは助かる！福祉用具の選び方, 使い方	
さつま町 令和元年10月26日		30人	32人		
計	120人	131人			

1	介護実習・普及センター運営事業	所管部署	介護実習・普及センター			
令和元年度事業計画		事業実施概要等		具体的成果等		
ウ 快護生活フェス！福祉機器展&セミナーinかごしま(1回) ～福祉用具の日2019～ 併催【追加】： 介護ロボット鹿児島フォーラム	「10月1日福祉用具の日」に関連して、高齢者や障がい者等の生活に役立つ福祉用具をもっと身近に感じてもらうためのイベントとして、「快護生活フェス！福祉機器展&セミナーinかごしま」を開催した。令和元年度は併せて厚生労働省委託事業「介護ロボット鹿児島フォーラム」を行った。		多くの参加者があり、最新の福祉用具や介護知識・技術の普及啓発が図られ、「福祉用具の日」及び「介護の日」の周知に寄与できた。			
	実施日	参加者数	内容	参加者数 前年度より150人増		
	令和元年 10月4日～5日	3,250人	63社による福祉用具展示・相談 「介護ロボット鹿児島フォーラム」を含む39のセミナー等			
エ 介護ふれあいフェスタ2019への協力 (1回)	〈期 日〉 令和元年11月23日 〈会 場〉 天文館ベルク広場(鹿児島市) 鹿児島県が主催した「介護ふれあいフェスタ2019」において、介護実習・普及センターのリーフレットを配布し、実施事業等の周知を図った。		介護実習・普及センター事業の周知が図られた。			
オ バリアフリー教室in鹿児島への協力【追加】 (1回)	〈期 日〉 令和元年8月21日 〈会 場〉 かごしま県民交流センター 九州運輸局鹿児島運輸支局が主催した「バリアフリー教室in鹿児島」において、乗り合いバス事業に携わる運転者及び管理者に対し、実際に乗り合いバスを使用し、車いす体験及び高齢者疑似体験を行った。		乗り合いバス事業に携わる運転者及び管理者のバリアフリーへの理解が深まり、高齢者や障がいのある方へのサービスの向上に寄与した。			
カ 福祉体験教室 (随時)	福祉用具見学、車いす体験及び高齢者疑似体験を通して、介護・福祉への理解を深めてもらうため体験教室を開催した。		生活に役立つ車いすなど福祉用具を広く知ってもらうことで、介護やバリアフリーについて理解を深めることにつながった。 実施回数 前年度より36回増			
	実施日	R元年度		H30年度	増減	実施回数
	通年	1,657人		2,105人	△448人	146回

キ 公立学校共済組合鹿児島支部 部護講座 (3回)	公立学校共済組合からの委託を受け、教職員を対象に、専門家講師の指導による介護講座（基礎・技術コース）を開催した。				教職員やその家族への介護に関する知識・技術の普及・啓発が図られた。 参加者数 定員に比べ33人減 前年度より 2人増
	実施日	参加定員	参加者数	講座内容	
	令和元年 8月 7日	40人	30人	・介護保険制度の理解と介護の心得	
	令和元年 8月 8日	40人	39人	・口腔ケアのポイント ・心身機能低下予防/ロコモ運動 ・認知症の理解	
	令和元年 8月 9日	40人	18人	・着替え, 歩行の介助 ・誤嚥を防ぐ食事の介助 ・福祉用具の選び方, 使い方 ・介護用ベッド・車いすでの介助 ・介護用おむつの選び方, 使い方	
計	120人	87人			
(3) 介護専門職員向け研修 ア 介護レクリエーション研修 (2回・定員各30人)	社会福祉施設等の介護専門職を対象に、介護の基礎技術を確認し、さらなるスキルアップを図るための研修を開催した。				介護専門職の介護技術向上を図ることにより、より良いサービス提供を行う人材育成に寄与した。 参加者数 定員に比べ 5人増 前年度より13人減
	実施日	参加定員	参加者数	講座内容	
	〈前期〉 令和元年 5月17日	30人	33人	・簡単な運動や創作を楽しむ介護状態別レクリエーション	
	〈後期〉 令和元年11月22日	30人	32人		
計	60人	65人			
イ 介護食調理教室 (2回・定員各25人)	介護食調理教室				参加者数 定員に比べ 3人増 前年度より 3人減
	実施日	参加定員	参加者数	講座内容	
	〈前期〉 令和元年 6月16日	25人	25人	・高齢者が食べやすく、栄養バランスの取れた調理方法、補助食品の紹介	
	〈後期〉 令和元年12月 1日	25人	22人		
計	50人	47人			

1 介護実習・普及センター運営事業		所管部署	介護実習・普及センター		
令和元年度事業計画		事業実施概要等			具体的成果等
ウ 介護職の体リフレッシュ研修 (2回・定員各20人)	実施日	参加定員	参加者数	講座内容	参加者数 定員に比べ13人増 前年度より 2人増
	〈前期〉 令和元年 5月30日	20人	22人	・ 介護職(自分)の身体状態 把握と自己改善を図るス トレッチ体操	
	〈後期〉 令和元年11月29日	20人	31人		
	計	40人	53人		
エ 介護職基礎研修 (4回・定員各30人)	実施日	参加定員	参加者数	講座内容	参加者数 定員に比べ22人減 前年度より28人減
	A : 第1回 令和元年 7月 9日 令和元年 7月10日	30人	38人	・ 介護保険制度の理解と介護の 心得 ・ 身体状況に応じたおむつの選び 方, あて方, 交換方法	
	A : 第2回 令和元年 9月19日 令和元年 9月20日	30人	19人		
	B : 第1回 令和元年 7月18日 令和元年 7月19日	30人	20人	・ 誤嚥をふせぐ食事の姿勢と介助 方法 ・ 体位変換, ポジショニングケア方法 ・ 福祉用具の選び方, 使い方等 ・ 認知症疾患別の理解ケア, コミュニ ケーションのとり方	
	B : 第2回 令和元年10月30日 令和元年10月31日	30人	21人		
	計	120人	98人		

オ 介護職スキルアップ研修 (7) 口腔ケア (2回・定員各30人)	(7) 口腔ケア				参加者数 定員に比べ13人増 前年度より17人増
	実施日	参加定員	参加者数	講座内容	
	令和元年 6月25日	30人	38人	・口腔ケアの基礎知識と方法 ・拒否される方への対応・コミュニケーションの取り方 ・口腔ケア体操	
	令和元年 1月17日	30人	35人		
	計	60人	73人		
(イ) 認知症ケア (3回・定員各30人)	(イ) 認知症ケア				参加者数 定員に比べ18人増 前年度より 3人減
	実施日	参加定員	参加者数	講座内容	
	令和元年 5月31日	30人	34人	・認知症疾患別援助の方法 ・事例を通しての理解 (グループワーク)	
	令和元年 9月 4日	30人	43人		
	令和2年 1月10日	30人	31人		
計	90人	108人			
(ウ) 体位変換・ポジショニングケア (3回・定員各30人)	(ウ) 体位変換・ポジショニングケア				参加者数 定員に比べ 3人増 前年度と同じ
	実施日	参加定員	参加者数	講座内容	
	令和元年 6月21日	30人	32人	・褥瘡の基礎知識 ・座位、寝姿勢別体位変換、 ポジショニング方法 ・車いすのシーティング方法	
	令和元年 8月24日	30人	35人		
	令和2年 1月18日	30人	26人		
計	90人	93人			

1	介護実習・普及センター運営事業	所管部署	介護実習・普及センター																							
令和元年度事業計画		事業実施概要等		具体的成果等																						
(イ) 排泄ケア (4回・定員各20人)	(イ) 排泄ケア	参加者数 定員に比べ12人増 前年度より15人減																								
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>実施日</th> <th>参加定員</th> <th>参加者数</th> <th>講座内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和元年 6月19日</td> <td>20人</td> <td>26人</td> <td rowspan="5"> ・排泄・失禁についての基礎知識 ・スキンケア方法 ・麻痺、拘縮のある方のおむつ交換 </td> </tr> <tr> <td>令和元年 9月18日</td> <td>20人</td> <td>26人</td> </tr> <tr> <td>令和元年12月11日</td> <td>20人</td> <td>21人</td> </tr> <tr> <td>令和2年 2月19日</td> <td>20人</td> <td>19人</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>80人</td> <td>92人</td> </tr> </tbody> </table>			実施日	参加定員	参加者数	講座内容	令和元年 6月19日	20人	26人	・排泄・失禁についての基礎知識 ・スキンケア方法 ・麻痺、拘縮のある方のおむつ交換	令和元年 9月18日	20人	26人	令和元年12月11日	20人	21人	令和2年 2月19日	20人	19人	計	80人	92人			
	実施日			参加定員	参加者数	講座内容																				
	令和元年 6月19日			20人	26人	・排泄・失禁についての基礎知識 ・スキンケア方法 ・麻痺、拘縮のある方のおむつ交換																				
	令和元年 9月18日			20人	26人																					
	令和元年12月11日			20人	21人																					
	令和2年 2月19日			20人	19人																					
	計			80人	92人																					
	令和元年 6月19日			20人	26人	・排泄・失禁についての基礎知識 ・スキンケア方法 ・麻痺、拘縮のある方のおむつ交換																				
	令和元年 9月18日			20人	26人																					
令和元年12月11日	20人	21人																								
令和2年 2月19日	20人	19人																								
計	80人	92人																								
(オ) 感染症予防対策と褥瘡ケア (2回・定員各30人)	(オ) 感染症予防対策と褥瘡ケア	参加者数 定員に比べ 13人増																								
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>実施日</th> <th>参加定員</th> <th>参加者数</th> <th>講座内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和元年 6月 7日</td> <td>30人</td> <td>37人</td> <td rowspan="3"> ・褥瘡ケア、感染症の予防対策・汚染物の処理方法 </td> </tr> <tr> <td>令和元年10月29日</td> <td>30人</td> <td>36人</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>60人</td> <td>73人</td> </tr> </tbody> </table>			実施日	参加定員	参加者数	講座内容	令和元年 6月 7日	30人	37人	・褥瘡ケア、感染症の予防対策・汚染物の処理方法	令和元年10月29日	30人	36人	計	60人	73人									
	実施日			参加定員	参加者数	講座内容																				
	令和元年 6月 7日			30人	37人	・褥瘡ケア、感染症の予防対策・汚染物の処理方法																				
	令和元年10月29日			30人	36人																					
計	60人	73人																								
令和元年 6月 7日	30人	37人	・褥瘡ケア、感染症の予防対策・汚染物の処理方法																							
令和元年10月29日	30人	36人																								
計	60人	73人																								
カ 専門職団体等連携講座 (3回)	各職能団体と連携し、地域における在宅介護や施設介護のリーダー育成を図るための講義や実技等の講座開催を支援した。	専門職の知識・技術の向上につながった。 参加者数 前年度より153人増																								
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>団体名</th> <th>実施日</th> <th>参加者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>県言語聴覚士会</td> <td>令和元年 5月19日</td> <td>185人</td> </tr> <tr> <td>県理学療法士協会</td> <td>令和元年 7月14日</td> <td>89人</td> </tr> <tr> <td>県作業療法士会</td> <td>令和2年 2月23日</td> <td>20人</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td></td> <td>294人</td> </tr> </tbody> </table>			団体名	実施日	参加者数	県言語聴覚士会	令和元年 5月19日	185人	県理学療法士協会	令和元年 7月14日	89人	県作業療法士会	令和2年 2月23日	20人	計		294人								
	団体名			実施日	参加者数																					
	県言語聴覚士会			令和元年 5月19日	185人																					
	県理学療法士協会			令和元年 7月14日	89人																					
県作業療法士会	令和2年 2月23日	20人																								
計		294人																								
県言語聴覚士会	令和元年 5月19日	185人																								
県理学療法士協会	令和元年 7月14日	89人																								
県作業療法士会	令和2年 2月23日	20人																								
計		294人																								

(4) 福祉用具・バリアフリー住宅の展示・相談、福祉用具の情報収集・提供等

介護実習・普及センターの来所者に対し、福祉用具やモデルハウスの案内・説明等を行うとともに、福祉用具等介護に関する相談に対応した。

県民への福祉用具・介護用品等への周知に寄与できた。

〔来所者数〕

人数等 \ 年度	令和元年度	平成30年度	増 減
来所者数	14,583人	16,228人	△1,645人
開所日数	309日	308日	1日
1日平均	47人	52人	△5人

〔相談件数〕

(単位:件)

相談内容 \ 年度	令和元年度	平成30年度	増 減
介護保険	658	1,218	△560
研修関係	1,551	1,135	416
移動機器	311	420	△109
排泄	204	142	62
入浴	70	113	△43
起居移乗	299	242	57
資格	90	80	10
住宅改修	162	133	△29
障害福祉	159	50	109
図書ビデオ	138	173	△35
自助具	162	168	△6
介護食	133	64	69
その他	2,028	1,044	984
計	5,965	4,982	983

1	介護実習・普及センター運営事業	所管部署	介護実習・普及センター		
令和元年度事業計画		事業実施概要等		具体的成果等	
		〔展示数〕 (単位:点)			
	年度 分類別	令和元年度	平成30年度	増減	
	治療訓練用具	12	14	△2	
	義肢・装具	0	0	0	
	パソコン関連用具	250	253	△3	
	移動機器	129	119	10	
	家事用具	94	94	0	
	家具・建具建築設備	39	38	1	
	コミュニケーション関連用具	11	12	△1	
	操作用具	16	16	0	
	環境改善機器・作業用具	0	0	0	
	レクリエーション用具	7	9	△2	
	その他	44	40	4	
	計	602	595	7	
		92社の福祉用具販売（貸与）事業所・メーカーによる使用貸借契約等による展示品			

Ⅸ 生活福祉資金貸付事業の推進

1	総合支援資金，福祉資金，教育支援資金，不動産担保型生活資金及び離職者生活支援つなぎ資金の貸付	所管部署	生活支援部
令和元年度事業計画		事業実施概要等	
(1) 総合支援資金，福祉資金，教育支援資金，不動産担保型生活資金及び離職者生活支援つなぎ資金の貸付		<p>低所得世帯等援助を必要とする方々の経済的自立と生活意欲の助長及び社会参加の促進を図るため，資金の貸付や必要な援助指導を行った。（貸付決定状況については下表のとおり。）</p> <p>なお，新型コロナウイルス感染症の影響を受け，収入減少や失業した方等を対象に令和2年3月25日から特例貸付を開始した。</p>	
		具体的成果等	
		年度末，新型コロナウイルス感染症の影響を受け，経済雇用情勢が急速に悪化したことに伴い貸付件数，金額とも増加した。	

〔令和元年度生活福祉資金申込及び貸付決定状況〕

（単位：千円）

区分 資金の種類	申込状況		貸付決定状況			申込に対する決定の比較		前年度貸付決定状況		前年度に対する比較増減		
	件数	金額	件数	金額	構成率%	件数%	金額%	件数	金額	件数	金額	
総合支援資金	生活支援費	1	354	1	354	0.3	100.0	100.0	0	0	1	354
	住宅入居費	0	0	0	0	0	—	—	0	0	0	0
	一時生活再建費	0	0	0	0	0	—	—	0	0	0	0
福祉資金	福祉費	140	33,159	140	33,159	23.8	100.0	100.0	134	37,952	6	△4,793
	緊急小口資金 (内数)特例貸付	193 88	22,522 14,900	193 88	22,522 14,900	16.2 —	100.0 100.0	100.0 100.0	139 —	11,320 —	54 —	11,202 —
教育支援資金		127	68,760	127	68,760	49.4	100.0	100.0	125	67,785	2	975
不動産担保型生活資金	不動産担保型生活資金	1	14,400	1	14,400	10.3	100.0	100.0	0	0	1	14,400
	要保護世帯向け不動産担保型生活資金	0	0	0	0	0	—	—	0	0	0	0
合計		462	139,195	462	139,195	100.0	100.0	100.0	398	117,057	64	22,138

1	総合支援資金、福祉資金、教育支援資金、不動産担保型生活資金及び離職者生活支援つなぎ資金の貸付	所管部署	生活支援部								
令和元年度事業計画		事業実施概要等		具体的成果等							
〔令和元年度離職者生活支援つなぎ資金申込及び貸付決定状況〕		※ 平成21年10月創設		(単位：千円)							
区分 資金の種類	申込状況		貸付決定状況		申込に対する 決定の比較		前年度 貸付決定状況		前年度に対する 比較増減		
	件数	金額	件数	金額	件数%	金額%	件数	金額	件数	金額	
離職者生活支援 つなぎ資金	0	0	0	0	-	-	0	0	0	0	
ア 適正な資金貸付の推進 市町村社協と連携して審査体制を充実し、適正な貸付 を実行することにより、制度の趣旨に基づく生活福祉資 金の運営を推進する。	生活福祉資金貸付審査等運営委員会の開催（年5回）										
イ 生活福祉資金の広報及び活用促進 県社協広報紙及びホームページ等 において、資金の広報啓発を行う。	県社協のホームページ、広報誌「ふくしのひろば」ほか、各市町 村の社協だより等により周知を図った。										
ウ 市町村社協職員研修 資金貸付から債権回収まで の一連の留意事項について周 知を図るとともに、相談支援 技術の向上を目的とした研修 を行い、市町村社協担当職員 のスキルアップを図る。	<p>市町村社協生活福祉資金事務担当者研究協議会の開催 〈期 日〉令和元年11月22日(金) 〈会 場〉県社会福祉センター別館 〈参加者数〉52人（36市町村） 〈内 容〉 ①「生活福祉資金貸付制度の動向について」 ②「適正な貸付について」 ③「支援者・当事者（ピアサポーター）と語る－精神障がい者への理解を深めるために－」 (1) 講演 一般社団法人代表理事 (2) セッション 事例発表者（ピアサポーター）2名</p> <p>生活福祉資金の特例貸付に伴う緊急担当者会議の開催 〈期 日〉令和2年3月23日(月) 〈会 場〉県社会福祉センター別館 〈参加者数〉57人（40市町村） 〈内 容〉 「新型コロナウイルス特例貸付の概要・考え方・手順など」</p>										
		資金貸付を通じた自立支援の 方策や債権管理について共通認 識の形成が図られたことに加え、 精神障がい者に関する講演やセ ッションを通して、具体的な支 援方策について理解を深めるこ とができ、担当職員の相談支援 技術の向上が図られた。								また、新型コロナウイルス感 染症の影響を受け収入減少や失 業した方等を対象に特例貸付を 開始するにあたり、県内社協職 員の貸付手法についての理解を 深めることを目的として会議(研 修会)を開催した。	

<p>エ 市町村社協の貸付事務指導 市町村社協の担当者との連携を十分に図り、適正な貸付事務ができるように年間を通じて指導を行う。</p>	<p>市町村社協担当職員からの相談・問い合わせに対して、事務処理にあたっての留意事項等の指導を行った。</p>	<p>市町村社協への迅速な事務指導により、円滑な資金貸付業務に寄与することができた。</p>						
<p>オ 各市町村民生委員児童委員協議会定例会研修等への職員派遣</p>	<p>県内の各市町村民児協からの要請により職員を派遣するとともに、研修会実施の支援を行った。 また、令和元年12月1日付け一斉改選に伴い県が主催する新任民生委員研修会に対して職員を派遣した。</p> <p style="text-align: center;">〈派遣回数等〉〈対象者数〉</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">市町村単位民児協 定例会・研修会</td> <td style="width: 15%; text-align: center;">4回</td> <td style="width: 35%; text-align: center;">215名</td> </tr> <tr> <td>新任民生委員研修会(県主催)</td> <td style="text-align: center;">12回</td> <td style="text-align: center;">1,232名</td> </tr> </table>	市町村単位民児協 定例会・研修会	4回	215名	新任民生委員研修会(県主催)	12回	1,232名	<p>民生委員児童委員への制度の認識が深められた。</p>
市町村単位民児協 定例会・研修会	4回	215名						
新任民生委員研修会(県主催)	12回	1,232名						
<p>(2) 市町村社協の相談支援体制の充実 相談支援体制を充実するため相談員を増員配置する市町村社協に対し、財政的支援を行う。 (対象社協7社協)</p>	<p>平成21年10月からの資金貸付制度の大幅な見直し・実施に伴い、市町村社協において相談件数の急増に対応し配置している専任の相談員の経費について、相談・貸付の状況に応じて財政的な支援を行った。</p> <p>〈対象社協数〉 7市社協 〈交付総額〉 25,702千円 〈内 容〉 相談員の人件費に対する経費の助成</p>	<p>市町村社協の相談員が増員配置されたこと等により、借入相談者への丁寧で適切な相談支援が図られ、過重となっている相談員の負担軽減が図られた。</p>						
<p>2 債権管理の強化</p>	<p>所管部署 生活支援部</p>							
<p>(1) 市町村社協等との連携による債権管理の充実 市町村社協や民生委員との緊密な連携の下、借入者の状況、償還状況等の把握と情報の整理、共有化に努める。 また、市町村社協の償還指導等に対し、適切な指導・助言を行う。</p>	<p>償還指導推進員を設置し、債権管理強化体制を強化した。</p> <p>〈設置数〉 県社協 2人 鹿児島市社協 1人</p>	<p>専任者の配置により、債権管理体制が強化され借受関係者の状況把握や償還指導の充実が図られた。</p>						
<p>(2) 債権管理の強化、推進 償還督促月間を設け、滞納債務者に督促状や催告書を、計画的償還履行者へは残額通知を送付し、債務状況の認識と償還意識の高揚を図るとともに、償還指導を強化する。特に滞納期間が長い者、償還実績が無い者等の悪質な滞納債務者に対しては、直接訪問し償還指導を行うとともに、必要に応じて法的処置を講ずる。</p>	<p>滞納している借受関係者に督促状等を発送するとともに、市町村社協への月報の送付や、市町村社協・民生委員の協力を得て償還指導を行った。</p> <p>①督促状送付回数 年2回 (4月) 1,011件 1,607人 (10月) 1,113件 1,791人 ②残高のお知らせ送付回数 年1回 (4月) 920件 1,880人</p>	<p>滞納している借受関係者に対する文書や面接による償還指導の実施により、償還意識の喚起や債権回収が促進された。</p>						

2 債権管理の強化		令和元年度事業計画						所管部署	生活支援部	
		事業実施概要等						具体的成果等		
〔令和元年度生活福祉資金資金種類別償還状況〕								(単位：千円)		
		償還計画額 A	償還免除額 B	償還予定額 C=A-B	償還済額 D	未償還額 C-D	償還率 D/C %	貸付中 の件数	前年度 償還率%	前年度に対す る比較増減
総合支援資金		53,856	0	53,856	2,972	50,884	5.5	176	7.4	△1.9
福祉 資金	更生資金	37,442	2,005	35,437	1,816	33,621	5.1	103	5.4	△0.3
	障害者更生資金	8,391	0	8,391	414	7,977	4.9	18	7.0	△2.1
	生活資金	2,941	0	2,941	113	2,828	3.8	7	4.5	△0.7
	福祉資金	64,386	189	64,197	25,302	38,895	39.4	422	38.9	0.5
	住宅資金	22,762	0	22,762	1,242	21,520	5.5	50	3.5	2.0
	療養介護等資金	312	0	312	22	290	7.1	7	7.1	0.0
	災害援護資金	2,403	0	2,403	209	2,194	8.7	12	7.1	1.6
	生活復興支援資金	401	0	401	0	401	0	1	2.5	△2.5
	緊急小口資金	34,332	25	34,307	9,348	24,959	27.2	551	30.3	△3.1
小計		173,370	2,219	171,151	38,466	132,685	22.8		21.6	1.2
教育支援資金		146,464	2,377	144,087	35,633	108,454	24.7	1,243	26.6	△1.9
不動産担保型生活資金		0	0	0	0	0	—	4	—	—
要保護世帯向け不動産担保型生活資金		0	0	0	1,500	△1,500	—	13	—	—
離職者支援資金		53,642	3,811	49,831	1,535	48,296	3.1	45	3.6	△0.5
合計		427,332	8,407	418,925	80,106	338,819	19.1	2,652	24.3	△5.2
合計 中	現年度分	76,676	0	76,676	55,328	21,348	72.2		73.0	△0.8
	過年度分	350,656	8,407	342,249	24,778	317,471	7.2		13.2	△6.0
〔令和元年度離職者生活支援つなぎ資金償還状況〕								(単位：千円)		
		償還計画額 A	償還免除額 B	償還予定額 C=A-B	償還済額 D	未償還額 C-D	償還率 D/C %	貸付中 の件数	前年度 償還率%	前年度に対す る比較増減
離職者生活支援つなぎ資金		1,148	0	1,148	171	977	14.9	15	6.7	8.2

	<p>市町村社協を訪問し，管内の借入関係者の状況等について聞き取りを行うとともに，長期滞納者については個別に訪問し，償還等の指導を行った。</p> <p>〈訪問数〉 9市町村社協 39回(39日) 個別訪問関係者延べ300人</p> <p>〔令和元年度個別償還指導実施状況〕</p> <table border="1" data-bbox="680 421 1057 903"> <thead> <tr> <th>面談者区分</th> <th>延べ人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>借受人</td> <td>44</td> </tr> <tr> <td>連帯借受人・連帯保証人</td> <td>11</td> </tr> <tr> <td>借受人の家族</td> <td>32</td> </tr> <tr> <td>市町村社協</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>担当民生委員</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>不在・転居</td> <td>213</td> </tr> <tr> <td>計 (貸付件数)</td> <td>300 (349)</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" data-bbox="1131 421 1538 692"> <thead> <tr> <th>面談結果等(再掲)</th> <th>人数等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>電話連絡あり</td> <td>34人</td> </tr> <tr> <td>入金あり</td> <td>60件</td> </tr> <tr> <td>完済・免除 (うち免除)</td> <td>0件 (0件)</td> </tr> </tbody> </table>	面談者区分	延べ人数	借受人	44	連帯借受人・連帯保証人	11	借受人の家族	32	市町村社協	0	担当民生委員	0	不在・転居	213	計 (貸付件数)	300 (349)	面談結果等(再掲)	人数等	電話連絡あり	34人	入金あり	60件	完済・免除 (うち免除)	0件 (0件)	<p>貸付債権管理についての市町村社協との認識の共有に資するとともに，借受関係者の状況把握と償還意識の喚起が図られた。</p>
面談者区分	延べ人数																									
借受人	44																									
連帯借受人・連帯保証人	11																									
借受人の家族	32																									
市町村社協	0																									
担当民生委員	0																									
不在・転居	213																									
計 (貸付件数)	300 (349)																									
面談結果等(再掲)	人数等																									
電話連絡あり	34人																									
入金あり	60件																									
完済・免除 (うち免除)	0件 (0件)																									
<p>(3) 償還困難案件の適切な処理 償還困難で償還免除の適格要件を具備する債権について，適切な処理を行う。</p>	<p>訪問による償還指導や市町村社協を通じた状況調査等を実施し，借入関係者が死亡するなど免除要件に該当している案件については，償還免除を行い，貸付債権の適切な整理を図った。</p>	<p>〈償還金免除〉…………… 14件 償還元金免除額 8,407,313円 貸付利子免除額 602,467円 延滞利子免除額 14,380,015円 〈延滞利子免除〉…………… 9件 延滞利子免除額 8,407,035円</p>																								
<p>(4) 市町村社協における債権管理の充実 ア 民生委員との連携による不良債権の債務者生活実態の把握 イ 滞納者に対する償還指導</p>	<p>不良債権の回収など市町村社協における債権管理機能を一層強化するため，市町村社協に対し次のとおり助成金を交付した。</p> <p>〈交付社協数〉 34社協 〈交付総額〉 2,400千円</p>																									

X すこやか長寿社会づくり運動の推進		
1	すこやか長寿社会づくり運動の推進	所管部署 長寿社会推進部
令和元年度事業計画	事業実施概要等	具体的成果等
(1) 広報媒体による意識啓発 ア 広報紙「ふくしのひろば」による広報(発行部数:13,700部×6回) イ ホームページによる広報 ウ リーフレットの作成及び配布(作成部数:10,000部) エ ポスターの作成及び配布(作成部数:300部) オ 「老人の日・老人週間」のポスター配布	すこやか長寿社会運動の推進を図るため、次の広報活動を行った。 ① 「ふくしのひろば」による広報(13,700部×6回 2ヶ月に1回) ② ホームページによる広報 ③ リーフレット(10,000部)・ポスター(300部)の作成 配布先:市町村社協, 県・市町村老連, 市町村担当課, 県関係機関, 各種福祉施設等 ④ 「老人の日・老人週間」のポスター配布(100枚)	広報紙等の啓発活動により、定期的・継続的な情報提供ができた。
(2) シルバー文化作品展の開催 ア 展示期間 令和元年9月18日(水)~22日(日) イ 会場 県歴史資料センター黎明館 ウ 対象部門 日本画, 洋画, 書, 工芸, 写真, 彫刻の6部門 エ 出品対象者 県内在住の60歳以上の者 オ 出品料 1,000円 カ その他 施設等での入賞作品の展示	高齢者の趣味活動や文化創作意欲を高めるとともに、高齢者の作品を広く県民に紹介するため、シルバー文化作品展を開催した。 〈部門〉日本画, 洋画, 書, 工芸, 写真, 彫刻 〈会場〉県歴史資料センター 黎明館 〈会期〉令和元年9月18日(水)~22日(日) 〈出品数〉日本画31点, 洋画93点, 書37点, 工芸52点, 写真 35点, 彫刻16点 計 264点 〈入場者数〉2,156人 〈表彰〉(88点) 県知事賞 1点(洋画) 特別賞(寺園勝志賞) 1点(写真) 県社会福祉協議会会長賞 6点(各部門1点) ねんりんピック鹿児島メリアル賞 6点(各部門1点) 審査委員長賞 5点 金賞 13点 銀賞 15点 銅賞 17点 奨励賞 18点	高齢者の趣味活動や文化創作意欲を高めるとともに、幅広い世代にすこやか長寿社会運動をPRすることができた。 H30年度出品数 275点 対前年度比 96.0% H30年度入場者数 2,689人 対前年度比 80.2%

	<p>高齢者賞 6点 (各部門1点) 〈入賞作品の貸出〉 作品展の入賞者に対し、福祉施設等への展示依頼を行い、施設等の入所者等に作品鑑賞機会を提供した。(貸出…14点)</p>																																																																																																																						
<p>(3) いきいきシルバースポーツ大会の実施 ア 実施か所 県下7地区 イ 実施方法 県老人クラブ連合会に委託</p>	<p>高齢者の心身の健康と生きがいの助長を図るとともに、高齢者に対する地域住民の理解と関心を高めるため、県老人クラブ連合会に事業の実施を委託してシルバースポーツ大会を実施した。 〈開催時期〉令和元年6月～12月 〈開催場所〉県下7地区 (鹿児島、南薩、北薩、始良・伊佐、大隅、熊毛、大島) 〈参加者数〉9,025人</p>	<p>高齢者の健康づくりに資することができた。 H30年度参加者数 8,738人 対前年比 103.3%</p>																																																																																																																					
<p>(4) 全国健康福祉祭派遣事業 ア 派遣期間 令和元年11月9日(土)～12日(火) イ 派遣地 和歌山県(9市12町) ウ 派遣人員 約152人</p>	<p>高齢者の健康と福祉に関する総合的な普及啓発イベントである「第32回全国健康福祉祭和歌山大会(ねんりんピック紀の国わかやま2019)」に選手を派遣した。 〈主催〉厚生労働省、和歌山県、(一財)長寿社会開発センター 〈会期〉令和元年11月9日(土)～12日(火) 〈開催地〉和歌山県内9市7町 〈参加イベント〉総合開・閉会式、スポーツ交流大会、ふれあいスポーツ交流大会、文化交流大会、美術展 〈参加競技種目と派遣選手〉</p>	<p>22種目に選手・役員158人を派遣した。 他県選手との交流を深めるとともに、各競技で優秀な成績を収めることができ、すこやかで心豊かな長寿社会の形成に大いに寄与することができた。</p>																																																																																																																					
<p>派遣人員：選手・監督149人(22種目25チーム)及び役員等9人 合計158人</p>																																																																																																																							
<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="3">スポーツ交流大会</th> <th colspan="3">ふれあいスポーツ交流大会</th> <th colspan="3">文化交流大会</th> </tr> <tr> <th>種目</th> <th>チーム数</th> <th>選手等数</th> <th>種目</th> <th>チーム数</th> <th>選手等数</th> <th>種目</th> <th>チーム数</th> <th>選手等数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>卓球</td> <td>1</td> <td>7</td> <td>水泳</td> <td>1</td> <td>8</td> <td>囲碁</td> <td>1</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>テニス</td> <td>1</td> <td>7</td> <td>グラウンド・ゴルフ</td> <td>1</td> <td>6</td> <td>将棋</td> <td>1</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>ソフトテニス</td> <td>1</td> <td>6</td> <td>ボウリング</td> <td>2</td> <td>4</td> <td>民謡</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>ソフトボール</td> <td>1</td> <td>14</td> <td>サッカー</td> <td>1</td> <td>17</td> <td>健康マージャン</td> <td>1</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>ゲートボール</td> <td>3</td> <td>16</td> <td>ソフトバレーボール</td> <td>1</td> <td>9</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ペタンク</td> <td>1</td> <td>3</td> <td>ウォークラリー</td> <td>1</td> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ゴルフ</td> <td>1</td> <td>3</td> <td>太極拳</td> <td>1</td> <td>7</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>マラソン</td> <td>1</td> <td>6</td> <td>ダンススポーツ</td> <td>1</td> <td>8</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>弓道</td> <td>1</td> <td>7</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>剣道</td> <td>1</td> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>計(10)</td> <td>12</td> <td>74</td> <td>計(8)</td> <td>9</td> <td>64</td> <td>計(4)</td> <td>4</td> <td>11</td> </tr> </tbody> </table>			スポーツ交流大会			ふれあいスポーツ交流大会			文化交流大会			種目	チーム数	選手等数	種目	チーム数	選手等数	種目	チーム数	選手等数	卓球	1	7	水泳	1	8	囲碁	1	3	テニス	1	7	グラウンド・ゴルフ	1	6	将棋	1	3	ソフトテニス	1	6	ボウリング	2	4	民謡	1	1	ソフトボール	1	14	サッカー	1	17	健康マージャン	1	4	ゲートボール	3	16	ソフトバレーボール	1	9				ペタンク	1	3	ウォークラリー	1	5				ゴルフ	1	3	太極拳	1	7				マラソン	1	6	ダンススポーツ	1	8				弓道	1	7							剣道	1	5							計(10)	12	74	計(8)	9	64	計(4)	4	11
スポーツ交流大会			ふれあいスポーツ交流大会			文化交流大会																																																																																																																	
種目	チーム数	選手等数	種目	チーム数	選手等数	種目	チーム数	選手等数																																																																																																															
卓球	1	7	水泳	1	8	囲碁	1	3																																																																																																															
テニス	1	7	グラウンド・ゴルフ	1	6	将棋	1	3																																																																																																															
ソフトテニス	1	6	ボウリング	2	4	民謡	1	1																																																																																																															
ソフトボール	1	14	サッカー	1	17	健康マージャン	1	4																																																																																																															
ゲートボール	3	16	ソフトバレーボール	1	9																																																																																																																		
ペタンク	1	3	ウォークラリー	1	5																																																																																																																		
ゴルフ	1	3	太極拳	1	7																																																																																																																		
マラソン	1	6	ダンススポーツ	1	8																																																																																																																		
弓道	1	7																																																																																																																					
剣道	1	5																																																																																																																					
計(10)	12	74	計(8)	9	64	計(4)	4	11																																																																																																															

1	すこやか長寿社会づくり運動の推進	所管部署	長寿社会推進部
令和元年度事業計画		事業実施概要等	
		具体的成果等	
	<p>〈美術展への出品〉 平成30年度シルバー文化作品展の上位入賞作品(各部門)をねんりんピック紀の国わかやま2019美術展へ出品した。</p> <p>会場 和歌山県民文化会館ほか 出品数 12点(日本画2, 洋画2, 書2, 工芸2, 写真2, 彫刻2) 期間 11月9日(土)~12日(火)</p> <p>〈各競技種目の主な成績〉</p> <p>団体戦 優勝: ゲートボール(かじか) サッカー 準優勝: なし 第3位: ダンススポーツ</p> <p>個人戦 優勝: 水泳自由形(男/50m・男/25m) 水泳背泳ぎ(女/50m・女/25m) 水泳バタフライ(女/25m) 準優勝: 水泳背泳ぎ(男/50m) マラソン(男/10km) 第3位: 水泳自由形(男/25m) 水泳背泳ぎ(男/25m) 水泳バタフライ(女/50m) マラソン(男/5km)</p> <p>美術展 入賞者なし</p>		
<p>(5) 高齢者による社会参加活動の促進</p> <p>ア 企業退職者等を含む高齢者活動の支援</p> <p>イ 世代間交流機会等の提供</p>	<p>高齢者による社会参加活動を支援するため、活動機会や活動情報の提供等を行った。</p> <p>ア 企業・団体等の退職者をはじめとしたシニア世代向けの講座を実施した。(県ボランティアセンターとの共催講座)</p> <p>〈開催日〉令和元年12月5日(木) 〈会場〉鹿児島市民文化ホール 〈人数〉35人</p> <p>イ 元気高齢者と児童・生徒等の異なる世代とふれ合う機会を提供するため、自主活動グループの支援を行った。</p> <p>(7) 鹿児島県おもちゃ病院連絡協議会 定例研修会会場の無償提供(年1回) 「鹿児島県おもちゃ病院連絡協議会だより」の発行</p> <p>(1) 読み聞かせの会「たけとんぼ」 定例研修会会場の無償提供(年5回)</p>	<p>社会参加活動希望者に対する活動機会の提供や活動情報の収集・発信等により、高齢者による社会参加活動の促進が図られ、地域活動の活性化に資することができた。</p>	

<p>ウ 社会参加活動希望者への情報提供等の支援</p>	<p>ウ 高齢者の社会参加活動を通じた生きがいづくりの促進を図るため、「社会参加を希望するシニア世代」と「活動の場となる市町村・団体等」のニーズのマッチングを行った。 (ア) 「いきいきシニア人材バンク」の広報 (イ) 登録件数103件（個人87件，団体16件） 【活動実績】</p> <table border="1" data-bbox="696 363 1989 699"> <thead> <tr> <th>行事名</th> <th>活動内容</th> <th>日程</th> <th>ボランティア人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第28回シルバー文化作品展</td> <td>作品搬入・審査会・表彰式等に係る補助</td> <td>令和元年9月13日・14日・22日</td> <td>18人</td> </tr> <tr> <td>かごしまシニア人材育成活用事業</td> <td>受付</td> <td>始良・伊佐地域：令和元年8月27～29日 曾於地域：令和元年11月13～15日 大島地域：令和元年12月11～13日</td> <td>2人 1人 5人</td> </tr> <tr> <td>鹿児島県地域福祉推進大会</td> <td>受付・会場誘導等</td> <td>令和元年10月29日</td> <td>10人</td> </tr> <tr> <td>ふれあい・いきいきサロン合同研究集会inかごしま</td> <td>受付・会場誘導等</td> <td>令和2年2月18日</td> <td>9人</td> </tr> <tr> <td colspan="3" style="text-align: center;">合 計</td> <td>45人</td> </tr> </tbody> </table>	行事名	活動内容	日程	ボランティア人数	第28回シルバー文化作品展	作品搬入・審査会・表彰式等に係る補助	令和元年9月13日・14日・22日	18人	かごしまシニア人材育成活用事業	受付	始良・伊佐地域：令和元年8月27～29日 曾於地域：令和元年11月13～15日 大島地域：令和元年12月11～13日	2人 1人 5人	鹿児島県地域福祉推進大会	受付・会場誘導等	令和元年10月29日	10人	ふれあい・いきいきサロン合同研究集会inかごしま	受付・会場誘導等	令和2年2月18日	9人	合 計			45人	
行事名	活動内容	日程	ボランティア人数																							
第28回シルバー文化作品展	作品搬入・審査会・表彰式等に係る補助	令和元年9月13日・14日・22日	18人																							
かごしまシニア人材育成活用事業	受付	始良・伊佐地域：令和元年8月27～29日 曾於地域：令和元年11月13～15日 大島地域：令和元年12月11～13日	2人 1人 5人																							
鹿児島県地域福祉推進大会	受付・会場誘導等	令和元年10月29日	10人																							
ふれあい・いきいきサロン合同研究集会inかごしま	受付・会場誘導等	令和2年2月18日	9人																							
合 計			45人																							

2	<p>新 かごしまシニア人材育成活用事業</p>	所管部署	長寿社会推進部																
<p>(1) 研修・講座の運営 ア 基礎研修 イ 人材育成講座 ウ 実践研修</p>	<p>地域活動に意欲のある高齢者の社会参加を図るため、必要な知識を習得する機会を提供し、人材育成を行うほか、地域が行う人材育成及び活用の体制づくりを支援するため、下記3地域で研修・講座を実施した。</p> <table border="1" data-bbox="696 1074 1989 1398"> <thead> <tr> <th>実施内容 開催地域・日程</th> <th>基礎研修</th> <th>人材育成講座 1日目</th> <th>実践研修 人材育成講座2日目</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>始良・伊佐地域 令和元年8月27～29日</td> <td>14人</td> <td>18人</td> <td>行政・社協：14人 高齢者：19人</td> </tr> <tr> <td>曾於地域 令和元年11月13～15日</td> <td>12人</td> <td>11人</td> <td>行政・社協：12人 高齢者：14人</td> </tr> <tr> <td>大島地域 令和元年12月11～13日</td> <td>19人</td> <td>23人</td> <td>行政・社協：20人 高齢者：18人</td> </tr> </tbody> </table>	実施内容 開催地域・日程	基礎研修	人材育成講座 1日目	実践研修 人材育成講座2日目	始良・伊佐地域 令和元年8月27～29日	14人	18人	行政・社協：14人 高齢者：19人	曾於地域 令和元年11月13～15日	12人	11人	行政・社協：12人 高齢者：14人	大島地域 令和元年12月11～13日	19人	23人	行政・社協：20人 高齢者：18人		<p>地域リーダーとなる高齢者に対して、講座受講の機会を提供すると同時に、市町村行政職員及び市町村社会福祉協議会職員を対象にシニア人材の育成・活用に必要な研修の機会を提供することで、地域の実情に応じた活動の実践につなげることができた。</p>
実施内容 開催地域・日程	基礎研修	人材育成講座 1日目	実践研修 人材育成講座2日目																
始良・伊佐地域 令和元年8月27～29日	14人	18人	行政・社協：14人 高齢者：19人																
曾於地域 令和元年11月13～15日	12人	11人	行政・社協：12人 高齢者：14人																
大島地域 令和元年12月11～13日	19人	23人	行政・社協：20人 高齢者：18人																

XI 県社会福祉センターの管理・運営																																																				
1 県社会福祉センターの整備及び維持管理，利用促進等							所管部署	総務部																																												
令和元年度事業計画			事業実施概要等				具体的成果等																																													
(1) 県社会福祉センターの維持管理（緊急を要する修繕工事のほか，法令等に基づく設備等の更新・改修工事等を含む）			<p>民間社会福祉団体の活動拠点施設として，適切かつ効率的な管理運営に努め利用促進等を図った。</p> <p>① 法定による保守点検等の実施と届出 「建築物における衛生的環境の確保に関する法律」に基づく保守点検及び消防用設備等の必要な維持管理を行った。</p> <p>② 施設整備（小規模修繕は除く）</p> <p>(1) 宿泊入口自動ドア修理工事 (2) 案内板等改修工事 (3) 社会福祉センター別館前舗装工事 (4) 大会議室LEDランプ取替・配線替工事 (5) 県社会福祉センター空調設備改修工事（関連工事含む） (6) 県社会福祉センター別館空調設備改修工事</p>				<p>経年劣化等に伴う不具合等については速やかに修繕を行うとともに，更新が必要な設備の調査等を適宜行うなど館利用者等の利便性向上に寄与した。</p>																																													
										<p>(2) 会議室，宿泊室の利用促進</p> <p>① 本会ホームページの掲載内容見直しのほか，来館者に県社会福祉センターのリーフレットやチラシ「宿泊室のご案内」を作成し配布するなど，会議室・宿泊室の利用促進を図った。 なお，会議室及び宿泊室の利用状況は下表のとおり。 〔会議室の利用状況〕</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="2">福祉関係</th> <th colspan="2">一般</th> <th colspan="2">合計</th> <th rowspan="2">対30年度 回数比較</th> <th rowspan="2">対30年度 金額比較</th> </tr> <tr> <th>回数</th> <th>金額（円）</th> <th>回数</th> <th>金額（円）</th> <th>回数</th> <th>金額（円）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成30年度</td> <td>445</td> <td>2,510,040</td> <td>206</td> <td>1,538,650</td> <td>651</td> <td>4,048,690</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>令和元年度</td> <td>394</td> <td>2,179,980</td> <td>154</td> <td>1,075,330</td> <td>548</td> <td>3,255,310</td> <td>84.2%</td> <td>80.4%</td> </tr> </tbody> </table> <p>〔宿泊施設利用状況〕</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="2">合計</th> <th rowspan="2">対30年度 人員比較</th> <th rowspan="2">対30年度 金額比較</th> </tr> <tr> <th>人員</th> <th>金額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成30年度</td> <td>751</td> <td>2,027,150</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>令和元年度</td> <td>767</td> <td>2,030,250</td> <td>102.1%</td> <td>100.2%</td> </tr> </tbody> </table>			区分	福祉関係		一般		合計		対30年度 回数比較	対30年度 金額比較	回数	金額（円）	回数	金額（円）	回数	金額（円）	平成30年度	445	2,510,040	206	1,538,650	651	4,048,690	—	—	令和元年度	394	2,179,980	154	1,075,330	548	3,255,310	84.2%	80.4%	区分	合計		対30年度 人員比較	対30年度 金額比較	人員	金額
区分	福祉関係		一般		合計		対30年度 回数比較	対30年度 金額比較																																												
	回数	金額（円）	回数	金額（円）	回数	金額（円）																																														
平成30年度	445	2,510,040	206	1,538,650	651	4,048,690	—	—																																												
令和元年度	394	2,179,980	154	1,075,330	548	3,255,310	84.2%	80.4%																																												
区分	合計		対30年度 人員比較	対30年度 金額比較																																																
	人員	金額																																																		
平成30年度	751	2,027,150	—	—																																																
令和元年度	767	2,030,250	102.1%	100.2%																																																
(3) 省エネルギー対策の推進			<p>① 休憩時間における照明の消灯やクールビズ・ウォームビズによる空調機器利用抑制等の省エネルギー対策を推進した。</p> <p>② 県社会福祉センター会議室1室の照明器具をLED照明に改修するなど，消費電力の低減に努めた。</p> <p>③ 空調設備更新により，空調運転に係る消費電力の低減やボイラー（A重油）不使用化によりCo2排出削減に努めた。</p>				<p>会議室利用は空調設備改修工事に伴う利用制限やコロナウイルス感染拡大防止による会議・研修等の中止により約2割減少となった。</p> <p>ハードとソフト両面からの省エネ対策を推進することで，職員の省エネに対する意識の向上につながった。</p>																																													

(4) 入居団体との連絡調整	県社会福祉センターにおける消防訓練（同時訓練）の実施など共通して取り組むべきこと及び県社会福祉センターの管理運営上協力が必要な事項や工事に関する事等について、随時入居団体と連絡調整を行った。	入居団体及び県青少年会館と連携することで、同一敷地内に勤務する全ての職員の防災意識等の向上や連携・協力体制の構築に資することができた。
----------------	---	---

Ⅺ 地域医療介護総合確保基金事業の推進																							
1 介護の仕事理解促進事業	所管部署 介護実習・普及センターほか																						
令和元年度事業計画	事業実施概要等				具体的成果等																		
(1) 地域ジュニア福祉体験教室開催事業 高齢者疑似体験, 車いす体験, ユニバーサルデザイン・自助具体験の実施 ア 実施数 31か所程度 イ 実施場所 離島及び鹿児島市から遠隔地の小・中学校, 高等学校, 専門学校	遠隔地等の小・中学校, 高等学校を訪問して, 福祉体験教室を開催した。児童・生徒の高齢者や障害のある人に対する理解促進並びに福祉の心の涵養を図り, 将来の介護の担い手育成に資することを目的に高齢者疑似体験・車いす体験・ユニバーサルデザイン及び自助具体験を行った。 ※新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため1箇所中止 <table border="1" data-bbox="651 877 1568 1085"> <thead> <tr> <th>実施期間</th> <th>区分</th> <th>学校数</th> <th>参加者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">令和元年 6月20日 、 令和2年 2月21日</td> <td>小学校</td> <td>24校</td> <td>617人</td> </tr> <tr> <td>小・中併設校</td> <td>1校</td> <td>22人</td> </tr> <tr> <td>中学校</td> <td>5校</td> <td>236人</td> </tr> <tr> <td>高等学校</td> <td>1校</td> <td>42人</td> </tr> <tr> <td></td> <td>合計</td> <td>31校</td> <td>917人</td> </tr> </tbody> </table>	実施期間	区分	学校数	参加者数	令和元年 6月20日 、 令和2年 2月21日	小学校	24校	617人	小・中併設校	1校	22人	中学校	5校	236人	高等学校	1校	42人		合計	31校	917人	① 児童・生徒に, 介護等の体験が出来る場を広く提供することにより, 福祉に対する理解が深まり, 高齢者等に対しての思いやりの心の醸成につながった。 ② 児童・生徒の介護の仕事への理解と関心を高めることができた。 ③ 教育現場における福祉体験活動の普及が図られた。
実施期間	区分	学校数	参加者数																				
令和元年 6月20日 、 令和2年 2月21日	小学校	24校	617人																				
	小・中併設校	1校	22人																				
	中学校	5校	236人																				
	高等学校	1校	42人																				
	合計	31校	917人																				
(2) 未来の福祉・介護担い手スタートアップ事業 ア 小中高校及び介護事業所等のマッチングを実施。 イ 「小中高校生等と介護事業所の職員等との相互訪問」を10回程度実施。	子どもたちの福祉・介護の職場への興味や関心を高めるため, 小・中・高校や介護事業所において, 介護に関する体験学習等を実施した。 実施校数 14校 (小学校6, 中学校7, 高等学校1) 参加児童・生徒数 585人 協力事業所数 27事業所 <table border="1" data-bbox="651 1260 1568 1439"> <tbody> <tr> <td>特別養護老人ホーム</td> <td>10</td> <td>介護老人保健施設</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>養護老人ホーム</td> <td>1</td> <td>有料老人ホーム</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>デイサービス</td> <td>3</td> <td>ショートステイ</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>グループホーム</td> <td>5</td> <td>障害者通所施設</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>社協</td> <td>2</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	特別養護老人ホーム	10	介護老人保健施設	3	養護老人ホーム	1	有料老人ホーム	1	デイサービス	3	ショートステイ	1	グループホーム	5	障害者通所施設	1	社協	2			福祉・介護の職場に興味を持つ機会をつくることで, 将来一人でも多くの小中高校生が福祉・介護分野で活躍することへの希望をもってもらえるよう, 小・中・高校生の理解を促進することに資することができた。	
特別養護老人ホーム	10	介護老人保健施設	3																				
養護老人ホーム	1	有料老人ホーム	1																				
デイサービス	3	ショートステイ	1																				
グループホーム	5	障害者通所施設	1																				
社協	2																						

1	介護の仕事理解促進事業	所管部署	介護実習・普及センターほか																					
令和元年度事業計画		事業実施概要等																						
		事業実施概要等																						
		具体的成果等																						
<p>(3) 介護教室派遣事業 県内の事業所や各種団体等に理学療法士，作業療法士，認知症介護指導者，社会福祉士等の専門家講師を派遣する ア 派遣数 22箇所程度 イ 研修内容 (ア) 介護保険制度と福祉用具について (イ) 起居移乗の介助方法 (ウ) 着替え・入浴・排泄の介助方法 (エ) 食事の介助方法 (オ) 認知症について など</p>	<p>企業等における介護離職の防止や就労の継続を図るとともに，地域における福祉人材の育成・確保につなげるため，県内の事業所や団体等に，福祉・介護・医療の専門家講師を派遣し，介護教室を開催した。 〈実施期間〉令和元年9月10日～令和2年3月17日 ※新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため1箇所中止</p>	<p>介護の基礎的知識や技術を習得出来る機会を身近な場所で提供することにより，介護は社会全体で支えるものという考え方の醸成が図られ，介護と仕事の両立並びに地域の介護人材の育成に資することができた。</p>																						
	<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="651 440 1267 504">講座名</th> <th data-bbox="1267 440 1417 504">箇所数 (箇所)</th> <th data-bbox="1417 440 1568 504">参加者数 (人)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="651 504 1267 536">基本を知ろう！在宅介護の基礎</td> <td data-bbox="1267 504 1417 536">3</td> <td data-bbox="1417 504 1568 536">130</td> </tr> <tr> <td data-bbox="651 536 1267 568">知って安心！介護保険と福祉用具の利用方法</td> <td data-bbox="1267 536 1417 568">4</td> <td data-bbox="1417 536 1568 568">72</td> </tr> <tr> <td data-bbox="651 568 1267 600">認知症って？認知症の理解と対応</td> <td data-bbox="1267 568 1417 600">6</td> <td data-bbox="1417 568 1568 600">269</td> </tr> <tr> <td data-bbox="651 600 1267 632">お口のケアと飲み込む体操</td> <td data-bbox="1267 600 1417 632">2</td> <td data-bbox="1417 600 1568 632">49</td> </tr> <tr> <td data-bbox="651 632 1267 663">健康寿命を延ばす足腰げんき体操</td> <td data-bbox="1267 632 1417 663">6</td> <td data-bbox="1417 632 1568 663">159</td> </tr> <tr> <td data-bbox="651 663 1267 695">計</td> <td data-bbox="1267 663 1417 695">21</td> <td data-bbox="1417 663 1568 695">679</td> </tr> </tbody> </table>			講座名	箇所数 (箇所)	参加者数 (人)	基本を知ろう！在宅介護の基礎	3	130	知って安心！介護保険と福祉用具の利用方法	4	72	認知症って？認知症の理解と対応	6	269	お口のケアと飲み込む体操	2	49	健康寿命を延ばす足腰げんき体操	6	159	計	21	679
	講座名			箇所数 (箇所)	参加者数 (人)																			
	基本を知ろう！在宅介護の基礎			3	130																			
	知って安心！介護保険と福祉用具の利用方法			4	72																			
	認知症って？認知症の理解と対応			6	269																			
	お口のケアと飲み込む体操			2	49																			
健康寿命を延ばす足腰げんき体操	6	159																						
計	21	679																						
2	介護職員チームリーダー養成研修支援事業	所管部署	福祉人材・研修センター																					
<p>県内各地域での研修支援 県社協に申込のあった介護事業所等のうちから，15箇所程度（同一地域原則2回開催）を決定して実施</p>	<p>新人職員の定着と質の高い介護サービスの提供を促すため，介護事業所に勤務する中堅職員等を対象に新人職員への指導方法等も含めたスキルアップ研修を実施した。 研修実施箇所 23か所（離島5か所） 研修実施回数 38回 参加事業所数 151事業所 研修参加人数 1,121人（研修会1回当たり参加人数約29名）</p>	<p>介護事業所に勤務する中堅職員等を対象に，開催地ごとの要望に応じた研修や新人職員への指導方法等も含めたスキルアップ研修を実施することにより，質の高い介護サービスの提供や新人職員の定着等に資することができた。</p>																						
3	元気高齢者等介護職場インターンシップ事業	所管部署	ボランティアセンター																					
<p>(1) 実施箇所 県内11高齢者保健福祉圏域 (2) 受入施設 特養，老健，養護，軽費老人ホーム等の高齢者福祉施設 (3) 体験期間 5日間（補助・軽作業中心）</p>	<p>高齢者等の就労機会を創出するとともに介護従事者の確保を図るため，元気な高齢者等が福祉の現場において貴重な担い手として活躍できるように，職場体験を通じた就労支援を次のとおり行った。 実施方法としては，県内11か所の高齢者保健福祉圏域ごとに拠点社協を配置し，職場体験者の募集，職場体験プログラム（1日3時間を5日間）の実施，就労希望調査等の実施など前年度と同じであるが，職場体験の受入介護施設については，従前からの特別養護老人ホーム，介護老人保健施設，養護老人ホーム，軽費老人ホームに，グループホームが新たに加わり5種類となった。</p>	<p>応募者目標100人に対して応募人数97人（前年度比22人増），受入施設20施設に対して93施設（前年度比41増），体験人数85人（前年度比16人増）のうち採用人数が21人（前年度比2人増）となるなど前年度を上回る結果となった。 また，前年度と同様に，受入</p>																						

- ① 受入対象施設への説明会
 鹿児島市(5/27),いちき串木野市(5/15),南さつま市(5/14)
 薩摩川内市(5/23),出水市(5/20),霧島市(5/21),
 曾於市(5/24),鹿屋市(5/16),中種子町(5/28),
 奄美市(5/31),与論町(5/30)の11か所で開催し,
 136施設149人の出席
- ② 実施箇所, 応募・体験人数及び受入施設等

承諾施設として参加する施設が多かったことから, 介護関係施設の人材確保のニーズの高さがうかがえた。

	圏域	拠点社協	応募人数	体験人数	受入承諾施設数及び種別内訳						体験プログラム
					施設合計	特養	老健	養老	軽老	グループホーム	
1	鹿児島(東部)	鹿児島市	14	9	8	2	3	1	0	2	体験プログラムは, 概ね次のような内容で, 1日3時間, 概ね2週間以内に5日間の体験を実施した。 (1日目又は2日目まで) 事業説明や体験先施設の紹介, 福祉制度や生活介護の心得等 (2日目又3日目から5日目まで) 介護業務の周辺作業や軽作業等を中心とした介護施設での職場体験, 就労意向調査等
2	鹿児島(西部)	いちき串木野市	9	9	11	2	3	0	1	5	
3	南薩	南さつま市	14	12	18	5	5	0	1	7	
4	川薩	薩摩川内市	13	11	8	3	1	1	0	3	
5	出水	長島町	4	4	9	2	2	0	0	5	
6	始良・伊佐	霧島市	25	25	11	2	2	0	0	7	
7	曾於	曾於市	4	4	4	1	2	0	0	1	
8	肝属	鹿屋市	10	10	12	3	1	0	1	7	
9	熊毛	南種子町	1	0	3	3	0	0	0	0	
10	奄美(北部)	奄美市	2	1	3	1	2	0	0	0	
11	奄美(南部)	与論町	1	0	6	2	1	1	0	2	
合計			97	85	93	26	22	3	3	39	

- ③ 体験者募集のための広報活動
- ア 県社協においては, 南日本新聞生活情報誌「ていーたいむ」の9月号と10月号への広告掲載, 同新聞「みなみのひろば」への募集記事の随時掲載, 県社協ホームページへの掲載のほか, 募集チラシを次の関係機関・団体を通じて幅広く配布した。
- (ア) 県アクティブシニア活躍推進協議会の研修や介護講座等
 (イ) 県年金協会会員へのチラシの郵送
 (ウ) その他ねんりん大学卒業生や介護の入門的研修受講生へのチラシ配布
- イ 拠点社協(市町村社協)においては, 回覧板や使送便等による全戸配布, 社協だよりや防災無線, 地元ケーブルテレビ等を活用した募集を行った。

3	元気高齢者等介護職場インターンシップ事業	所管部署	ボランティアセンター
令和元年度事業計画		事業実施概要等	
		具体的成果等	
4	離職介護職員の登録促進事業	所管部署	福祉人材・研修センター
<p>(1) 届出制度に関する相談及び問合せ対応</p> <p>(2) 市町村社協、介護事業所、養成校等におけるポスター、リーフレット等を活用した周知広報</p> <p>(3) 届出システムの運用及び届出情報の管理</p> <p>(4) インターネット利用環境にない者の届出の受付及びシステム入力</p> <p>(5) 届出システムと福祉人材情報システム等との連携等</p>	<p>① 届出制度に関する相談対応(17箇所) 市町村社協、養成校等を訪問し、「求職者用システム活用マニュアル」やチラシを用いたインターネットによる登録方法を説明した際、登録のための相談・サポートを実施した。</p> <p>② リーフレット等を活用した周知広報(251箇所) 当協議会が作成した福祉人材無料職業紹介所の周知用チラシ及び中央人材センターが作成したリーフレットを配布し、「介護福祉士の資格等取得者の届出制度」の周知を図った。</p> <p>③ 届出システムの運用及び届出を促進するための取組 ・届出者マイページ利用登録等の方法等を内容とする「福祉のお仕事インターネット利用チラシ」を作成した。 (3,000枚) ・市町村社協、養成校等を訪問し、「求職者用システム活用マニュアル」やチラシを用いたインターネットによる登録方法の説明及び登録のサポートを実施するとともに、インターネット環境にない方からの届出票提出による福祉人材情報システムへの代行入力を行った。</p> <p>④ 届出システムと福祉人材情報システム等との連携等(32件) 届出者等に対し、就職面談会やセミナー等の開催に関する情報提供などを行った。</p>		<p>登録者が離職した場合に、登録情報を基にした就業支援を行うことで、再就業の促進が期待できる。</p> <p>令和元年度 新規登録者数 154人 (内訳) 本人登録 116人 代行登録 38人</p> <p>(参考：登録者数) 平成29年度末 登録者数269人 平成30年度末 登録者数502人 令和元年度末 登録者数638人 (令和元年度登録抹消者数18人)</p>

5	新 介護の入門的研修事業	所管部署	福祉人材・研修センター
令和元年度事業計画		事業実施概要等	
		具体的成果等	
<p>(1) 介護の入門的研修の実施</p> <p>ア 実施箇所 県内7箇所</p> <p>イ 対象者 定年退職予定者, 中高年齢者, 子育てが一段落した者など</p> <p>ウ 研修時間 21時間(7時間×3日間)</p> <p>エ 研修内容 基礎知識, 認知症・障害への理解, 基本的な介護の方法など</p> <p>(2) 研修終了者へのフォローアップ</p> <p>就労を希望する者に対する就職支援</p>	<p>① 介護の入門的研修の実施</p> <p>〈実施箇所〉 県内7箇所</p> <p>〈参加者数〉 受講者数 163名(修了者数153名)</p> <p>〈研修時間〉 21時間(1地区7時間×3日間)</p> <p>〈研修内容〉 基礎知識, 認知症・障害への理解, 基本的な介護の方法など</p> <p>② 研修終了者へのフォローアップ</p> <p>就労を希望する者に対する就職支援</p> <p>求職票提出者数 13名</p> <p>届出票提出者数 93名</p> <p>就労決定者数 3名</p>		<p>介護未経験者が, 介護の業務に携わる上で, 知っておくべき基本的な介護技術を内容とする入門的研修の実施により, 介護業務に携わる上での不安を払拭し, 介護分野への参入のきっかけづくりを行うとともに, 多様な人材の参入の促進が期待できる。</p>